### 運命がぶち壊れた物語

東方人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト http://pdfnovels.net/

### 注意事項

は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ 囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範 テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。 この小説の著作権は小説の作者にあります。 このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ 小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。 そのため、作者また

【小説タイトル】

運命がぶち壊れた物語

【作者名】

東方人

【あらすじ】

とがある。 人とは、 他人の言葉や行動によってその価値観や性格が変わるこ

それが、空っぽの人形だったら尚更だ。

これは『 性格が、 に行動するため、 原作とはほど遠く捩れてしまった物語。 人 の行動によってある意味満たされてしまった人形の すでに大前提は覆されている。 人形が思うがまま

ネタを口にしながら無表情。 人公、黒幕の存在しないはずの独自設定ありの原作再構成物語。 そんなフェイト・アー ウェルクスが主

本来の主人公達との温度差が激しいのはご愛嬌。

運命はすでに変わっている始まりはいつも唐突に。

5/9 に、あらすじを変更。

# 身体はネタで出来ている (前書き)

空間さ。 はしない方がいい」 で君は勇者だよ。でも、ここから先は勇気だけでは進めないカオス 目が腐らないように慎重に進むといい。 ..... やあ、 来てしまったんだね。まずここまで開いた段階 ただ、過度な期待

理想を抱いて溺死する羽目になるからね」

パソコンで錬鉄の英雄の最後を読み進めながら。 F a t e A v e r u n C u s

## Part1 身体はネタで出来ている

Fate Averruncus side

たんだと思う。 ..... 多分、 物語が狂いだしたのは、 この男の気まぐれから始まっ

にしかならないから、ちょっと英雄の息子の実力でも見極めてこい」 「このままだとお前完全に『 N = E + Iか 7 N i c e b 0 a t

とでも言わんばかりに手を振って。 唐突にデュナミスが投げやりに言った。 「あっち行けシッシッ」

人のことを、いや、僕人形だけどさ。

時はこっち向けよ。 いきなり蓬莱人や生首扱いするのは酷くないだろうか。 いつまで漫画読んでるのさ。 あと話す

彼の言葉を頭の中で繰り返す。 デュナミスの態度に軽く舌打ちしつつ、 読みかけの漫画を閉じて、

極めてこい』とさっきまで読んでいた漫画のコマの間をテロップの ように流れていく。 このままだと (以下略) ちょっと英雄の息子の実力でも見

ん ? 9 英雄の息子の実力でも見極めて

6

英雄の息子? .....息子?

き翼。 のは二人しかいないからすぐに分かる。 の中の誰かの『息子』 ちょっと待とうか。 というわけだ。 整理しよう。 実際あの中で既婚者な 英 雄 : . . . つまり

青山詠春か......ナギ・スプリングフィ ルド、 か : :

「千の呪文の男の方な」
「サムライマスターのほ

くれよ。 最後まで言わせろよコノヤロウ。 ちょっとぐらい現実逃避させて

夢見たってい いじゃないか....ッ 娘の方でい いじゃないか..

の男の話によると、 いからな。 「サムライマスターの意向で娘には魔法の存在を教えていないらし 実力も何もないだろう。それに千の呪文の男の息子はあ 性格は似ていないらしいぞ?」

「そんな気休めはドブに捨ててしまえ」

ド ン引きなんだよ。 ナギ・スプリングフィ ルドの血を引いてる時点で、 僕はすでに

ないかい? すっごい嫌なんだけど。 出会い頭に『千の雷』 とかしてくるんじ

Ķ なんて正直『千の雷』 現にされたし。 何無詠唱使ってるんだよ何がギガデインだよお前は勇者かッ ナギ・スプリングフィー ルドとの初顔合わせの の稲光しか覚えてないし。 ちゃ んと詠唱しる 時

「何をぶつぶつ呟いている?」

主にあの場に連行してくれやがったデュナミスに対する呪詛とか」 なにそれこわい」

思考を再開して右手で顎を撫でる。 デュナミス何か言っているが僕はそれを無視した。 視界から外し、

すことは出来ないだろうか。 ......くそ。メチャクチャ行きたくないぞ。どうにかして話を逸ら

脳内に浮かんだカードは三枚。

妙に真新しいカードを捲ってみると、全体的に緑色のカードで、

書かれているのは『命令実行』の四文字。

で燃やす。 いやだから行きたくないんだって。 僕はそのカードをガスバ

ん ? ちょ、 いきなりガスバーナー など持ち出してどうし 何漫画燃やしてんのオオオオ!?」 アーツ!

るූ えてしまっているカードだ。 二枚目はなんだか使い回されたように四方が剥げて白い部分が見 捲ってみると『拒否権』と書かれてい

そうだよ。僕が求めているのはそういうのさ。 とりあえず分けておくためにその一枚を脇にずらした。

ŧ 燃えカスに。 ってページを破くんじゃない.....ッ

るんだが。 よし。 あともう一枚.....なんだこのカー カードのクセに生意気だ。 Ķ ジョジョ立ちしてい

『話の流れ的に回避不能。現実は非情である』

あ、

あ.....ありのまま今起こったことを話すよ!

回避するために思考していたのに、 自分の思考に裏切られた

....ッ!

何を言ってるのか分からないと思うけど、僕にも分からない.....。

なんだコレは、大丈夫か僕の頭。

カー ドがまるで使い物にならない。 ここはもう拒否権しかない。

一僕は手札から拒否権を発動

「trapcard・open」

何その言い方。 微妙にかっこよくてムカつくんだけど」

前は我に従わなければならない」 トラップカード『人形に人権はない』 を発動する。 これによりお

..... 特殊効果

「主催者権限により、無効とするッ!!」

堂龍一味方につけて訴訟起こしてやろうか。 しゅ さいしゃさんよぉ、 いくらなんでも横暴過ぎるでしょ。 成步

ねえデュナミス。 僕本当に行きたくない

「ついでに手札からカード発動!」

聞けよ。 なんだよ、ブルーアイズでも召喚すんの?」

「魔法カード『問答無用』......早く行け」

`.....分かったよ」

な物を握り締めてキレてるし.....。 何言っても聞かなそうだ。 なんだかよく分からないけど炭みたい

˙......사い....いじけるフェイト様ハァハァ」

耳に届いた艶っぽい喘ぎを脳が認識した瞬間に、 背筋に冷たい汗

が流れ落ちた。

舐め回す視線を感じる。 弛緩していた全身の筋肉が緊張によって無 理矢理収縮したようになって、 若干金縛りにあったような感覚だ。 背後の荒い息。 まるで獲物を狙っているハイエナのような全体を

風を止められる。 も拒否反応なのか曼荼羅の障壁が二重になっていた。今なら雷の暴 に、覆いかぶさるように抱きしめられているような感覚に陥る。 振り向きたくねえぇぇぇ。数十メートル離れているはずなの そんなにイヤか僕よ。

だからといって、 あの子の視線が断ち切られるわけじゃないけど。

どうした? 早く行ったらどうだ」

「 .....

逝ってしまえ。 じ取れないほど僕は愚鈍じゃないよデュナミス。君が行け。 ...他人事だと思ってるな? 僕はまだ人生の墓場に入るほど歳喰ってないぞ。 声に嘲笑が含まれているのを感 いっそ

そう口パクで伝えようとしているのに、

バトルフェイズは終了してないぞっ! ドだ。 これでどうやって戦えばいいんだ!?』 まだ僕のターンだ。ドロー!! 勝手にドローするな」 だと? . 意味不明のカ まだ我の

というか遊戯王から離れろって。ダメだこいつ。

お前の相手をしている暇はない」 「いいから早く行け。 我は今から誠が死ぬ場面を見るんだからな。

のもなんだけど、デュナミス、君も仕事しろよ」 「なんだよそのトラウマチョイス。 僕への当てつけか? 僕が言う

「働きたくないでござる」

. 僕だって働きたくな

お前のその幻想(Dドライブ)をぶっ壊す」

' 行ってきます」

だ。 の隙間から、 ヤバい。 お星さまにしてやろうか.....。 思わず背中から黒い翼を噴射したくなる。 ムカつきすぎて、右脳と左脳が割れて、 何か鋭く尖ったものが頭蓋骨の内側へ突き出てきそう 切り開かれたそ

ちなみに、栞ならもういないぞ」

気付いてたならもっと早く言ってくれないかな」

「我に死ねと?」

「.....ヤンデレって、怖いね」

『Nice boat』」

グッジョブじゃないよやめてくれ。

うだ。 いつか監禁されそうで怖いな。 知らぬ間に既成事実とか作られそ

わりたくはないがな」 「オヤシロ様すら裸足で逃げ出すヤンデレ具合だ。 羨ましいぞ。 代

「オヤシロ様ってあぅあぅ言ってる娘じゃないか。 普通に逃げるか

正直僕だって逃げたいさ。 でも、逃げるイコール超特急栞の監禁

部屋行きだから無理だ。

......このままこの話をしていたら気が滅入って鬱になる。 話を変

っていいのかい?」 英雄の息子って今も旧世界にいるそうだけど、 今回は僕一人で行

**「栞を連れていくか?」** 

「貴様僕に死ねと申すか」

、なら一人でいけばいい」

オ 旧世界一人旅 どこへ行こうか。 やっぱり秋葉原には行きたいな。 .ヒイイ イイヤツホオオオオオ

土産は『フェイトたんフィギュア』で頼む」

「お前じゃないからな。そこで吐こうとするな」

おえ。 思わず口に手を突っ込んで吐きそうになったじゃないか....

お前本気で吐いたな! いくらなんでもそんなことしない あと、 片付けしないと回収されるぞ」

..... なくなったぞ? ポルナレフ。

遅かったな。そして我はデュナミスだ」

ヤバくね? 僕本気でヤバくないかい?

その気になればリアル『十六夜(咲夜』が可能だからな」 「僕の身も心配だが、 「どうせ猫のアーティファクトを栞が持ち出したんだろう。 暦は大丈夫なのかい?」 アレは

な 死んでないだけマシだろう。 ......最近逆に回復を始めてきたから

「酷過ぎてえむ化するとか。どんだけー」

よく思い出せ。 お前の従者は焔以外変態だ。 栞はヤンデレだしな」

「...... どんだけー」

絶望した。

まともな従者が一人だけとか絶望した。

トとかにいきそうで僕の寿命がすり減る」 「ちなみに、 どっちでもいいよヤンデレじゃなければ。 焔はツンデレと見せかけてクー デレかもしれないぞ?」 このままだと誠君ルー

んてしたらホントに僕は誠君に、 今は栞しかいないけど。 ちょっ とした拍子に誰かがヤンデレ化な

"Nice boat".

うるせえ馬鹿。

このままだと僕に救いが存在しない。 本気で旧世界に逃げよう。

魔法世界? どうでもいいよ。 それよりも僕の命だ。

じゃあ行ってくるよデュナミス。 『もう探さないでください』 つ

ていう置き手紙あげるから」

がちょー 痛いんだからな」 死にたくない。 「定期的に連絡入れろ。じゃないと追ってくるぞ。 今回お前を旧世界に送るのだって、 代償にケツの穴 そして我もまだ

......君、いったい何されたんだい。

やめろ構え」 いいのか? 聞いてしまって。 我はノンケだってかまわな

というか心読むのやめてくれ。

るよ。 N D だ」 「頼むからやめてくれ。 「なんかもう一人で行くと、 焔だけ連れていっていいかい?」 焔が居なければ我が三日後にはDEADE 即BADENDに移行しそうな気がす

デュナミスは立ち上がって咳払いすると、 大理石に頭を叩きつけ土下座するデュナミス。 そんなにヤンデレとの共同生活はイヤかい。 涙を誘ってやまな

たらすぐに帰ってこい」 お前に限って早々負けるとは思わないが、 まぁ、 死にそうになっ

デュナミス.....」

涙が出てきて なんだ、 君はこんな僕のことを心配してくれるのか。 なんだろう、

「死ぬなら土産を発送してからな」

僕の感動を返せ。びた一文まけないから。

デュナミスに叩き込む。 緩く放たれたようにしか見えないが、 石を打ち抜けるレベルだ。ガードすら通り越して衝撃は伝わるはず。 軽く踏み込んだ右足が沈み込むと同時にフックの軌道を描く拳を 大 理

「むおぅ!!」

僕の拳とデュナミスのガードが衝突した瞬間、 轟音とともに粉塵

が巻き上がった。

どいい なら多分デュナミスはまだ無傷だ。 手応えが無かった。 衝撃を流すために自ら後ろに飛んだのだろう。 僕の怒りも収まらないしちょう

黒い刀身が鈍く光り、その切れ味を自ら誇示しているようだ。 肉も容易に両断出来る。 粉塵の中、デュナミスの影を中心に柄のない剣を無数に配置する。 だから

一本ぐらいどっか刺され。

その名で僕を呼ぶな。『千刃黒耀剣』」いきなり何をするテルティ

**.** むおおおおおおき!?」

声と共に魔力を込めた拳で叩き落としていく。 デュナミスはさまざまな軌道を描いて飛来する漆黒の短剣を、 奇

4し、一本打ち漏らして腹に刺さ

ふん!!」

筋肉で弾き返すとか、 僕の目を腐らせる気かい。

ふんふんふんふん! 私の筋肉旋風に死角なし!」

なにそれキモい。主に体がキモい。

れない。 斬撃がダメなら、 千刃黒耀剣だけじゃデュナミスの皮膚 なら別の魔法で追撃をかける。 圧殺してやる。 というか筋肉を越えら

ヴィシュ って待て! タル・リ・シュタル・ヴァンゲイト」 詠唱呪文を始めるな!

真っ青さ。 まだ僕のバトルフェイズは終了していないよ。 バーサー カー 魂も

《 おお、 地の底に眠る死者の宮殿よ。 我らの下に姿を現せ》

僕は破城槌のように真横に出現させる。 本来なら上空から大質量の一枚岩の石柱を投げ落とす魔法だが、

回避行動を取れない。 未だに黒耀剣を叩き落とすことに夢中になっているデュナミスは

さぁ、落ちろ蚊トンボ。

「《冥府の石柱》」

右拳と連動するように動く石柱を、 右スト トと共に放った。

んま......つぁ、ちょぎっ!!

ように潰された。 最後までネタを貫いたデュナミスは壁にめり込んで、 石柱に蚊の

.....もう一回ぷちっと。

「まそっぷ!!」

それは悲鳴じゃなくて掛け声だよ。

「なかなか強くなったな」

\_ .....

君はなんで何事もなかったように隣にいるんだい?

すべてフィクションだからな」

のページを捲る。 そういってデュナミスはさっきまで読んでいた『めだかボックス』

「そんなことのために勝手に゛リライト゛使わないでもらえないか

な

「今使わなくて何時使う?」

「少なくとも『大嘘憑き』を再現するときじゃない」

私の人生は虚構から誕生する」

他誌に飛ぶなよ。みっくすさせるな。

「さて、 いい加減終わりにするぞ。 フェイト、 旧世界へ向かえ」

空気を真面目な雰囲気に変えてくるデュナミス。

なんだ君は? 今更この空気を変えられるとでも思っているのか

۱۱ ?

「無理か?」

「無理だよ」

いい加減馬鹿みたいだ。僕はデュナミスに背を向け、 扉へと足を

進める。

「行くのか?」

行くさ。ここで君と押し問答しててもしょうがないしね。 それに」

気にならない、といえば、嘘になる。

そうか。 ……でわな」

小さな別れの言葉に、 振り向かずに右手を上げた。

...そういえば、 デュナミス」

僕はふと足を止める。

なんだ?」

い加減 仮面のみの全裸" はやめた方がいい。正直見苦しい」

これが私の普段着だ」

着てないだろ。全裸マン。

たったのだろう。 僕はデュナミス目掛けて"砂の一矢"をぶつけ、部屋から出た。 扉の奥から彼の呻き声が聞こえてきたということは、 少しは気が晴れた。 ちゃんと当

思うと少し淋しく.....感じないな別に。 どーせ、 いつも通りの馬鹿みたいな会話。それが今日から出来なくなると すぐ帰ってくるんだろうから。

さてと、英雄の息子とやらを見に行こうかな。

だけどまずは、

どうやってヤンデレ従者を撒くか、考えないと.....ッ!

### P 身体はネタで出来ている (後書き)

ててれれってってってー。

も笑って受け流せるようになった!! 読者様の我慢強さが200アップした。 これによってどんな駄文で

はい、どうも。後書きまで読んでくれる読者という名の勇者。

最近のネギまでフェイトが妙にカッコいい。 そう思った俺っちはア

ホにしたくなった。

そう思って書いたらこんなんになった。

だが、謝る。すいままんえん。

ちゃんとネタがネタになってるか凄く心配。 らいあるはず。 多分他作ネタが十個ぐ

さ! すべて分かったら、もうネタなしでは生きられない体になっている

身体はネタで出来ている、っと。

た。 こんな誰得か分からない作品を読んでくれてありがとうございまし

間だよ。 ら先は愛と勇気が友達でも近寄れないカオスを通り越したヘドロ空 「おや、 てを葬り去る、アンパンチだ」 それでも先へ進むのならば必殺技を授けるよ。 また来てしまったのかい? 君は勇者のようだね。 一撃ですべ ここか

ん ? -Р u n c h アンパンチ? アンパンチ、 あんぱんち。

.....パンチじゃないのかい!?」

金曜日の夕方、 F a t e A V お茶の間にて驚愕を顕わにしながら。 u n C u s

Fate Averruncus side

デュナミスとのアホ会話から1ヶ月が経った。 で任務という名のニート生活を送っているはずだった僕ことフェイ ・アーウェルンクスは、 本来なら今頃旧世界

......いい加減旧世界へ迎えというに」

そんなことが言えるんだ」 「デュナミス。 君はヤンデレの本当の恐怖というのを知らないから

知ってるかい? ヤンデレからは逃げ切れない。

現に未だに外へ出ることすら出来ないからね。

天井に張り付いて汗垂らしながら威張ることではないぞ」

· うるさい。気が散って落ちる」

僕は今、デュナミスと会話した聖堂の天井に立っていた。

保ち続ける。 デュナミスのちょうど真上に、足の指で天井を掴んで、 その状態を

あえて言おう。重力の負荷が凄まじい。

これで腹筋を使って上体を起こすとか無理すぐる。どんな化け物さ。

自分の従者すら制御出来んのかお前は。 相手は女だぞ?」

だから余計に怖いんじゃないかい」

•
お
お前
ĦIJ
の
股
牊
间
$\sigma$
$\rightarrow$
X
グ
+
7
$\Delta$
は
石
[P]
0
何のた
ため
נט
Ī
ر .
しり
7
1,1
וש
る
_

「......え?」

瞬いつも通りデュナミスという名の変態の戯れ言だと思ったけど

:.. え? 自分の従者を制御するためについてるってことかい?

それって、

「もしかして... .. 僕についてない可能性も有った...

ے؟

.....

って、 何かを考え込むように顎に手を当てたデュナミス...

死んでくれデュナミス」

とは分かるよ。 何を想像したのか分からないが、 女の子だった場合の僕を汚したこ

る気かい。 だから服を着ろと言ったんだ。丸見えなんだよ、 また僕をゲボらせ

· あべしっ!!」

僕は無詠唱で出現させた"冥府の石柱"でデュナミスを潰した。

君は変態という名の紳士じゃない。変態という名の犯罪者さ」

まあ、 常に全裸マン状態の時点でもう駄目だけど。

こっちからフェイト様のお声が。

フェイトたんフェイトたん......ふぅ。

くんかくんか。こっちからフェイト様の匂いが。

風が気持ちイイ。

アンタらは......はぁ。

ヤバい。 ままだと監禁コース一直線だよ。 今のでバレたようだ。 しかも従者勢揃いのようだね。 この

しかも、三名ほど限界寸前がいるせいか、 て対処出来ていない。 唯一のストッパーが呆れ

死ぬる。

「天井に張り付いているだけでは見つかるんじゃないか?」

はいいのかい? だからなんで君は無傷なんだ。というより女の子に裸一貫で会うの

問題ない」

どこのゲンドウだ貴様。

くつ、 とすれば必ずかち合う。 この聖堂は正面の扉以外に出る場所は存在しない。 今出よう

もう『知られざる英雄』 魔力を漏らさないようにするから。 並みに存在感を殺すしかない。 絶" でも

いいのか? 魔力まで切ってしまって」

「切ってから気づいた。 今僕の足の指の寿命がマッハで削れてく」

もげる。足の指がもげる。

くれないかな」 「デュナミス。 彼女達がここへ来たらフェイトはいないって言って

バレたらどうする気だ?」

全速前進DAI」

•
$\neg$
_
$\rightarrow$
X
× .
ン
10
÷
a
$\overline{}$
Λ
仝
ח
Ι,
0
7
も
逃
بالار
げ
リノ
$+\Pi$
IJ
to
16
7
<b>ත</b>
ふ
Ŋ١
八
'n
73
か
/3
5
<u>ب</u>
6.
んがな
が
IJ
ナト
ď
_

19 1ヶ月も逃げ続けてるんだ。 もう強行突破ぐらいしかすることがな

というかその間お風呂にも入れないんだよ。 っているけど、 服も肌着も1ヶ月ぶっ続けなんだ。 水の魔法で清潔には保

だって、脱ぐと無くなるんだよ。

この前ゴミ箱に、 僕のパンツだと思われる物体が捨ててあったんだ。

なんかよく分からない液体でどろどろになっていた。

見なかったことにしたよ? 怖いじゃないか。

それで、もうすぐ来るぞ? どう行動する気だ」

連続瞬動で振り切る」 達の背後に飛ぶ。 「扉が開いて視線がデュナミスに向いた瞬間に"虚空瞬動"で彼女 " ゲ ー ト"だと魔力追跡されて先回りされるから

「ほう。成功確率は?」

るんだ」 例え勝算がマイナスでも僕は逃げる。 僕は旧世界でニート神にな

お前任務のこと忘れてないか?」

働きた
<
な
しし
で
_
ざさ
ಠ್ಠ

「.....失礼します。デュナミス様」

鈴の音のような澄んだ声と共に、扉が開く。

女。 ゆっ くり開かれた扉から顔を出したのは、 金髪のツインテー ルの少

唯一の清涼剤である焔だった。

「......焔か」

デュナミス、ちょっとは前を隠したらどうだい。 々とし過ぎだろう。 いくらなんでも堂

ここで普通だったら焔が悲鳴をあげる。 てるからね。 見たくもないモノ見せられ

ただ、 良くも悪くも焔達従者は慣れている。 同類もいるから......。

: は あ。 環にも言ったんですけど、 風邪引きますよ?」

「問題ない」

「どこのネルフですか貴方」

多い焔は、 呆れながらもネタに対応する焔。 ようになっていた。 いつも僕達の会話を聞いてるため、 ストッパーとして共にいることが ネタにも反応出来る

まぁ貴方が全裸なのはいつものことですし、 スルーします」

「男の裸を見て、何か思わないのか?」

、とりあえず吐き気が」

「ズドッと貫いたな。 我の心に"牙突"が入ったぞ」

「それよりも、貴方に向かって゛二重の極み゛

ア ツッツ!!!」

るූ デュナミスの身長は高く、 れで彼女が正拳突きを繰り出すと、当然デュナミスの股間に拳が入 焔の背はあまり高くはない。 つまり、 そ

おお、 デュナミス。 死んでしまうとは情けないよ。

ります」 フェイトさん。 降りてきてもらえますか? さすがに首が痛くな

いつ気がついたんだい焔」

上向きますよ」 「普通に考えて、 部屋の中に水溜まりがあったら雨漏りかと思って

その発想はなかった」

垂れる汗が原因だったとは......。

達は来ないのでやせ我慢止めて降りてきてください」 「もう"垂れる" ではなく" 流れる" になってますよ。 まだあの子

確かに心に"牙突" が刺さるよデュナミス......。

自由落下に従って、床に着地する。

なんかビリビリ来るよ。ビリビリ。

英雄の子供そっくりです」 「高いところから落ちたからでしょう。 ちなみに、ビリビリの声は

今すぐ見に行くよ!! いざ旧世界ッッ!!!

そんな無表情で張り切られても。今行くとかち合います、 って

.

ボッ、と火がついたような音が耳に届く。

.....ん? 頭が熱い。

「落ち着いてください」

着火した。

熱いと思ったら、僕の頭に着火した。

「火とかけまして、貴方の従者のヤンデレ具合・変態具合ととく」

「.....その心は」

火を見るよりも明らかです」

うまくないうまくない、 と僕の頭がフジヤマヴォルケイノッッ!

そんなゴロゴロ転がらなくても、水の魔法で消せばいいのでは?」

はつ、その手が有った。"水よ出ろ"

水遁大瀑布。

出しすぎでしょう」

ちょっと。空中で見てないで助けてくれないかな。今にも溺れそう なんだけど。

私炎つ娘ですから」

ぜ なんという新ジャンル。 を体現する気かい。 あれかな? 『アタイに触れると火傷する

「私に触れると爆発します」

「なにそれもう誰も手が出せない、ブクブク」

地のアーウェルンクス......大瀑布に沈む。

言葉だけならカッコいいけど、自分でやったから微妙かな。

「案外余裕ですね。放置でいいですか?」

沈む」 「助けてくれないかな。僕は地のアーウェルンクスだから、 余計に

解除すればいいのでは?」

「その発想はな

「言わせねーよ」

なんでさ。

魔法の解除して、 肺まで入った水を胸に突き当てる『寸勁』で振動

させ吐き出す。

おっと、血まで出てきた。

な なんじゃ こりゃ あああ

「さすがに古いです」

Z
٦
れ
F
9
נו
それよりも僕
STICE CO
ぼ
の頭
===
踑
が
リも僕の頭がアフ
ア
フ
フロになっ
ш
に
<i>+</i> >
<i>ا</i> ل
つ
7
٠.
しし
ス
点 で
1 <del>T</del>
る 件 に
ている件につ
7
1.1
<u>~</u>
(
_

ふ .. それはじ、 自業自得、で、ですよ。......ぷぷ、 ふ ふ

堪えられてないよ焔。

な これはもうアフロダンサーになれと造物主のお告げとしか考えられ

「それは止めてください」

急に真顔になられると怖い怖い。 って顔が近い近い。

「そんなことしようとしたら、あの子達に差し出しますよ?」

......おお、こわいこわい。本気で。

れたって」 「......いつまで無表情なんですか。少しぐらい顔を赤らめてく

「何か言ったかい?」

「何でもないですよ、はい」

いつも通り無表情の焔だ。 ただ耳が赤い気がするけど。

気のせいかな。

.....そういえば、デュナミスは?」

さっきそこら辺で呻いてたんだけど......。

I t S 大嘘《A11 fic》モガーッッ!!!』って」

「さっき流れていきました。

『それでは皆さんご唱和くださーい。

ネタで命を落とすなんて..... ..... 君って男は。

デュナミス、君のことは旧世界に行くまでは忘れないよ。

「忘れるの早いですね」

墓標には"ネタに生き、ネタで逝った男"と彫ってあげようか」

「末代までの恥ですね。 私じゃ恥ずかしくて生きていけませんよ」

... そうかい? 男らしい最後だと思うけど。

「貴方達の感性が分かりません。もちろん、 分かりたくもないです

おお、

ひどいひどい。

「それでもネタに走るんですね」

「もちろんさ」

「らんらんるー」

僕の身長はハンバーガー四個分

「なわけないでしょう」

おお、ひどいひどい。

「ぐっちゃぐちゃに虐めますよ?」

おお、ひどいひど

ヒュン、と風を切り、焔の左眼が赤く燃える。

且
量後バ
îÑ
/\
ン
ッ
Ĺ
!
كے
· と 僕
人
(J)
頭
<del>(11</del>
1,7
近
が
旭
塚
発
ĺ.
$\mathcal{L}$
の頭付近が爆発した。

「次は頭ごと爆発させます」

なにそれこわ、ご

、ごめんなさい。

デュナミスと違って引き際が分からないのが難点だ。 焔は僕と同じで無表情だから、どこまでが本気か分からないから、

というより、 いつまで私と会話してるんですか?」

.....ん?

「もうすぐあの子達来ちゃいますよ?」

時よ止まれ

「そんなんで止まったら苦労しませんよ」

.... こんな時こそライフカードデュエルさ。さぁ、今出来る僕

の行動は。

枚 『このまま焔と会話』

枚 『デュナミスの捜索』

<u>\_</u> 枚

『しかし回り込まれた (逃げられるわけねぇじゃんよ)』

この五枚で

いや何が出来る?

「 サレンダー ですか?」

· つ?

続きはWebで!

「すでにWebですが」

「知りませんからね」

53

留年していると思ったら、進級出来ていた。

ヒィ って書いてしまいましたよ、 1 1 1 ヤツホオオオオオオ ええ。 才 才 オ と勢いあま

ょ うか。 今回は何人見てくれたんでしょう。 続編を期待する人はいるんでし

が酷いことになるよ? はただ、 これを書き続けると、完全なる世界勢と主人公勢の温度差

主人公勢はドシリアスで戦いながら、 ているとかさ。 フェイトはアホなことを考え

あり得ないほどチー ト化します。 ある人物たちが。

もっともやばくなってしまいそうなのが、 逃げて。 今の段階でネギくん。 ち

まぁ、 ロスもとにかかわることです。つうか、これで分かった人はすごい。 ヒントとして、 今回フェイトが苦し紛れに言ったことが、

期待されると疾走するから。 ゆっくり更新するよ!(だからあまあまちょうだいね!!」 間違えた、失踪するから。

ゆっくり並みの更新なので、ご了承ください。

では、これにて。

だれか、 よ (泣) フェイトに言わせたいネタください。 俺っちじゃもうない

駄文だよ?

駄文だよ?ねえ、駄文だよ?

もう、 前書きのフェイトのセリフ考えられないー。

さぁ、勇者は次に進むのだ!!

常識人はブラウザバックしようぜ!!

## P a r t 3 僕の従者がこんなに病んでるわけがない

「フェイトです。もう、遅かったとです」

抱き止め、背後から覆い被さるようにして頬擦りしてくる猫耳の暦 もう離さないとばかりに力いっぱい抱き締めてくるエルフ耳の栞を の頭を撫でる。

僕ことフェイト・アーウェルンクスは、 結局捕まってしまった。

今はまだいい。 ていれば。 病みモードではないから、 満足するまで好きにさせ

八アハア......

「あむ?」

もうそれは甘噛みじゃないから痛い痛い。

千切れる! 僕の耳が風前の灯ッ!!

「まぁ、自業自得ですし。諦めてください」

僕から離れた位置で、焔は関係ないとばかりに本を読んでいた。

ちょっとぐらい止めてくれてもいいんじゃないかい?

とばっちり喰らいたくないんで」

くっ
、酷いじゃ
ないか焔。
こうなっ
たら藁人形にゴ
ツ
スンして、

「ごっすん」

なんで僕の持ってごふっ!?

焔は僕の人形に五寸釘を刺して刺して刺して刺して

「痛い痛い痛い痛い痛い痛い」

「ごっすんごっすんごっすんごっすんごっすんごっすん五寸釘」

は赤く点滅してるよ。 い、いくらなんでも刺しすぎじゃないかな。 もう僕のライフゲー ジ

「ごっすん」

あ、ピチュった。

グレイズ不可能攻撃とか酷い。

· くしゅんっ 」

暦に食べられそうになっていない方の耳に小さくクシャミが響く。

もちろん、そちらの方には振り向かない。

¬ 環。 寒いなら.....というか服を着た方がいい」

_
だ
ľ
ίĪ
じ
$\cup$
ょ
1
~"
ぶ
で
7
ス
_

全然大丈夫じゃないからね。

龍族の血を受け継ぎ、角を持つ環は、 少し目を離すと服を脱ぎ出す。

現 在、 けど、 デュナミス同様何も着ていない。 これから外に出る時が心配だ。 ヤンデレでないだけマシだ

焔

· なんですか?」

「環の服持ってきてもらえる

\_

必要ないですよ」

なんでさ。

そう思ったら、 焔は環の方を顎で指してまた本に目を落とす。

とりあえず環の方を見ると、

いや、いい感じですね!」

「.....つーん」

頬に手をあて、光悦の表情で環を見る目を細めた調と、 のフリルがついた黒のゴシックロリータを着せられて、 不機嫌そう その調に白

に
そ
つ
ぽ
を
向
<b>\</b>
環
だだ
つ
た
. 0

調工....。

あ どうでしょうかフェイト様。 新作なんです!」

「......まぁ、いつも通りうまいと思うよ」

調はこうやって自分の好きな衣装を作るのが好きな子だ。

理着せて喜ぶ......まぁ、 ただ、自分では着ない。もっぱら全裸でいることが多い環に無理矢 変態かもしれない。

今もくねくねして悶えている。 妄想の世界に浸っているらしく、 れを脱ごうとしている環にも気づいていない。 そ

だから環。服を脱がないでくれないかな」

だって、落ち着かナイでス」

か巻いてるから。 君はどこのターザンなんだい。 というかターザンですら腰には何

早く改善させないと、デュナミスのようになってしまう。それはな んとしてでも防がないと。

てもらえないかい」 「服を着た環の方が可愛いよ。だから服を着た環をもっと僕に見せ

るූ なんでだろう。 僕の方が変態みたいなこと言ってる気がす

環黙っちゃったよ。もしかして引かれてる?

Ь

そっぽを向いてしまったが、環は服を脱ぐのを止めてくれた。

顔が赤い。もしかして風邪引いた

背筋が凍るように冷たい汗が流れると同時に、 腰の辺りが燃えるよ

うに熱い。

見て私を愛して私を抱き締めてくださいな」 どうして私を見てくれないんですかもう身も心も貴方に捧げている るというのに他の女に目がいくなんて酷い酷い酷いじゃないですか というのにどうしてどうしてどうしてどうしてどうしてですか私を 「 環がそんなに可愛いんですか私がこんなにフェイト様を愛してい

僕の精神と皮膚がボロボロになるというのは、 は 早口すぎて途中何言ってるか分からないけど、 分かる。 このままだと

僕は何も言わずに栞を強く抱き締める。

あっても足りない。 病みモードになる前にデレにしておかないと、 残機とボムがいくら

あぁ、 フェイトさまっ。 もっともっと強く抱き締めてください」

頬を赤く染めて、さらに抱きついてくる栞。

だけど、 未だに瞳のハイライトが戻ってくれない。

はやくもどってきてね! いますぐでいいよ!!

を読みながら呆れます」 「そんな状態でもネタに走る貴方のことが理解出来ない、 と焔は本

焔が二万人もいたら、 もっと楽になるのに......

代わりに、 それと焔。 栞の幻想をぶち壊してくれないかい?それ僕の『とある魔術の禁書目録』だから。 上条さんの

「無理です」

分かってたよ。 即答させることぐらい......。不幸だ......。

るんだけど それにしても、 病みモードになって僕の体の一部を取ろうと思い切り噛みついてく 今日は静かだね。 いつもなら栞を宥めてると、暦が

「うにゃ〜。......ぐー.

寝とる!!

:
:
•
•
:
:
_
=
111
丰
7
だ
<i>T-</i>
1
0
_
ر
40
XI.
10
れで
ᄜᄯ
勝
13/3
ノ
7
る
حر
·

立って瞬動でここから逃げれば旧世界へ行ける!! このまま暦を起こさずに、栞を元に戻して、 トイレに行くって席を

そんな簡単にいくとは思えませんけど.......」

君はさとりなのかい、 き頭燃やされたし。 焔 させ、 どちらかといえば蓬莱人か。 さっ

何故だろう。 というか、僕未だにアフロなんだけど... 誰も気付かないのは

ギャグパー トは終わったんで、 場面転換されたらすぐに戻ります

焔 全編ギャグパートのくせに何言ってるんだい

って治っ

てるよ.....。

また......今度は焔、ですか?」

「そんなことないよ栞」

おお、 く抱き締める。 危ない危ない。 氷点下零度の声を出す栞を融かすように優し

を止め、 僕から抱き締めたことで気分がいいのか、 甘えるように喉を鳴らす。 栞は冷えた空気を出すの

.........さて、現在の状況は。

栞 . 僕の腕の中。 病みモードも影を潜めてデレッとしている。

暦......僕の背中。現在猫の如く寝ている。

環 : 今は服を脱ごうとしながら調から逃げている。

新しく環に服を着せようと迫っている。

<b>る</b> 。	焔無関心。
	上条さんの説教が始まったのか本に集中してい

ふ、ふふふふ。 あっはっはっは!!

今なら行ける!!!

ミッション・スタート!

誰にも気付かれずに旧世界へと転移せよっ!

今ならマスク・ザ・斎藤をうなぎパイで倒せるような気がするよ...

......ッ!!

八アハア:: あ、 はぃ なんでしょうか、 フェイト様?」

相変わらず息が荒いけど、 いつもの栞に戻ってる。

ちょっとトイレに行ってくるよ。 離れてもらっていいかな?」

トイレ.....」

何を想像したのか、 ぼんっ、 と栞の顔が急激に赤く染まった。

そのまま僕から身を退くと、 顔を赤くしまま悶えている。

あ、はい。分かりました」

栞は、 もう病みモードなど姿形も見えないほんわりとした微笑を浮かべる そのまま僕の背後に回ると、

「えいっ

可愛らしい掛け声と共に、 暦を『叩き落とした』

ふぎゃっ!!」

ر کز ふ ふ フェイト様に迷惑をかける雌猫は退治します」

栞はそういっ 目が濁って笑ってないため凄まじく怖い。 て暦の腹部を足でぐりぐりと踏みつける。 笑っている

一方の暦は叩き落とされたさいに後頭部でもぶつけたのか、 して完全に気絶していた。 目を回

時折、 のは栞だけど。 鮪に押し潰される~、 と唸っていた。 実際に押し潰している

こういってはなんだけど、 クからハードにランクダウンしたね。 人気絶したおかげで難易度がルナティ

米に10点をあげよう。

的じゃ 「マッ ハでマッパになる天狗ではないので、 ありませんよ」 そんなに10点は魅力

マッハでマッパふ
、なかなかに洒落てるね焔。

ちょうどいい。 ネタだったんじゃないんだ、 と焔が何故か落ち込んでるけど、今は

「それじゃ、 トイレに行ってくるよ」

僕は右手をポケットに入れ、 扉へと向かう。

出来る。 数メートルの距離が酷く長く感じるが、 もうすぐで外に出ることが

よし、扉を開けて......旧世界へと

フェイトはトイレに行こうとして旧世界に向かう気だ

ツ

ピシリ、と空気が凍った。

僕は扉を半開きにした状態で硬直、環は服を脱ごうとしたまま固ま 同様に調も服を持ったまま静止。

暦は気絶したまま。 しょ濡れ状態のデュナミスに有り得ないものを見る目を向け、 焔は手に本を持ったまま汗をダラダラ流してび

栞の目が死んだ。

のか!」 ıŞí \_ 我を流しておいて自分だけ何も無しで旧世界に向かわせるも

デュ、デュナミスうううううううううううううううう

あのバカ最後の最後で最悪な起爆スイッチを押したよ。

もう逃げないと不味い。 今すぐにでも、 デュナミスに"無双正拳突き"を喰らわせたいが、

だが、高笑いしていたデュナミスは、

「もげっ!?」

俯いた栞に"無刀金的破" を喰らって自滅した。

う ハツ、 歩扉の外へと踏み出しながら視線を走らせたが、 いい気味だバカめ。 僕はその瞬間に焔に栞を止めてくれるよ

むひぃでふ(無理です)」

刃こぼれした無数の包丁で壁に縫い付けられ、同じように包丁を歯 で噛んで受け止め、 涙目でこちらを見ていた焔がいた。

おー、 まい、ごっと。すでにストッパーが逆に止められてるよ。

瞬間、 かなくなる。 戦場ですら感じたことのない殺気のせいで、身体の制御が効

後ろへ向いてしまう。 見たくもないのに、 身体が確認しろと、 首がギチギチと軋みながら

「あはっ

良い子の皆~、今日僕死ぬよ?

## P a r t 3 僕の従者がこんなに病んでるわけがない (後書き)

栞ェ.....な三話でした。

連載しちゃったなぁ。 誰得? 俺っち得だよねえ。

読んでもらえるだけで嬉しい。 もいいよ!! ちょうだい!! でも感想欲しい!! どんな感想で

なんて、図々しいか......。

言わせられない。 というか自分もうネタがない。 というわけで、 というか知識がないからフェイトに ネタを募集します。

出来れば状況を合わせてセリフをください。 無くてもいいです。 キャラへの想いを叫んでもよし。

自分は千雨スキー
ナーです。な
なので、
多分魔改造します!!

千雨エエエエエエー! 眼鏡かけてエエエエエエ!

次回の更新は未定。現在七話までしか書いてないため、遅くなるか

も ?

次回。栞から逃げます

## t 4 栞は大変なモノをぶん投げてきました (前書き)

感想は四人きてくれた。 ルすると、 嬉しいありがとう! と思ってスクロー

何故かお気に入り件数が29

ん ? .... マジで!? と思いました。

た。 自分的に感想と同じ人数がお気に入りしてくれていると思ってまし

違かったのね (笑)

どんな人が、どんな作品を書いたり読んだりしているのか、 こんなのを読んでくれているのか。 自分の

想像してニヤニヤしています。 妹にキモいって言われたけど(泣)

想くるまで頑張ります。 お気に入りしてくれた人全員から感想で「腹筋が w W M という感

かもしれないので一応。 ちなみに、こんなフェイトですから間違って想像している人がいる

フェイトは基本原作と同じ無表情のままですから (笑)

あんな顔してネタまみれです。

## t 4 栞は大変なモノをぶん投げてきました

「あはっ」

未だ見ぬナギ・スプリングフィールドの息子とやら、 ウェルンクスは君と逢う前に死ぬかもしれないよ......。 フェイト・

巷で言うレイプ目の栞の手には腐ったように刃こぼれした包丁が二

そして、 僕の頬をざっくりと切り裂いて扉に突き刺さった一本の包

投擲状態のまま、 かってくる。 俯いて笑う栞からは、 威圧にも似た殺意が襲い掛

にしても、 常時展開している意味がまるでないよ。 いつになったら僕の魔法障壁は働いてくれるんだろう..

働け。 働いてくださいこの通り。 飴ちゃんあげるから。

界に行く気じゃないですよね 「どこへ.....行こうとしてるんですか? まさか、 一人で旧世

侵食しそうな勢いだ。 跳ねる語尾とは裏腹に、 闇に染まっていく瞳。 その濁りは白目すら

うん。 イと叫んでいる。どうやら僕の勘は狂乱家族の母と同じらしい。 このまま行くと、命がヤバいと僕の勘がワッショイワッショ

せ・ ねえ、 よ・ フェイト様。 ね ど・こ・ に・も・ い・き・ま・

怖い。ネタに走れないぐらい怖い。

抱き合って寝るんです 緒にお風呂にも入るんです 「フェイト様は私と一緒に居るんですよ。 そうですよねフェイト様 お背中流してあげますから。それで、 一緒にご飯を食べて、 \_

\_ ..... \_

い、今までそんなことしたことないよ栞。

僕が回避していたんだけど。

んと返事してくださいよねぇねぇねぇネェ! 「なんで、 なんでなんでなんでなんで黙っているんですかねぇちゃ

空気中の酸素が爆発した。 狂気染みてきた栞の叫びを掻き消すように、 バンッ!! لح

続けざまに爆音が鳴り
墾
響き、
熱風が顔にざ
ぶ
ン
か
ර

これは、焔.....ッッ!!

っ フェ イトさん! 私が食い止めます。今すぐに向かってください

がら動いたのだろう。 ビリッ! と何かを破く音が響く。 焔の背中が爆風の中に見える。 壁に縫い付けられた服を破さな

「......すまない、焔!」

焔ァァ あああああああああああああああああああ

ける。 僕は栞のすべてを引き裂くような絶叫を背に、 瞬動で回廊を駆け抜

背後から焔の悲鳴と壁に突き刺さる包丁が奏でる轟音。ついでにデ ュナミスの呻き声。

.....君の犠牲は忘れないよ。

... ん?

ああ

91

:
:
:
:
ア
ア
<u>+</u>
92
め
あ
あ
あ
か ち
92
め
あ
あ
あ
\$
タ
め
あ
あああああああああああああり!!
ا
i
٠.
_

焔の声が近付いてくる? .....って

すいませんやっぱり無理でしたッ!!」

はやっ!! 焔負けるのはやっ!!

焔は全身に浅い切り傷を負いながら、 力で走っていた。 瞬動で動いている僕の隣を全

ぼ ほむら。 いくらなんでも早すぎじゃないかな?」

無茶言わないでください! そのせいで私まで標的になってひい 十秒持っただけでもマシでしょう! ! ?

焔は背後から迫った音速レベルで飛んでくる包丁を首を逸らすこと で回避する。

ね泥棒猫は死ね死ね死ね死ね死ね死れ死死死」 ね泥棒猫は死ね泥棒猫は死ね泥棒猫は死ね泥棒猫は死ね泥棒猫は死 「泥棒猫は死ね泥棒猫は死ね泥棒猫は死ね泥棒猫は死ね泥棒猫は死

セリフが常にループする呪いに、 すでに焔は半泣きだ。

私まだ16しか生きてないのに、今日が命日になりそうですよッ

ぁ あはは。 死んだら閻魔さまがロリかどうか教えてくれるかい。

私が死んだら貴方を殺すッ!!

ロ だ。 迫る包丁は数知れず。 もちろん僕にも飛んでくるため服すらボロボ

あ、腕がトンだ。

わひゃあ!?」

我が骨子が捻れ狂う前に、右腕がぶち切れた。

しかも、 全力で包丁を避ける。 焔の方に飛んだせいで、 彼女は僕の右腕をお手玉しながら

「ちょ、 う 腕 ! この腕どうするんですか!?」

焔の力で腕の接合面を焼いてくっ付けられないかい?」

かなんで魔法障壁作動しないんですか!?」 「背後から包丁が飛んでる場所で出来るわけないです!! という

人はそれをギャグ補正という。

それ万能なんですか!? 死んでも生き返るんですか!?」

僕達がどこかの文殊使い並みに不死身だったらね」

ソ	
レ	,
碚	
レ確実に無理じゃなご	
î	
無	
班	
<u>†</u>	
<i>t</i> ì	•
1	
いです	
ਰ	
かッ	Ì
ĺ	
:	
/ツ!!.	

そうだね。さすがに僕も生身で大気圏突破は出来ないよ。 煩悩もな

表情変えたらどうですか!?」 「というよりいつまで無表情なんですか貴方は! ちょっとぐらい

無表情がデフォルトなんだよ。それにただ引き吊ってるだけだから。

いつも通り過ぎて分かりませんよ!!」

いいイイIiiつまDeフェイト様となななかよく話しTe

るんだHOむラァァ あああああああああああああああああああり

「ひいいいい!?」

栞は震えたり裏返ったりしている声を張り上げた。 しかかってるようで金切り声より酷い雑音が入っている。 語学中枢が麻痺

焔に向かう包丁が軽く二倍になり、涙ちょちょぎれるよ。

死ぬ。 死んじゃう、 死んじゃうって.....ッ

な 「大丈夫。 そう言って死んだ人は. いないんじゃないか

いですか!!」 「その途中の沈黙なんですか! しかも最後ほとんど疑問系じゃな

_
大力
又
夫
ふ
出
$\Box$
は
見
え
た
_

これで勝ったも同然。 去らば、 ヴァルハラァァァァ

「で、出口です!!」

焔の声にも希望が力強く入る。

務のために設置しておいた簡易転移術式の施された魔法陣がある。 宮殿の出口から漏れる光が眩しい。 そこを抜ければデュナミスが任

ないが、 向かう先は、 跳んでしまえば安全面は保証される。 旧世界の日本。 日本のどこに設置しているかは分から

な ありがとう、 デュナミス.. あ 忘れた。 死ぬがイイデュナミス。 ..... 君のことは三回瞬動するまで忘れ

いきなりデュナミスさんに呪詛る前に栞を説得してくださいよ...

呪詛る"ってまた新しい単語だね。

そして焔。説得出来るならすでにしているよ。

知ってるかい? があるのを。 栞の部屋に明らかに拷問部屋みたいな" 僕の部屋

知ってます。栞が嬉しそうに話してましたから!」

なにそれこわい」

......つと、魔法陣が見えてきた。

態の栞が攻撃を止めるはずがない。 現在無数に飛んできていたた包丁が影を潜めている。 だが、 狂乱状

نبل
$\overline{}$
つ
U
7
しても後
7
後
ろ
$\tilde{A}$
か の
状
況
がが
<u>'J'</u>
気
つの状況が気になる。
<i>†</i> :
ふ
る
0
Z
7
n
は
化
시비
も
同
] » I—)
それは焔も同じる
の
のよう
<u>~</u>
ノ
T

後ろを向いた。 僕と焔は一度視線を合わせ、互いに頷き、走りながらバッ!! لح

瞬間、 直刀が顔の横を掠めた。 ジャック・ラカンの主装である『斬艦剣』を思わせる巨大な

それはそのまま魔法陣を両断する勢いで地面に突き刺さり轟音と共 に瓦礫を巻き上げる。

駆ける足は止められず、 思わず恐る恐る焔と顔を見合わせる。

僕無表情、焔半泣き。

\_\_\_\_\_\_\_

なにそれこわい。

僕も焔も恐怖からか駆ける速度のギアが上がる。

ギア・セカンド? すでにトップギアさ。

地を使っている。 いつの間にか瞬動が縮地並みだ。 焔も使えなかった瞬動を超えて縮

か 「今度から戦闘能力を上げるのに栞を相手にする訓練を追加しよう

その訓練の終わりって『死』 しかも嫉妬でとか嫌過ぎますッ!!」 しかないでしょう! 訓練で殉職

焔は右目に炎を灯し、 迫り来る包丁を爆発させながら叫ぶ。

に魔法陣あります!」 「第二波来ますよ!? 斬艦剣もどきです! しかもその延長線上

ここはどこの戦場さ。

魔法陣が壊されたらゲートポートまで逃げなくちゃいけなくなる。

そんなの面倒だし、第一焔の体力が続かない。

出現させる。 僕はバック走の要領で体を反転させ、 残った左手に岩の如き斧剣を

「片手でとか、反動が強すぎてやりたくないんだけどね」

迫る巨大な惨劇の塊。 中れば挽き肉どころでは済まない。

これは、後で栞に説教かな。

斧剣を体の正面に。

的に増加させる。 左腕を掲げながら肩、 肘 腕 手へと、 魔力を浸透させ筋力を爆発

交差は一瞬。

を模倣した極技 放つ一瞬九戟。 英雄のなりぞこないが放った神・ヘラクレスの神技 是

射殺す百頭」

放った斬戟は円環の如く。

斬艦剣もどきを九分割し、 辺りに鉄塊が散らばり轟音を放つ。

ちょー痛い。 でもげそうだ。 筋肉の繊維が悲鳴を上げている。 右腕無いのに左腕ま

お見事つ!」

魔法陣にぶつかりそうな一割の鉄塊を爆発させながら、 焔が歓声を

「左腕が痛いよ」

私は右目が痙攣してますよ! ドライアイになりそうです!」

焔から受け取った右腕を肩にかけ、 栞の姿を見るために目を凝らす。

. . . . . . . . . . . . . . . .

栞は無言のまま。その目は血走り、 ら黒いモヤが出現している。 白目の部分が黒く濁り、 背後か

ヤンデレは使徒を超える怖さだ。

ゃダメだ逃げちゃダメだ」とネタが横切るが、 頭の中で、 「逃げちゃダメだ逃げちゃダメだ逃げちゃダメだ逃げち

## 逃げなきゃ死ぬわ。

脳内でエヴァンゲリオン初号機に乗ろうとするシンジを蹴り落とす。

「乗るのは僕だッ!」

「え!? いきなりなんですか!?」

おっと、現実とごっちゃになってしまったよ。

すか!」 やっぱり余裕ですよね貴方! ムカつくんで栞に献上していいで

焔の殺気を受け流して、正面を向く。

もう魔法陣はすぐそこだ。

する。 僕と焔は宮殿から飛び出し、 魔法陣へと粉塵を巻き上げながら着地

キターッ!!!」

崩壊しているが、 焔は涙を流しながら両腕を振り上げ歓喜を顕にする。 元からこんな感じな気がしなくもない。 激しくキャラ

アでさえ爆破出来そうな気がする!!」 地獄は今乗り越えました!! 今ならスピリット・ オブ・ファイ

どこかのツンデレ虚無のまほー使いも真っ青の爆発だよねソレ。

でも、
Ę
こ
これで
で
_
う
ようや
<
、落ち着け
ち
着
ゖ

「そういえば、焔も旧世界へ行くのかい?」

「もちろん。じゃないと栞に殺されます」

確かに.

いつまで経っても魔法陣が発動しない。

: な

なななんで発動しないんですか?」

108

理由はすぐに分かった。

魔力充填がされていない。 これじゃ床に魔法陣の模様が描かれてい

るだけだ。

閉ざせ、 閉ざせと呟かないとサーヴァントが来ないようなものだよ。

今すぐに魔力を注ぐ。 焔は防御に専念して」

なッ

\

焔が歯を食い縛った瞬間に、 三発の小さな爆発を起こす。 迫る栞の

投擲はまだ終わっていない。

め	だが
め、潰せない攻撃で肌が切り裂かれる。	、こちらは動けない。
りり裂かれる。	だが、こちらは動けない。しかも粉塵と爆風で視界が安定しないた

「ま、まだですか!?」

す。 魔眼の多重使用の負荷か、 焔の見開かれた右目からは血涙が流れ出

今ようやく気がついた。 僕のせいで、焔を巻き込んでいる........。

焔。僕のせいで苦労をかけてるね」

......そうですね。でも

\_

む	ボッ、
	バン!!
	と迫る殺意の塊を爆発させ、
	爆風の中で焔は微笑

様でしょう」 私は貴方に命を助けてもらって今此処にいます。 お 互 い

ಶ್ಠ 味方の嫉妬で命の危機とか、 情けなさ過ぎですけどね! と苦笑す

「.....ありがとう」

魔力充填は完了した。

いるはずだ。

「焔。跳ぶよ!!」

「はいッ!!」

突き刺さった。

瞬間、魔法陣を分断するように、僕と焔を分断するように一本剣が

床が欠けたせいで魔法陣に乱れが走り

僕と焔は魔法世界から姿を消した......。

「あーあ。行っちゃいましたか」

法陣を完全に両断した。 呟く少女は魔法陣に突き刺さった一本の剣を引き抜くと同時に、 魔

狂気はすでになりを潜め、 少女らしい笑みを浮かべる。

だが、 柄が砕けるほど強く握られた剣が、その笑みを否定した。

でしょう 「まぁフェイト様には盗聴器をつけてますから、 変な虫はつかない

彼にプライベートは存在しない。 耳に填められたイヤホンからは、 フェイトの声が流れていく。 もう、

「焔は.....」

ザクンッ!! と大理石で出来ているはずの床に剣を突き立てた。

少女は壊れている。

「どうでもいいや。むしろ死んじゃえ」

旧世界。 い る。 右腕が強制転移の影響かどうか分からないが、 くっ付いて

ばかりの人の波。 周りを見渡すと、 ごちゃごちゃと並び建つ雑居ビル。そして溢れん

目についた看板を見ると、 " 秋葉原"の三文字。

秋葉原。それはオタクの聖地。

僕の頭の中から、 り広げたことも、 デュナミスに言われた任務のことも。 焔が近くにいないことも、栞とデッドレー スを繰

すべてが、吹き飛んだ。

あっはっはっは! 僕は旧世界でニートになる!!

まずは、 このボロボロの服の替えを買いに行こうか......。

5 「ふおふおふお。 何故転移してきたのかね?」 いきなり自己紹介ありがとう。 して、君は何処か

.....ん?」

ති

「ふぉ?」

あああッ!!!」

「ぬらりひょんだァァ あああああああああああああああああああ

「ふお!?」

おおおん!!!!

# a r t 4 栞は大変なモノをぶん投げてきました (後書き)

ゆーうしゃゆうしゃゆーうしゃ。 ゆーうしゃゆうしゃゆーうしゃ」

ふ 後書きまで来てしまったのはいいが、 別に

書いてしまっても構わんのだろう?

オマケ Ρ a rt4収録後の三人

栞

(ずーん)」

焔

ヮ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙ あのー。栞さん? おつかれさまーです...

栞

......おつかれさまでした(ずーん)」

フェイト

「おつかれーっす。って、どうしたんすか焔さん?」

焔

様子が」 「(キャラ砕けてるなー)いやね、 フェイト君。 ちょっと栞さんの

フェイト

ああ、
アレじゃないっすか?
キャラ設定」

栞

「そうなのよォォおおおお!!」ガシッと焔に抱きつく。

焔

「のあっ!? しょうがないんじゃ? 監督が決めたんですし」

弄

「でもでも~ 私これまで清純派で売ってきたのにこんなの酷い

フェイト

「 ( クチャクチャ ) アレじゃないっすか? 歳」ガム噛んでる

栞

フェイト

「あ、やっべ。これメッチャっべ。 地雷踏んだわ、 激踏みしたわ。

連鎖反応でドッカンドッカンだわ」

焔

......(そろーりそろーり)」逃げる焔

栞

.....表出ろ」

続かない。

やったから!! 次回は未定!!調子に乗って八話目書いてないのに、四話目あげち 別に俺っち栞が嫌いなわけじゃないから。 ホントだよ?

ただ、 オリキャラ出ます。 絶対に。なんと言われようとも。

感想貰えると嬉しいな!! ってかネタをくれー!! フェイトに言わせるから!! 一言だけでもいいし、ネタでもいいよ

次回。幼女は正義

#### 血 血 血が欲しい

J e V e u Χ 1 e S а n g s a n g e t s a n g

# ギロチンに注ごう 飲み物を

0 n n o n S 1 e S а n g d e guilloti n e

D

## ギロチンの渇きを癒すため

a g u i u r 1 0 t i g U e r i n е 1 a s e c h e r e s s e d e 1

### ,

#### 欲しいのは 血 血 血

e V е u Х e s a n g s a n g s a n g e

t s a n g .

#### a r t 5 人形の魂の質

これをください」

欠伸しかけていた店員は、その声に意識を覚醒させる。

パッと見、髪が黒いため、日本人のお客だと思ったが、顔立ちが西

洋人であった。

12歳ぐらいの少年。にしては無表情だが。

仕事であることには変わらない。店員はすぐに笑顔に切り換える。

ィ え あ はい。えーと、六千円になります」

珍しいこともある。

「結構高いんだね......。 にい

こんな店にたった一人で小学生ぐらいの少年が来るなんて。

. ちょうどですね」

今
か
5
着
れ
る
か
61
?

「え、ええ。 試着室はあちらになります」

「ありがとう」

.....サイズはどうですか?」

とりあえず、同程度のサイズを少年に渡したはずだと、店員は思う。

「ちょうどいいかな。それじゃ」

「あ、ありがとうございましたー」

にしても、

外国の方にもオタク文化は広まってるんだなー」

髪も黒に染めるみたいだし、 完全になりきる気っぽいなぁ」

소
白
は何
か
起き
つる
か
もし
ň
ない
٧,
い と 店
75
召
召
召
今日は何か起きるかもしれない、と店員は不確かな空
召
召
には不確かな確信をi
75

なんだろう、 この服を着ていると、 嘘が吐きたくなるね。

僕ことフェイト ウェルンクスは秋葉原の外れを歩いていた。

髪は黒く染めて、 あるキャラと同じ学生服を着た。

きっと、 今の僕は無表情以外、 7 めだかボックス』 の悪役である。

球磨川禊"そっくりのはず。

よし 日本では球磨川禊って名乗ることにしよう。

実際フェイト・ アーウェルンクスも偽名だから、 偽名に偽名を重ね

にいいだろう。	るようなものだが、
	フェイトは自分も本名として使用してるから別

にしても、球磨川禊を名乗るなら無くてはならない物がある。

そう、突如出現する大きなネジだ。

『大嘘憑き (オールフィクション)』? そんなモノあるわけがな

ſΪ

まぁ、 結果として.... ... そんな巨大なネジもなかった。

そして、そんな金もない。

そう、お金があまりないんだ.......

よ。 制服に染毛剤に何冊かの本を買ったらもう飯代ぐらいしかないんだ

なかったんだけど。 デュナミスにお金を貰ってくればよかった。 まぁ、 そんな暇

年齢詐称剤もないから絶対に無理だ。 さすがに12歳ぐらいにしか見えない僕はアルバイトすら出来ない。

僕は裏路地を通りながら思考の海に潜る。

だけど、 お金が無くては生きていけない。 外見子供の僕は仕事すら出来ない。 ニートとか夢のまた夢だ。

ん? .......すでに詰みじゃないか!!

僕の思考の海は浅かった...

ねーねー」

これからどうしたものか、金を稼ぐには" 裏" 関係に携わるしかな

ねーってばー」

だ。 だが、 都合よく裏の仕事が転がってるわけもなし。 完全に手詰まり

「うー。......こっちむけー!!」

こういう時は自分の直感を信じるんだ。

そうだ、京都に行こう!

ムシするなー!!」

込むしかない。 完全にCMネタじゃないか! 寂しいしつまらない . 焔がいないから自分で突っ

うあー! 首ちょんぱっ!!」

フォン、と風が断たれる。

だ自分の姿が鮮明に脳裏に浮かんだ 感じたのは断頭台。 落下するギロチンによって首が吹き飛ん

ゾクンッ!!と身体が震えた。

殺気など通り越し、 完全に死んだ感覚が身体を支配した。

身体中の毛穴から脂汗が吹き出し、 吐き気を催す感覚に肌が粟立つ。

震える右手で自分の首筋に触れ、 未だ繋がっている首に安堵した。

有り得ない。 初めてだ。 そして、 この身で本当の『死』 有り得ない。 いったい誰が? を恐怖するなんて.....。

すらなく死を感じさせることが出来る人間が存在するとでも? この身は英雄と相対出来るほどの力がある。 だというのに、 前触れ

はっきり言って、笑えない。

ねー、気づいてくれた?」

引かれる服の裾。そして涼しげな透明な声。

だというのに、 ら思考の海を泳いでいたとしても、 余りにも場違いな少女の声。 自分以外の誰かがいた。 なせ 微小な気配でさえ気づくはず。 それよりも幼い声だった。

じ取れる。 気配がなかった? 違う。気配はある。 今なら強烈な存在感すら感

· こっちむけってばー 」

どうやら、声の主は僕に振り向くことを所望している。

と分かる。 声の主の殺意か。それとも僕の妄想か...... 振り向けば、 自 ず

吹き出る汗も拭えぬまま、 僕は恐る恐る振り向いた。

思わず、茫然としてしまった。

揺れるわずかにウェーブがかった光を反射する肩辺りまで伸びた金

色の髪。

溢れ落ちてしまいそうな潤んだ翡翠の瞳。

まるでシーツを引きちぎって作ったような煤切れたドレス。

った。

そこから伸びる手足は細く、

肌は透き通ってしまいそうなほど白か

身長など僕の腰辺りしかない。

将来は絶世の美女という言葉をその身で体現するだろうほどの美少

女.....いや、美幼女がそこにいた。

僕に......気配すら感じさせずに。

あー。 にかんしてはびんかんなんだよ!」 今なんか変なことかんがえたー。 まりぃは自分のちゅうし

るようだが、 幼女は綺麗に整った眉をひそめ、 こちらには微笑ましく感じさせるだろう。 頬を膨らませる。 本人は怒ってい

語尾を伸ばすような舌足らずな喋り方。 外見年齢は五歳ほどだ。

ここまでは別によかった。 な格好で僕の前に現れるのも別によかった。 この幼女がお伽噺の中から出てきたよう

だが、 のか? . なんだ? 僕はこんな子に『死』を感じたという

まるで逆じゃないか。 に死を感じるなんて......。 これから成長するであろう『生』の象徴相手

首筋に触れたままの右手が震える。頬を伝う汗が、 地面に黒い染み

を作る。

「どーしたの?」

小さく首を傾げる幼女。 子供らしい可愛さが全面に出ている。

そこで、気づいた。 少女の首には『切断』 の 痕。 離れ離れになった

目の前に

「だいじょーぶなの?

まりぃは少ししんぱいだよー」

血塗れたギロチンがちらつく。

「......あ、ああ、大丈夫。大丈夫だよ」

声を出したことで、肩に入っていた力が抜ける。

まりぃ: マリィか? 僕はマリィの頭を撫でる。

「う~ まりぃはくすぐったいよー」

ふにゃん、 と表情を柔らかく崩し、 自ら僕の手に頭を押し付ける。

ただ、 ンがフラッシュバックのようにちらつくのは......。 何故だろう。 マリィに触れるたびに、 脳裏に鈍く光るギロチ

「君はどこから来たんだい?」

「君じゃないよ? まりぃはまりぃだよー」

゙......マリィはどこから来たんだい?」

あっちだよー まりぃはとおーいとおーいとこから来たんだよ

西洋人であろうマリィが日本にいる。 とを言いたいのだろう。 きっと外国から来たというこ

あなたはだーれ? まりぃはきいてなかったことを今きくよー」

いが、 そういえば、 名乗っていなかった......。 球磨川禊と名乗ってもい

「僕は、フェイト・アーウェルンクスだよ」

口は勝手に自分の名を言っていた。

「ふえー。ふえ? ふえーと?」

ている。 自分の言葉に首を傾げながら、 マリィは何度も名前の発音を確かめ

· ふえーと。 ふえーと?」

フェイト、 だよ」

「ふえーと

まぁ、 いいか・・・・・。

に戻す。 僕はマリィの頭に置いた手をポケットの中

身体の震えは治まった。

「それじゃマリィ。気をつけて帰るんだよ」

そういってマリィから背を向ける。

おかしくない。 ここは裏通り。 いくら幼いといっても可愛い子だ。 人拐いが出ても

ましてや秋葉原だ。 てもおかしくないからね。 デュナミスみたいに幼女にハァハァする奴がい

じたのか......。 それにしても、 『ギロチン』 あとで少し調べてみようか。 か。 この時代には縁遠いモノを何故感

Ļ 一歩進んだ瞬間に足を取られ、 顔面を強打した。

.....何故に。

 $\neg$ かってに動いちゃ、 めし まりぃはふぇーとをつかまえたよ

.

上体を起こして背後に目をやると、 マリィがいた。 僕の両足を抱え、 へばりついた

とマリィは強く目を瞑って強く抱きついている。

くにあったギロチンで両断する。 『このロリコンめが!!』という一つ目の雲が脳内に現れたが、 近

『ノー!!』

おお、うざいうざい。

のうんめーを見過ごすわけにはいかないよー 「ふえーとはまりぃといっ しょにいなきゃ、 め まりぃはこ

だからって運命にしがみつかれても......。

険を伴う裏仕事だ。 いくら日本が危険の少ない国だといっても、 さすがにマリィを連れていくわけにはいかない。 僕が探しているのは危

とりあえず、足にくっついたマリィを外して、

「やー!!」

顔にくっつかれた。 めがー めがー 見えない。

幼くても女の子か、 いい匂いがしてくるが、 これじゃ息が出来ない。

顔面に幼女がくっついた球磨川禊。 シュール過ぎて笑えないよ。

りぃはふえー 「ふぇーとがまりぃをつれてくーって言うまで離れない! との息がくすぐったくても離れないことをせんげんす ま

もがふが (そんな宣言されても)」

「あっはははっはははは! まりぃはふぇーとの息がくすぐった

ってくる。 くすぐったくても本気で離れないようで、 息が出来なくて苦しくな

わふっふ、 わふっふふ (分かった、 分かったよ)」

んう、 むずむずー。 まりぃ はふぇーとの息でむずむず

するよ......」

ん ? .. マリィの声が変わったような、どこか艶やかな気が

僕はすぐさまマリィの両脇に手を入れて正面に来るように掲げる。

マリィを見ると、 ぽーっと頬を染め虚ろな目で僕を見ていた。

よね、 もう一人の僕。 :. うん、 僕は何もやってないし、 何も見ていない。 そうだ

脳裏で「ヤッちまったな 」と親指を立てているもう一人の自分を

殴り飛ばした。

すぐさまマリィを地面に下ろし、ズボンを払いながら立ち上がる。

手をつかんで離さないよー!」 うー? 連れていく気になった? まりい はふぇー との右

元に戻ったマリィは僕の右手を両手で捕まえ離さない。

マリィ。 両親.... ... お母さんとお父さんはいないのかい?」

う。 どっちもいないよー。 まりぃは首を傾げるよー」

….ではなく、 不思議そうに僕の問いに答えるマリィ。

......親を知らない様子だ。

孤児、なのだろうか。

がらマリィの面倒を見るのはキツいかもしれない。 ただ、これからは危なくなる可能性がある.. 裏の仕事をしな

焔になら任せられるが、 現状焔がどこに跳ばされたのかは分からな

「マリィ。 僕といるのは危険だよ? それでも僕と一緒に来るかい

いこう。昔も今もそうしてきた。 ここで躊躇うなら、魔法で眠らせて信用出来そうな孤児院に連れて

マリィは五歳児とは思えない優しげな微笑みを見せる。

生きていくんだよー がったうんめーはもう切れないよ。 「ぐーぜんだったけど、ひつぜんなのかもしれない。 マリィはふえーとといっ ふえー とと繋

そういって僕の右手の指を絡めるように手を握った。

これで、僕についていくと手を取ったのが六人目になってしまった。

分かった。それじゃ、一緒に行こう」

うわーい!」

世界でなく日本で見つけることになるなんて。 こうやって孤児を連れていくのは久し振りだ......。 まさか、 魔法

手を繋いで歩き出す。 視線だけをマリィへと移す。

楽しそうに、 嬉しそうに、ぴょんぴょんと跳ねながら歩くマリィ。

マリィに残る断頭の痕も。 :. まだ、 この子のことはよく分からない。 脳裏に映るギロチ

ただ、 そのうち分かる。 ふと確証もなくそう思った。

柄じゃないけど、また、守るモノが増えた。

「これからどこに行くのー? まりぃはちょっと気になるよー!」

......そうだ。京都に行こう」

「きょーと? きょーとってどこー? まりぃはぜんぜん知らない

「そうだね。...........なんかボロいとこかな」

「ぼろー?」

「おっぱけやーしきー」

「ぼろー! まりぃはどんなとこか今からわくわくだよー!!」

さて、京都へ足を進めようか......。

## Part5 人形の魂の質 (後書き)

え ? クロス元がなんで『Dies irae ?

3/ キノ京 真人

意味なんてねーよ!

ゴメンナサイでしたー!!

B ソ 井ノ原 真人

親指の筋肉が暴走したんです。暴徒と化したんです。

い、 すいません。 ぁ 痛 石を投げないでクレー

さ!! はい、 これはもう確定事項ですので。 作者原作やったことないけど

詠唱がかっこよすぎるのが悪いんだ!! んだ!! 中二病が再発しちゃった

男はいつまで経っても、中二病なのさ(笑)

マリィ そしてちょっとおバカ。 ファンの人すいません。 うちのマリィ はロリロリっ娘なんで

色々と聖遺物の設定が変わる可能性大です。ネギまのキャラに聖遺 キャラには無理くさい 物を使わせるにはエイヴィヒカイトの魂を喰わせる設定とかネギま 原作ファンの人にとっては凄まじく嫌悪感があると思います。 んで 0

ワー ドのうちに入っています。 こんなのですがどうでしょう? ドに書いてありますし..... さらに駄文になりますが、 この聖遺物クロスもキー

どうか今後ともよろしくお願い します! 感想も随時 ネタ

# 《アクセス数10000突破記念》 (前書き)

どもども。東方人です。

今日見たら、アクセス数12000越え、 となってました!! ユニーク数2200越え

来たぜ、来たぜ... ... 俺たちのサタデーナイトフィーバーが!

お気に入り件数も52!

感想17件!

短編時代には考えられないことです!!

ありがとうございます!!

嬉しくて即興でおまけを書いてしまうぐらい!!

か知ってても分からないかも(笑) しかもDies irae知らない人はまったく分からないという とは言ったものの......これは凄まじくネタバレになってます。

すんません。 でも、 かいちまったんだ......。

### 《アクセス数10000突破記念》

月 日

うまれたー

でも、なんかへんー。

めのまえにマスクのひとがいるー。

はだかんぼだ~。 まりぃもだけどー。

《まりぃのにっきちょー》

× 月 ¥ 日

まるだった~。 いちばんさいしょのごはんはー、 ふよふようかんでるまっちろまん

ましまろ? ちがうみたいー。 たましいだってー。

たましいってましまろだったんだね~。

ふわふわあまあまだったよー。

〇月~日

マスクのひとがしろいかみのおとこのひとになぐられてたー。

「どこからさらってきたんだー!!」って。いたそう~。

あとおともだちができた~。

やみやみーっていうんだってー。

いっしょにかれおちよーぜ!!」っていってるけどー。

かれおちるってなーに?

¥ 月 日

マスクのひとがてをワキワキさせてちかよってきたー。

すぐにしろいおとこのひとにぶっとばされた~。 まなのかなー? あきないなー。 Ŋ

ひまならまりぃとあそんでほしいなー。

でもたましいたべたらねむくなっちゃったよ~。 ねる~。

マスクのひとにあそんでーっていったらはだかんぼーになったー。

すぐにしろいおとこのひとになぐられてた~。

てんじょうにつきささったよ~?

おもしろいねー

しろいおとこのひとがあたまなでなでしてくれた~。

まりぃはまんぞくー

〇月 日

またおともだちがふえたー

ぶぉんぶぉんいってるばいくさんだー。

ただはなしかけてもへんじしてくれなーい。

やみやみーとなかがわるいみたいー。

「しがいをさらせェ!!」

よろこびのうちにほろびるがイイ!!」ってけんかしてる~。

まりぃがケンカしちゃめー っていったらやめてくれたー。

さすがまりぃだね~。 かんぜんしょー り!!

@月<sub>%</sub>日

ぶぉんぶぉんばいくさんのなまえをぶぉんくんにけってー

つれし のかぶぉんぶぉんいってる~。

ごこをぶぉんくんにあげてた~。 やみやみーもしゅくふくしてくれてるみたいで、 おひるのたましい

マスクのひとがつんでれーっていってたー。

つんでれーっ てやみやみー のことなのかな?

〇月@日

まきなおじちゃんもきたー

しゃべんないけど、なんだかあったか~。

でもすぐにどこかにいっちゃったー。

「.....だれかがよんでる」って。

ろうがいにむちうってってなんだろー?

まきなおじちゃんのはなしはむずかしくてわかんない~。

S 月 日

えでよんでほしいんだってー。 わるきゅー れちゃんがきたー いっぱいいっぱいおしゃべりしたよ~。 でもほんにんはちがうなま

なんだかじょーしのぐちがおおかったなー。

れんあいしょじょってなんだろー?

あとやみやみーとぶぉんくんがまたケンカしてたー。

ふたりともおやつぬきだって~。

わるきゅーれちゃんが「ばかだーばかがいるー」 ってあきれてたー。

\$ 月 日

ひいろがねのひーちゃんとわるきゅーれちゃんはなかがいいみたい

ちゃんおこるけど。 つんでれー つんでれー」 ってわるきゅーれちゃんがいうと、 ひ

あといつのまにかやみやみーがいなくなってた。

ぶぉんくんがぶぉんぶぉんないてたなー。

やっぱりふたりはなかよしだったみたい~。

月〇日

マスクのひとがやりのロンちゃんをもってきたー。

すぐにロンちゃんのどくはくがはじまったけど、ほとんどむずかし くてわかんなかった。

わるきゅーれちゃんはぐーぐーねてたし。 としてたー。 ひーちゃんはおーばーひ

ぶぉんくんはぶぉんぶぉんいってたけどよくわかってないみたいl。

まりぃがロンちゃんっていったら「 かいっておどりだしたー。 これはみちだ!!」と

みちってあるくところのことでしょ~?

ロンちゃんはやっぱりよくわからないこだよ~。

\$月〇日

いとっぽいこがきたー。

でもロンちゃんがきっちゃったー。

たましいがいっぱいでてきたからみんなでわけっこしたよー。

りぃにはよくわかんなかったな~。 わるきゅーれちゃんが「けーせーぷぷぷ」ってわらってたけど、 ま

あんなよわよわなけーせーなんてないよ~?

でもたましいおいしかった

ロンちゃんがわけてくれたからいっぱいたべられた!

やっぱりロンちゃんいいひと~。

\$ 月 日

なんだかでっかいたいほ— さんがきたよ?

わるきゅーれちゃんが「げぇ......」っていったらおこりだしたけ ロンちゃんがとめたらおとなしくなったよ~。

@月日

きょー はおいしゃ さんにかかるんだって~

マスクのひとがいってたー。

「たましいをほきゅーするひつようせいをなくす」っていってた~。

よくわからないけど、マスクのひとがおいしゃさんなんだってー。

あと、 しろいおとこのひとがいなくなってた~。

マスクのひとにきいたらなきだしちゃった~。

まりぃ がいいこいいこしてあげるからないちゃめーだよ。

おなかがあんまりへらなくなったー。

でも、 みんなどこかにいっちゃった。 ひまだなー。

しろいおとこのひとにあたまなでなでしてもらいたいけどー。

マスクのひとがないちゃうからいうのはやめよ~っと。

月@日

かくのひさしぶり。でもしろいかみにかいてるよー。

さっき「いいかげんわたしにかくのやめてくれない?」ってにっき さんがしゃべったよ!?

そしたらみみがちょっとだけながいおんなのこがにっきさんをもっ てっちゃったー。

みんないないしつまんなーい。

@月@日

ほんとに書くのひさしぶり。

おそとに出てみた

まりぃならなんでもできるもん!!

きっとまりぃを使ってくれるひとがいるはず!!

まずはゲートポートまでいってみるよ!

まりぃはてんいしてちがう世界にいくんだよー!

白いおとこのひとみたいなふんいきなひとをさがそーっと。

ゴーゴー

# 《アクセス数10000突破記念》(後書き)

ぶはつ。 まりぃのセリフがひらがな多すぎてめんどくさっ!!

これからもこの小説をよろしくお願いします!

もしもここまで読んでくれてる人がいるならば、 のようなモノを。 少しアンケート?

自分が思う『転生時のテンプレー ト能力』 とはなんですか?

う。 自分はやはりエミヤの投影だと思うんですが、皆さんはどうでしょ よければ感想で自分が思うテンプレート能力を教えてください

投影になりそうです。 現在のPart9の制作に関わってくるため、 なければ、エミヤの

......どういうことかは、またその時に。

t9制作が終わり次第Part6をあげたいと思います!!

マリィ

「なにぃ、うけてたーつ!!」

生まれた日は?

1900ねん1がつ1にち!!」

マリィ

住所は?

「ほっかいどー!!」

マリィ

名前は?

「ああああ」マリィ

#### フェイト

「別に僕達忙しくないんだから、真面目にやったらどうだい?」

マリィ

「覚えてろー!!」

『いまに見てろー!!』

ļ

フェイト

「出ていくならパソコンをシャットダウンさせていって欲しいな...

· · ·

吸血鬼とメイドと紫もやしのコントを見てから。 人形と幼女。

#### a r t 6 まりい のせー いぶつこーさ

それをあらわすよー だし どっかー かーらー んつ まりぃ はせーいぶつでー、 って強いんだよ!! ざしゅ まりぃはてぶりで ばしゃ

. 全然分からない」

なんでさー

京都への道のりの最中。 マリィが正義の味方の口癖を言えるように

なったぐらいに染まったある日。

僕ことふえ 幼女マリィ の前で首を傾げていた。 じゃなく、 フェイト アー ウェルンクスは、

現在マリィは自分の強さを表しているのか、 擬音を口に出して騒いでいる。 両手をぶんぶん振り回

話は......少し前に戻る。

まりぃのせー いぶつこーざ

ねえ、 ふえーと。 まだ着かないのー? まりぃはもうつかれたよ

「まだだよ。 あと、 疲れたっていうから肩車しているんだよ?」

### 京都まではまだ遠い。

疲れたと駄々をこねるマリィを肩車して歩き出してから何時間か経 った頃だった。

景色はあまり変わっていない。少しだけビルがなくなってきたぐら

うー。 つーまーんーなーいー」

マリィは僕の髪を引っ張り、 うし、 うし、 と文句ばかり。

止めて。僕の頭皮のライフはもうゼロだよ。

禿げる禿げる。

まだまだー まりぃ はじゃ んじゃ んモンスター カードを引くよ

それはカードではなくヘアーです。 ゃなくても涙ちょちょぎれる。 というか地味に痛い。 女の子じ

僕としか会話をしていないからか、 嫌悪感がない分楽しそうだ。 マリィもどんどんネタを覚えて

マリィ。 君はちゃんと僕の話を聞いているかい?」

まりぃ のばとるふぇいすはしゅー してないよー

闘顔ってなにさ。 切り返しおかしい。 ストリー そしてフェイスじゃなくてフェイズだから。 トファイター の濃い男達みたいな顔かい?

というより、 ない口笛を口で言って誤魔化している。 まったく聞いていなかったみたいだ。 今じゃ 吹けもし

話とは、これからどうするか.....だ。

かない。 裏の仕事を見つけるのはいいが、 その間マリィはどこかに預けるし

戦闘は確実にある。 いくら僕でもマリィを護りながら戦うのは難し

۱,

それをマリィに言っているのだけど、

「もんだいなーし! まりぃ はふぇー とのかみをむしり続けるよー

į

hį 「だってまりぃは強いんだよー。 まりぃはかみを引っ張るのあきたー」 たたかいだってもんだいないもー

強いって言われてもね..

いはあてにならないから困る。 このままだと無理矢理戦闘に出よう

身体能力も同程度で戦えるわけがない。

マリィの強

としそうだ。

見た目五歳児。

説得しても駄々を捏ねる。 もう魔法で眠らせた方がいいかもしれな

لح ポツリと、

まりぃはせーいぶつ。 にんげんじゃないもん。 まりぃはとっても

どこか伏し目がちにマリィが呟いた。

.. せーいぶつ? 人間じゃない?

ということは、僕がマリィに感じた違和感はこれのことだったのか ? マリィに触れるたびにギロチンが脳裏を掠めるのもそのせいか

もしれない。

ここから、 話が元に戻る。

せーいぶつ。『聖遺物』のことだろうか.....。

聖遺物 確か、 キリスト教におけるイエス・キリストの遺物。

もしくはそれに準ずる聖人の遺物.....だったかな。

生前に偉業を成し遂げた聖人の物品は、 死後にもその力が宿り、 奇

跡を起こす......それが聖遺物の概念だったはず。

代表的なのが、やはりキリスト関係。

彼の者を磔にするさいに使用された『聖十字架』

彼の者の手足を十字架に打ち付ける際に使用された『聖釘』

彼の者がこの世を去った際にその亡骸を包んだといわれる『聖骸布』

彼の者が最後の晩餐に使用したといわれる『聖杯』

そして、 槍 といわれる『聖槍』 彼の者の脇腹を刺したという最も代表的な『ロンギヌスの

最後二つは様々な創作物に使用されるほど有名なものだ。

Fateとかエヴァンゲリオンとかね......。

にしても、 ......というより、 マリィが『聖遺物』 遺物だというのに五歳児ってどういうことさ。 ? 生きた聖遺物があるはずがない

鬼だけで十分だ。 まさか歳を取っていないと? エター ナルロリー タはどこかの吸血

Ļ 抜けた。 思考の海に潜っていたが、またしてもマリィに髪を引っ張

いきなりうなだれてどーしたの?」

犯人は君だ。

コナン君ばりの名推理しなくたって分かるだろう。 十歳程度で禿げ

とか物凄く嫌なんだけど......。

話が逸れてしまう。 聖遺物の話を続けよう。

はまったく違うようだけど」 「マリィ。 君は本当に聖遺物なのかい? 僕の知っている聖遺物と

りい 「そのせー が言ってるせー いぶつって、 いぶつとはちがうよー。 彼の者の関係のせー いぶつでしょ まりぃはとくいげにし 1 ? ま

そのままマリィは歌うように続ける。

いうし うなんだよー! 「まりぃたちのせー のを受けて、 まりぃはかまずに言えたことをじまんするよー!」 それじしんもしねんをもったきぶつのそーしょ いぶつっていうのはねー? 人々のしねんって

いわゆる— まじっくうぇぽんだね!! とマリィは言葉を切った。

しねん......思念か。

物だというならその力で擬人化すら出来ると......。 聖遺物自体が意思を持っているということか? マリィ自身が聖遺

そして、 聖遺物= マジックウェポンということになる。

だろうか..... 魔法武器』..... アーティファクトと同程度と認識していいの

## いまいちよく分からないが、

マリィ。 なら君も聖遺物ということは武器になれるのかい?」

るよー 「なれるよー。 ちょうなれるよー まりいはふえーとと合体す

......ん? 合体? アクエリオン?

僕が首を傾げている間に、 の方に振り返った。 マリィはぴょんと飛んで着地すると、 僕

満面の笑み。 それはどこかで見たことがあった笑顔...

確か、 マリィの元気一杯の掛け声と共に彼女の体が光と共にボヤけた。そ 誰かに必要とされた時に、 誰かが浮かべた笑顔だった気がし

A s s i a n

脳裏で小さく響く機械音があった。

そのまま僕に抱きつくように突進する。

瞬間、 抱き止めようとしたマリィが僕の体を貫通し、 消えた。

.....は?

思わず疑問の音が漏れた。周りを見渡してもマリィはいない。

でも、いる。マリィは確かに存在している。

僕の中で.....

**6** 

9

頭の奥でマリィの声が響いた。 ただ何の言語か分からない。

バチリとスイッ ようになった。 チが切り替わったようにマリィの言語が理解できる

しかも、 が急激に鋭くなり、 身体に薄く透明な服を着たような感覚がある。 身体能力も上がっている。 そして五感

法なら無傷でいれるような気がする。 はっきりいって異常、 今の段階なら魔法障壁なしにしても中威力魔 何故だ?

魔力を目に集中させると、 内部に、 刻んだ覚えのない術式が身体を覆っていた。 常時展開している曼荼羅型の魔法障壁の

語でもギリシア語でもない。 複雑に組まれた術式は見ただけではまったく理解出来ない。 ラテン

これは.... れているかすら分からなかった。 ドイツ語か? 覚えていないドイツ語では何と刻ま

しかもこの術式.....やたらと魔力を喰う。

マリィ。 この理論すら分からない術式はいったいなんだい?」

。 え? じゅつしき? え、えーと。えーと、 ね

脳裏で頭を抱えて考えているマリィが浮かぶ。

えび? えいびて......ラー? かいてー。えび、えびて

所々に海産物が出現しているが

『そうだ! " えびてんかいてー"

は ? 海老天買いてー? マリィは海老天が食べたいのか

۱۱ ?

『あ**ー**。 あれれ? ん し、 たべる』

本人も完全に分かっていないようだ。 あと、どこかで海老天買おう。

7 まりぃは今からえびてんにむちゅうだよー 6

..このよくわからない術式についてはあとで調べよう。 こ

の術式はカット出来るのか?

意識を不明な術式に合わせて、 カットする。 それが発動しないように魔力補給を

能力も元に戻る。 .. ちゃんと停止したね。 透明な服を纏っている感覚もなくなった。 術式発動が止まると、五感も身体

が発動する。 とりあえず、 相乗効果で五感と身体能力が上がる.....と、 マリィが僕の身体の中にいる時は、 無意識にこの術式 こん

なものかな。

それで? これが武器なのかい?」

としか発現できてないよー!! 『まだまだー 第一位階ぐらいじゃまりぃのぱうわーはちょこっ 第二位階へぼそんじゃ んぷっ!

響いた。 と、バチリと目の奥で何かが光ったと同時に、 脳裏で同じ機械音が

Yetzilah

今度はちゃんと聞き取れた。

『形成』だったかな。

刹那、 体内で血液が爆発するかのような衝撃が迸った。

浮かび上がって血が暴れる。 ギチギチと軋みを上げる右腕自体が意識を持つかのように、 血管が

た。	瞬 間、
	右腕部分が弾け飛び、
	黒い何かに覆われ赤い紋様が浮かび出

「こ、これは.....ッ!!」

ふ、服が弾け飛んだ......高かったのに。

『はんのうがちがうよっ!? まりぃの力のけっしょー なんだからー ふくじゃ なくっ てうでをみてよー!

視線を腕に戻すと、 巨大な刃をもったギロチンが生えていた。 黒い装甲のような物に覆われていて、 そこから

波紋が赤く波打ち、 首を刈り取るためだけに作られた刃が鈍く光る。

自分がバカみたいだ。 あ、有り得ない..... アーティファクトぐらいだと思っていた

大量殺戮という惨劇を造り出す兵器だった。 化け物兵器。 感じたのは武器なんてチャチなものではな

『罪姫・正義の柱』

真名は、 考えずとも脳裏に浮かんだ。

これは能力といっていいのか.. 有り得ないほどの『即死性』

こ
h
1-
اب
触
触れ
触れた
にだ
だ
1+
けで通常の生
Ĉ
迪
常
<u></u>
<u>س</u>
王
生物
<i>T</i> >
なっ
$\frac{2}{2}$
自
を
を切り
ツレ
断
2
ħ.
듔
かに
<u>ار</u>
至
ラ ろ
ď

真租の吸血鬼であろうとこれで首を剥ねたら不死など関係なく一撃 で殺せるだろう。

じゃない。 ついでにもう身体能力が化け物染みている。 五感が鋭すぎて共感覚のように統一されたようだ。 身体能力だけ

きっと高等魔法ですらゼロ距離直撃でも無傷でいられる。

バグやチー トすら超えているよ『聖遺物』

マリィだけで世界を落とせるよ... これなんて無理ゲ?

7 なんだろー。 もっとこう、 わー っておどろくと思ったのに

ı
う
, I
まり
い
はな
なん
だか
お
もし
3
くか
1,1
よー
<u></u>

これでも十二分に驚いているんだけどね......

までもどるよ~』 『むひょーじょーだからわかんないー。 うー、うー。 まりいは活動

けるように消えていった。 とマリィは不機嫌そうに言うと、ギロチンは景色に溶

......服は元に戻らないんだね。

『うあー!! 首ちょんぱっ!!』

ジャキンッ!! と自分の首が飛ぶ光景が脳裏に映り、 ドッと嫌悪

凄まじく気持ち悪い....。

それ前にもやったよね..... 一体なんなんだい?」

るくさせるわざだよー。 『ちょくせつせーしんに《死》 まりぃはこれを"汚染切断"とよぶよー!に《死》を叩きこんで、うえーってきもちわ

.!

そんな安っぽい技じゃないから。 よこれ......。 普通に一般人ならショック死する

『 おお、 こわいこわいー。 まりぃはちょっとウザいかおでつぶやく

おお、ウザいウザい。

とりあえず、 で相手の身体の一部が吹き飛びそうだ。 『聖遺物』 はあまり使わない方がいいね。 多分拳一発

というわけで、 マリィを使うかどうかは保留」

『なんでさー!? つかってよー!!』

マリィを使うとなると戦いじゃなくて虐殺になってしまうよ」

『ぎゃくさついーでしょ じえのさーいどっ!!』

なにこの子怖い......。

『聖遺物』 について... マリィの言う。えびてんかいてー。 とり

『じえのさー いどっ!!』

気に入ったのかい?

『うん』

素直だね。 .....と、看板が見えてきた。

京都府。 長かったよ.....。

『着いたのー? まりぃは外に出るよー』

言葉通り、 身体から何かが抜ける感覚を覚え、 肩に小さな重みを感

ぽぅ、 ロキョロと見渡していた。 と光と共にマリィが肩の上に現れる。 周りを珍しそうにキョ

ここがきょーと? まりぃはきょー みしんしんだよー!」

そうだよ。 それじゃ、 海老天でも買いにいこうか」

「えびてー ん ! ふえーと、 ふえーと はやくいこー

こうとする。 マリィは肩から飛び降りると、 僕の手を取り、 笑顔で引っ張ってい

弛んでいそうだね。 まるで妹が出来たようだ. 自分じゃ分からないが、 表情も

「きょーとヘゴーゴー!!」

「はいはい」

まぁ、仕事を探すのは後でいいかな.....

## t 6 まりぃ のせーいぶつこーざ (後書き)

始まったよ大学が。 ちてしまう。 ただでさえ筆が遅いのに、 さらに更新速度が落

なのにP 実は、 a r t 6あげちゃったよ。 まだPart9一文字も書いてないんだ。 ふへへ、

ふへへ。

やベーやベー。マジでやベー。

と誰かの魔力と気の何倍という形にしようと思います。 結局テンプレはエミヤの投影(疑似ゲート・オブ・バビロン付き) のだと巧くフェイトと相対出来ない気がして......。 つーか、他

さらに更新速度が落ち、駄文率がさらに上昇。

これからも見守ってくれると嬉しいです!!

あと、もうちょいで20000アクセスになります!! わふー

てなわけで、おまけを考えていますが、ネギま! じゃありません。

けとしてアップします!! ん ? と思った人もいると思いますが、 まったく別の作品をおま

本編は本編。 おまけはおまけとして見てくれると嬉しいです。

最後に、我らがヒーローエミヤンと英雄エミヤの魔術回路の本数を 知ってる人!! 教えてくだせぇ!!

次回。多分おまけ。メルヘン冷蔵庫の反逆

## 《アクセス数20000突破記念》(前書き)

苦八苦してる東方人です。 どもとも、東方人です。材料力学とか流体力学とかわかんなくて四

はい、おまけっす。

アクセス数23000超え

ユニーク数4200超え

お気に入り登録件数 78

感想 3 2

もう、 ありがとうございますとしか言えない!!

ありがとうございます!!

これからも、 更新は遅くなりますが、どうかよろしくお願いします

感想。 ネタ。 随時受け付けてます!! よろしく!!

さて、今回のおまけですが...........。

予定していたのと、違うモノに。

なんで俺こんなん書いてんだろ?

はっきり言って意味解らないと思います。

舞台はネギまになってますが、 あしからず。 本編とはまったく違う世界ですので

駄文注意です。 いせ、 この小説読んでる人は知ってるか...

## 《アクセス数20000突破記念》

日本の関東地方には、二つの巨大な学園都市がある。

学園という巨大な学園が存在する学園都市。 一つはあらゆる才能を持った人間が集まり、 青春を謳歌する真帆良

そして、もう一つは、 いる大人よりも学生が多い学園都市。 0年は先を行っている科学が進歩し続けて

表面上見れば、 協定を結んでいる二つの都市だ。

だが、やはり裏は存在する。

麻帆良は魔術とは違う系統を持つ魔法使いが多数存在する。

そして学園都市側は、 レベルが最高に達すれば、 一人で国を落とせ

るような超能力を持つ学生が存在した。

物語は、 複雑に交差する。

..... はい? 交換、学生?」

「そうでーす!」

上条当麻という少年がいる。

中肉中背で、 二のようなツンツン頭だ。 少し筋肉がついているかもしれない体格。 特徴的なウ

見た目は何処にでもいそうな風貌の少年。

黒の詰襟に黒のスラックスという学校指定の制服を着ている。 シャツが見えていた。 やすいよう、詰襟のボタンは止めずに全開にして、 中から赤系のT 動き

な担任、 そんな上条の前には、 月詠小萌が笑顔で立っていた。 赤いランドセルが良く似合いそうなほど小さ

脳ミソをフル回転させ、現状を噛み砕く上条。

話を要約すると、

(上条ちゃ・ ちまーす。 上条ちやー あああああああああああああああああ hį 出席日数が全然足りないから学園都市追放で手を打 バカだから補習でーす、 ってことでせうか? が超絶ランクアップして、 ふ 不幸だアアアああ

生は、 思わず頭を抱えて悶える上条を見ても、 顔色ひとつ変えない小萌先

ことが進級条件になります」 て貰いますから。 「ということで、 そこで半年間勉強してもらって、 上条ちゃんは三日後に麻帆良学園都市の方に行っ 出席日数を補う

先 生。 マジですかり と詰め寄る上条に、 マジでーす、 と返答する小萌

た。 上条当麻という人間の人生は、 ここ何ヵ月か波瀾に満ちたモノだっ

記憶がない状態での錬金術師との戦闘。 され入院した。 結果勝つも右腕は切り落と

学園都市最強の ほどの怪我を負い入院。 L e V e15と戦闘。 結果辛勝。 ぼろ布ようになる

たゴー 夏休み最終日には1日二回も魔術師に襲われ、 レムを操る魔術師と戦い、 小さな怪我で済んだが疲労は蓄積。 新学期には土で出来

結果助けるも怪我が酷くて入院。 一人のシスターを助けるために仲間と共に二万人相手に大立回り。

続いて風紀委員の女の子を最後に助け、 の二度の戦闘。 当然入院。 大覇星祭の間には逃走者と

ん怪我が酷くて強制送還され入院した。 くじに当たってヤッターと外国に行けば、 氷の船での死闘。 もちろ

り広げ、 神の右席である前方のヴェントと学園都市の命運を懸けた死闘を繰 めでたく入院。

改めて振り返ると、 れてしまう。 よく俺死ななかったなぁ、 と上条は自分でも呆

そして、 そんなに入院していて、 出席日数が足りるわけがないのだ。

その結果が
か、それ
をチャー
フにする
にめの
交換学生
生らしい。

上条は永久追放よりはマシか.. ....と思い、それを承諾する。

ただ、問題は残っている。

インデックスだ。

..アイツは流石に連れていけませんよね?」

インデックスちゃんの面倒を見ますから!!」 「だいじょーぶ!! 上条ちゃんがあちらへ行っている時は先生が

小萌先生が自分の胸をトンと叩き胸を張る。

「まぁ、なんとかなるだろ」

久し振りに魔術師に翻弄されない静かな生活を送るのもいいかもし

れない。

開き直った上条は、 麻帆良学園都市に向かうための準備を始めるの

だった。

デカい。

上
条
の
麻
帆
良
学
悥
都
市
の
第
_
囙
象
は
ソ
レ
た
シェ
た。

ないかと思うほど。 上条が生活してきた学園都市も相当デカいが、 それを上回るんじゃ

上条は今さらながら緊張し、 小萌先生に渡された手紙に目を落とす。

なんでもこれを麻帆良の学園長に見せればいいらしい。

その学園長がいる場所とは、 何故か麻帆良学園女子中等部。

純情少年上条当麻には、 少し敷居が高い場所だが、 勇気を振り絞る。

゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙ 悪いのは俺だし。 ここでは頑張って勉強するか!」

$\overline{}$
_
<b>つ</b>
、ゴ
决
そう決心した上条は前を向くと、
11
יטיַי
Ι.
$\cup$
+-
1
<b>L</b>
工
Þ
余
i
٦٦
<u></u>
田川
הם
を
ب
向
الدا
1
1
سل
_
`
麻帆良学園へと一

ピシ、ピシピシピシピシ。 .. バキンッ!!

右手が何かに触れた瞬間、何かが砕け散った。

「.....はれ?」

上条の不幸は舞台が変わろうとつき纏うようだ。

: む? おੑ おおっ!? 魔力が戻ってきたぞ!!」

何処かの吸血鬼が上条を狙い始めることを、

あああ!!!」 「なんかよくわかんねーけど、 た、多分不幸だァァあああああああ

彼はまだ知らない。

白く 白い。 まるで混濁した白を連想させる少年がいた。

触れれば折れてしまう。そんなハリガネのように細い体躯。

さらに足が不自由なのか、右手には装着系のト字の現代的な杖。

そして、首筋にはスイッチの存在する黒いチョーカーが見えた。

ンで、俺は何をすりゃいいンだ?」

赤い眼光が不気味に煌めく。

**一方通行** 

彼の持つ『ベクトル操作』 の名をある研究者が付けたものだ。

本人もすでに自分の名を忘れ、一方通行と名乗っている。

現在は夜の帳も落ち、 るようだ。 まるで白い一方通行だけが浮かび上がってい

彼は右耳に黒い無骨な携帯電話を当てている。

相手は暗部組織『グループ』の土御門元春。

『暴れろ。ただそれだけでいい。但し殺すな』

めンのかァ? 「オイオイオイ、 っつか、 なンだそりゃ。 コレ俺が指名手配されるパターンだろすが」 上は学園都市間で戦争でもおっ 始

フザケンナ、 二重手配かよ、 と一方通行は憤りを顕にするように携

帯電話
は
シ
ミシ
کے
握()
締
める
_0

『問題ない』

甚大じゃねェか」 「そりゃオマエにとっちゃ問題ないだろォが、俺にしてみりゃ被害

違う。 オマエの任務は暴れることが本当の任務じゃない』

淡々と言葉を発する土御門に、 一方通行は怪訝な声を上げる。

......... どォいうことだァ?」

7 麻帆良学園都市に、 第二位が入り込んでいる』

と一方通行の口から漏れたのは疑問。

現 在、 の目の前のベンチに座り込んだところだ。 一方通行は麻帆良内部にいる。 今は中央に位置する巨大な木

「第二位が入り込ンでいやがるとして、 この俺になンの関係がある」

反乱を企んでいる』 る《公式》を自身の《自分だけの現実》に組み込み、パーソナルデータ パーソナルデータ の垣根帝督は、麻帆自常二位............《未元物質》の垣根帝督は、麻帆自 《未元物質》 麻帆良に存在するあ 学園都市への

|位程度でンなこと出来るわけねェってのによォ!!」 くはっ。 たった一人の反乱劇ってかァ!? 高々第

真夜中であるにも係わらず、 のバカさ加減に爆笑する。 膝を叩き、 一方通行はまだ見ぬ第二位

一方通行でさえ、その足下すら届かなかった。アックセットータ
第一位の自分ですら、たった一人で世界を滅び たった一人で世界を滅ぼせるような力を持つ

そんな自分よりも劣る第二位が、出来るわけがない。

っつーことは、 なンだ? 結局俺は何すりゃいいンだよ」

7 その土地で暴れて、 第二位を誘き出せ。そして捕らえる』

捕らえる、 ねェ.....。 ぶっ殺していいンだろすなァ?」

この麻帆良で暴れるということは、この土地の人間も敵に回して第 一位を炙り出す。

しかも、 を危険に晒すこととなる。 学園都市に反逆するということは、 守り抜くと決めた少女

そして、 一方通行がこんな面倒なことを起こした相手を、

: 構わん。 だが、 脳だけは盗ってこい。

に建ててきてやンよォ! 「オッケーオッケー! 愉快痛快な不細工オブジェをこの麻帆良

赦すはずもない。

つ 一方通行はそのまま携帯を切ると、 ポケットに滑り込ませ、 杖を使

てゆっくりと立ち上がる。

「さァて、どうやら客が来たみてェだなァ」

方通行はグチャリ、 と擬音が付きそうに口の端を歪める。

方通行は目を細め、 前方の長い長い階段を見下ろす。

二人の少女。

どちらも麻帆良学園の制服を纏っている。

そこまでは、どこにでもいる女子学生だ。

言って対人戦で普通は使用しないだろう背丈と同じぐらいの野太刀。 黒髪を片方に纏めている方の少女は、 右手に儀式用...... はっきり

ゆっ ほどの威圧感。 くりと階段を上ってくるその姿は、 背後に陽炎を揺らめかせる

いとわない眼だ。 一方通行を見据えるその瞳は、 暗く、 黒く、 濁り。 人を殺すことを

野太刀を持つ少女の数歩後ろからついてくる。 もう一人は一方通行よりも高い背。 褐色の肌に長い黒髪を靡かせ、

片手ずつ、 鈍く光を反射する銃身の少し長い拳銃があった。

いる。 すでに安全装置は外されているだろう。 ハンマー が僅かに引かれて

ಶ್ಠ まるで柳。 こっちは何の感慨もなく、 微笑すら口元にたたえ、 淡々と人を殺すだろう。 飄々と歩む姿には共感すら覚え

年齢と実力が合わないのは、 『闇』の中では良くあること。

一方通行は、 くかか、 と声を漏らし、 首筋のスイッチに触れる。

そすいや、と一方通行はあることを思い出す。

(あのガキと一緒にやったゲームにも、こンな状況がなかったっけ

か?)

ιζί 脳裏にちょこまかと自分の周りを動き回るアホ毛少女を思い出し、 と真っ白な、 雑じり気のない笑みを浮かべ、

カチリ、とスイッチを入れ、

広げ、 体重を掛けていた現代的な杖を無造作に投げ捨て、 まるで恋人でも迎えるような仕草。 両腕をユラリと

れェェェえええええええええええええええええッッッ!!!」

十二分に手加減してやっから、本気で命懸けやが

「来いよガキ共。

真夜中の舞踏会。

とされた。 『最強』と『烏族』 と『魔族』 のダンスパーティ の幕が切って落

## 天使の翼を持ったバケモノ。

た。 相対するタカミチ・T・高畑は、 を振り絞り、 荒い息を吐きながら掠れる視界の中、 今すぐにでも零れ落ちそうな意識 前方を睨み付け

白いスーツは鎌鼬に切り刻まれたようにボロボロで、 らは血が滲み出る。 裂けた皮膚か

ねえよ」 「遅え、 遅え、 クソ遅え。 音速にも届いてねえ時点で、 届くわけが

朗々と。 青年ぐらいの低い声が、 タカミチの耳に異様に響く。

るのは稀だぜ?」 ンタが初めてだ。 でもまぁ、 超能力も無しに拳圧なんか飛ばしてきやがったのはア そこは素直に称賛する。 誇れよ。 俺が他人を認め

顔を右手で覆い、 常識が通用しねえってのは、 クククと肩を震わせる。 まさにこういうことを言うんだな。 لح

トを思わせるスーツを纏った青年。 8 C mは届くだろう身長に、 肩まで伸びた茶髪。どこかのホス

その背には、 白い 白い、 数10mにも及ぶ六枚の翼が存在した。

だが、 所詮それだけだ。 俺が求める《公式》じゃねえ」

能面のような無表情に戻っ 上の石ころを見るような、 た青年は両手をポケットに突っ そんな目でタカミチを見下す。 込み、 路

若いならそんな目で見下されることに耐えられず、 激昂するだろう。

だが、 タカミチはすでに壮年。

実力差があるのは当に分かっているが、 現状青年は油断している。

気により拳圧をコーティングして豪砲を放つ『豪殺居合い拳』をぶ そこを突けば、とタカミチはまだ動く右手を二~三度握り、 魔力と

つけようと、ポケットに右手を滑り込ませようとして、

予測めてんだよ」

翼から放たれた音速を優に超える一枚の羽が、 々と切断した。 タカミチの右腕を易

ァが、がああああああッ!?」

一気に襲う激痛。

焼けた悲鳴を轟かせ、タカミチは無様に地面をのたうち回る。 体裁なんて気にすることすら出来ず、 喉が潰れてしまいそうなほど

左手で傷口を抑えようにも、 まりが出来ていく。 血はまるで止まらず、ダクダクと血溜

死ぬ前に失せろ」 「これで理解出来たろ。 アンタは俺にとって路上のゴミに等しい。

青年は呆れたように嘆息すると、

にたくね 「俺は最低の人間だが、 無闇に命まで取るつもりはねえよ。 まだ死

スパンッ、 と空気の破裂音と共に青年の首が60度曲がる。

ぐわんぐわん、 と視界が揺れ、 吐き気と共に、 頭が沸騰する。

正面を凝視した。 ブチリッ とコメカミが鳴ると同時にグルリッ!! と青年は

左拳から白煙が立ち、ダラリと体を揺らすタカミチがいる。

流れる血の量のせいか、 顔色は蒼く、 異常なほど汗が吹き出ていた。

それでも、口の端を歪め、

余り、 大人を嘗めるなよ。 小僧」

本人を知っていれば、 目を丸くするだろうほど口悪く青年を罵る。

青年の額には青筋が走り、 瞳孔が極限まで開かれ、

が殺す。 完全無欠に消し飛べよオオおおおおおおおおおおおおおおおお 躊躇わず殺す。惨たらしく殺す。 ムカついた。 クソったれ

おおおおおッッッ!

闇に煌めく白刃の翼。 極限まで凝縮された白い翼が爆発する。

この世に存在しない物質により、 創造された新たな物理法則は、

人間を、蒸発させた。

え 「遅れたが、 俺は垣根帝督。 俺の《未元物質》 に 常識は通用しね

つつか、 聞こえてねーか。と垣根はその場から踵を返し、

歩き出す。

その場は、 敷き詰められた石畳は無惨に抉り出され、 爆心地のよう

に跡形もなくなっている。

そして、その中心には、

大人の男性レベルの大きさの影だけが、 縫い付けられていた。

「タカミチ君が...

:殺された」

激震が走る麻帆良学園。

「ターゲットは、 学園都市より侵入してきた《未元物質》と《一方

通行》 じゃ」

もはや、
戦 争。
闇夜の中で始まり
一で始まる
-で始まる超能力と魔
法に
よる殺し合い
し合い。

へえ。 これが《魔法》 ってヤツか」

垣根帝督は、その身に新たな公式を組み込む。

テメェは... ツ ! ? チッ、今はテメェの相手をしてる暇はね

ェンだよ!」

二度目の邂逅を果たす《幻想殺し》と《一方通行》

魔術ではない。 魔法という存在に、 上条当麻も足を踏み入れる。

アンタが、 アンタが高畑先生を.. ツツツ

「だ ダメですアスナさん!! 《未元物質》 に対抗出来るわけが

「放して刹那さん!! アイツが、 アイツがァァァ ああああああ!

泣き叫び、 暴れるアスナを刹那は問答無用で押さえ付ける。

隣で前を見たまま杖を握り締め震えるネギ。

れ 「やめとけ嬢ちゃん。 今の俺は気分がいい。 殺さねえから失せてく

なんで、 なんでタカミチを殺したんですか?」

ムカついたから。 それ以外に理由がいるか? クソガキ」

下がれ。ネギ」

震えるネギの肩を引き、 前に出るLeve10

eveloが、 意気がるなよ。ぶつ殺すぞ?」

やがんだァァ ああああああああああああ 「テメェは... ....ッ!! 人の命を、 人の想いをなんだと思って

## 学園都市第二位>s学園都市最弱

《幻想殺し (イマジンブレイカー)》 が : .... 効かねぇ?」

テメェでも、重力までは消せねえだろ」 「俺の能力は、 元にあった物理法則に付随させることだって可能だ。

手も足も出ずに、敗北する。

うーってかァ!?」 かアアアき根くウウウウウウウン あっそびましょ

かったぜェェェえええ! 方通行アアあああああああああああああああり 会いた

一位と二位。

その差は、ほんの一握り。

テメエ!? 物理法則に何ぶちこみやがったアアア!!」

超えたぜ最強! 《公式》を組み込んだ俺が最強だ!!

黒い翼にすら拮抗する。反射を突き抜ける白い翼。

テメェはもう後戻りは出来ねェよ

ᆫ

この場所で出来た仲間を助けるために、

「悪ィが

いいぜ」

共闘するヒーロー。

「お前の思い通りに、

皆の願いを踏み潰すような『野望』

は

241

「俺がそんな幻想はぶち殺す!!」

こっから先は、 一方通行だ!!」

超能力と魔法が複雑に交差するとき、

物語が始まる

これ超浜面出てませんよ?」

パンフレットを叩き、 スを着ている少女。 ジト目のまま視線をずらすニットのワンピー

「......ホントだ。はまづらがいない」

ていた。 ピンクのジャ ジを着ている少女は、 ぼーっとパンフレットを眺め

ध् 無茶言うなよ。 なんも能力がない俺が行ったら即効死ぬぞ?」

氷を噛み砕きながらボソリと呟くチンピラ風の男。

情けなさが滲み出ていた。

「ま、それが所詮浜面の限界ってわけよ」

「うっせー!!」

さらさらの金髪の上にベレー帽を被った少女が缶詰を開けつつ、 ヤリと笑う。

「お前が一番うるせぇよ浜面。ちょっと黙れ」

「す、すまん......」

半袖の 男を罵る。 トのようなワンピースを着た少女が、 携帯片手に

一言二言携帯に向かって喋ると、 携帯を閉じ、 立ち上がる。

それに合わせて、全員が立ち上がる。

パンフレット漁りとか超希望します」 「それで? 今日の仕事はなんなんですか麦野。 私としては映画の

「天体観測、とか......

買い物買い物 やっぱ私的に流行りの洋服とか欲しいわけよ」

うるせえバカ共。 そんな仕事あるわけないでしょうが」

「......結局何すんだ?」

「.....保育園で保母変わりよ」

そう言って、 リーダー 《麦野 沈利》 は先を行く。

和で超良いですけど」 はっきり言って毎回仕事が暗部のやることじゃないですよね。 平

の後に続く。 《絹旗最愛》 は持っていたパンフレットをゴミ箱に投げ捨て、 麦野

わけよ 「平和が一番! 血生臭いことやるより子供と遊ぶ方が有意義って

ニッシシ、と笑い、腕を頭の後ろで交差して歩き出す《フレンダ》

「......いこ、はまづら」

ゆったりと足を進める《滝壺理后》

·.....ま、こんな日常もいいよな」

最後に大きく笑った《浜面仕上》

今日も『アイテム』は平和であったとさ....

## 《アクセス数20000突破記念》(後書き)

い よ ? まさかのとある×ネギまでした。うん、 意味わかんないでし

とある15巻再構成。 舞台はネギまってことで。

2日で書きました。見直ししてないので多分酷いです。

さてさて、今回は後書きで自分が好きなゲームの話でもしようかな

こうまきょう》 されている東方Projectの二次創作? はい、これを書くとき、やっていたゲームは、 から続くシリーズです。 カスガソフトから出 《忙しい人のための

すべてプロの声優による声。 全編会話で地の文無し。

時に笑いあり時に笑いあり時に笑いあり時に呆然。

東方キャラが縦横無尽に入り乱れ、 突っ込む。 騒ぎ、ぐだぐだにボケ、 ボケ、

自分は大体中心にいるおぜうと、 たった一人だけ全シリーズに出て

いる突っ込むパチェさんが大好きです。

組だけだし(笑) ただ、大体紅魔館組が中心です。文花帖なんて天狗出ないで紅魔館

笑えるから。 気になった人は、ようつべかニコニコでショー トコントを見よう。

次回は一週間以内にアップ出来れば嬉しいです。

次回。10円ェ.....。

講義の合間に、投稿しますた。

東方人です。今回から原作開始になります。

京都編に入りますぜ。原作とまるで違うフェイトはどうするのか...

まぁ、いつも通りですけど。

では、皆さんご唱和くださーい。

『ゆっくりしていってね!!』

「えびてんうまー」

゙......ありがとう。助かったよ」

いや、まぁ、ウチは気にしとりませんし」

京 都。 清水寺近くの小さな茶屋に、僕ことフェイト・

アーウェルンクスはいた。

隣でははむはむと美味しそうに海老天を食べているマリィ。

そして、そんなマリィの隣には艶やかな着物姿の一人の女性がいた。

ずに、ふぇーと、と呼ぶため、あだ名だと説明するはめになったが。 僕は偽名として球磨川禊と名乗った。 ただマリィにはそれを理解せ

今は、茶屋で三人並んでお茶を楽しんでいる。

はて、

なんでこうなったんだろう.........。

人生のターニングポイント. それは10円の有無

「えびてんー えびてん!! まりぃはえびてんをしょもうする

すいません、 海老天一つと... あと、 葛切り一つ」

ふ ふ ふ はい、 分かりました。 少々お待ちください」

現 在、 いた。 清水寺近くの茶屋に、僕ことフェイト・ アーウェルンクスは

すでにマリィは「えびてん!」 と楽しそうに騒いでいる。

表に出された赤い布で覆われた簡素な長椅子にマリィは座り、 ブラと足を揺らす。

まだかなー。 まだかなー? まりぃは待ちきれないよー

すぐに来るさ」

僕はマリィの隣に腰掛け、 スラックスの上から足を擦る。

キバキになって凄まじく痛い。 もう二度と徒歩で東京から京都まで行くなんてやらない。 足がバッ

こ、それを見たマリィが、ニヤリと唇を歪め、

「えい つんつーん」

人差し指で痙攣しているふくらはぎを突っついてくる。

ちょ、おま、自重しろ。

オマエモナー」

おお、ひどいひどい。

腕部分の上着は、結局直らなかった。 酷いと言えば、マリィという『聖遺物』 を発動したせいで弾けた右

つまり、 今の僕は右腕だけ半袖のようになってしまっている。

ファッション? いいえ、ただのアホです。

まさか......さっき店員が笑っていたのも、 いからじゃなく、 ただ僕の格好を見て笑ったのだろうか。 兄妹みたいで微笑まし

だったら、恥ずかしくて死ぬる。

を稼いでからになりそうだ。 早めに直したいが、 いくらかかるか分からない。 どうにかしてお金

『創造』まで位階が上がって覚醒すれば、 とマリィは言ったが、 今後服が直らないことは

そもそも『創造』ってなにさ。

で何言ってるか分からない。 マリィに聞いても「ずしゃー、 で、どっかーん!」とか擬音ばかり

· あ、そうだー」

何かを思い出したように、 で何かを探る。 マリィはガサゴソと僕の見えないところ

「ねぇ、ふぇーと。さっきこんなのひろったー」

赤いビー玉のような瞳 そういって笑顔でマリィが取り出したのは、 真っ白な体に耳の長い

「ボクと契約して、魔法少女に

アアアアアアアアアアアアアアアー!!??」 「うわァァァァ ああああああああああああああああああアアアア

なった。 に突き刺さり、耳を劈く轟音と共に、魔力の極限放出と強制魔力圧縮で、塩 振り抜いた右拳はソレの真正面 ソレは音速を突き破って星に

耳に 僕はそれを脳から削除する。 わけがわからないよ という声がこびりつくが、

というか、何故いる白い営業厨QB.....

この世界に一番いちゃいけない生物のくせに.

せっかく拾ってきたのにー」

うー、うー、と頬を膨らませるマリィ。

頼むから二度と拾ってこないでくださいっ!

......トラウマなんだよ、アレ。

お待たせしました!」

と、海老天と葛切りがやって来た。

店員に受け取った海老天の乗った皿を、 マリィへと渡す。

「まってたよー まりぃ はお腹ペー こぺこだよー

マリィが海老天を落とさないように皿を支える。

ぶりついた。 マリィは、 その小さな両手で海老天を掴むと、大きく口を開けてか

「はむっ。 むぐむぐ、ん、うまー 」

どうやらお気に召したようで、顔を綻ばせながら食べ続ける。

ご飯粒を頬にくっつけたままなのはご愛嬌。

さて、僕の方も葛切りを食べ、

むぐむぐ、んぐ、どーしたの? ふぇーと」

「とってもおいしかった件ッ!」

何時食ったし...

というか何故食うし......。

ハァ、とため息が無意識に出る。

もう残り少ない葛切りは一口サイズ。

しかもマリィがかぶりついたせいか、 断面が妙に滑っている。

の唾液まみれの葛切りとか. ·ねえよ。

脳裏で「おおいにアリだ! と狂乱するデュナミスが出てきたが、

頭を振って掻き消す。

だが、 んだ。 食べないわけにもいかないし、 僕は葛切りを口の中に放り込

海老の味がする葛切りって。 しかも、 妙に甘い。

蜂蜜無駄に塗りたくってその上でお汁粉に漬けてプリンぐっちゃぐ ちゃにして流し込んだぐらい甘かった。 マリィの唾液......のせいか分からないが、 砂糖大量にぶっかけて

お口の中がカオス空間や~......ぐふっ

いぎ室で起きてるんじゃない......ちゃやで起きてるんだよっ 「むぐっ!? ふぇーとがいきなりとけつしたよ!! じけんはか

ネタに走らず心配してほしいよ......。

それよりもえびてんがもうないよ!! ついかえびてーん!

にいい

## 何勝手に追加注文している幼女。

幼女特権はっつどー を逆手にとるよっ! まりぃは今はじぶんのがいけんねんれ

する。 なにそのチー 主に体がキモい奴と。 トカード。 禁止カー ドに.. . 前にもやった気が

デュナミスのことかーっ!!!」

クリリンかよ... んて教えてないんだけど。 ......というか何故知ってる。デュナミスの名前な

北北西からでんぱがきたよ! すかぴー

あなたどこの滝壺さん。 れないかな」 第三のヒーローが迎えに来るから止めて

海老天がやってきた。 はまずらのことかーっ とマリィが叫ぶと同時に追加注文した

はまずらがえびてんになったよ!」

イミフ過ぎるので超止めてくださいマジで。

ネタ会話を止め、海老天に夢中になるマリィを横目に、 た日本茶に口をつける。 ただで貰え

日本茶はちょうどいい苦さで.. 何故甘いし。

ぁ ふえーと。 それはまりぃのおちゃだよー?」

マリィの主成分は砂糖で出来ているのかい?

体は砂糖で出来ている。

血潮は練乳で、心はメープル。とか......。

甘ったる過ぎて逆に吐きそうだ。

苦味が喉を通り、 自分お茶に手を伸ばし、 息をつく。 口の中を洗浄する。 ようやく日本茶本来の

ついかー!!」

また食へるの力し?	ミニ食べるのハー・
しし力派山めたらとつたし」	11日或上り こうごうごう

あといっこー」

あと一個なら別にいいか...

マリィがもう一個頼むのを店は予測していたのか、すぐに追加の海

老天がやってきた。

.. そういえば、 一体いくらになるんだっけ。

海老天. 葛切り. 3 0 0 円 5 5 0 円

... え?

バッ・ と財布を開いて所持金の確認に入る。

野口さんが一枚。 .. デカイ銀のコインが一枚。 普通の銀のコ

インが四枚。

......銅のコインが四枚。

「海老天×3= 1 6 5 0 円 葛切り×1= 3 0 0 円 合計1950

F

所持金1940円。

10円足らずに人生終了のお知らせ。

10円ェ..

マズい。 逃げたら完全に旧世界にいられなくなってしまう......。 これは本格的にマズい。どうする? 逃げるか? なな

だが、この状況で空から10円が降ってくるぐらいしか打開出来な いんだが。

いっそのこと店員の記憶を消して、 ゲートで逃げた方が早い気もす

ಠ್ಠ

むぐむぐ、うまー

暢気に海老天を食べているマリィが、 ないし.......詰んだかな。 お金なんて持っているわけが

助什
7
ドラ
助けてドラえも~
\ \ '
h,
本気で!
気
で
!
!

ダラダラと流れてくる脂汗が顎を伝って地面に染みを作る。

ま、待てよ? 今の僕の格好は球磨川禊だ。

土壇場で過負荷に目覚めるのだってジャンプならごく自然なことだ

人生を左右するこの土壇場に覚醒するのなんて当たり前ッ!!

さあ、 き (オールフィクション)』を発動 自分ッ! 今こそ現実で起こったことを虚構にする『大嘘憑

出来れば苦労しない.....ッッッ!!!

分かんないけど」 するふぇーとがしんぱいだよー。 「いきなりうなだれてどーしたの? 何にたいしてぜつぼー まりぃはぜつぼー してるかは のポーズを

隣からマリィ の心配そうな声が届くが、 今の僕に返事する余裕はな

地面の上で四つん這いになって項垂れる僕に、 救いの手は来ない。

ない。 この茶屋。 石畳の道の側にあるが、 この道を通る人間がほとんどい

通行人がいれば1 0円恵んで貰えればなんとかなるというのに.....

絶望した。 0円如きに左右されるフェイト・ ウェルンクス

鬱だ。 死のう......。

「あー、どないしたん僕?」

ふと、 マリィの声でも店員の声でもない、女性の声が耳に届いた。

「僕のことかい?この塵芥にも等しいこの僕かい?」

ーきない~。 ひーとみーをとーじてー、ざんげーをすーるよー。 (byひらい風) そーれしーかで

思うえ?」 ち 塵芥って... その歳で人生後悔しはるのは早すぎやと

なんだこの人。まさか女神!?

鏡をかけた日本人女性だった。 が模様として描かれた着物を身に纏っている、 ゆっくり顔を上げた僕の目に映ったのは全体的に浅葱色で蓮華の花 二十代後半辺りの眼

一体どないしたん? ウチでよければ話してみまへんか?」

その人は心配そうに、 かべてくれている。 だけど僕が不安にならないようにと笑みを浮

優しい。でも、その優しさが痛い!

こんな人生絶望したような人間の言葉が、 て酷すぎる。 0円貸して」 だなん

なせ 実は

おかねたりないのー。 まりぃ はふぇー とのかわりに言っちゃうよ

イイイ イツツツ

なんやそないなことか... いくら足りないん?」

女性は肩に入っていた力を抜くと、 懐から財布を取り出した。

じゃあとりあえず、

じゅ、 0円足りないんだ」

0円な? はい、 どうぞ」

......な、なんて優しい人なんだ。

おねーさんのおなまえはー?」

**ウチか?** ウチは天ヶ崎千草いいます。 お嬢ちゃんは?」

まりぃはまりぃだよー それでこっちがふえーと!!」

「ふえーと?」

いや、それが渾名なんだ。名前は球磨川禊」

僕は長椅子に座り、 球磨川禊の名を騙る。 せっかくこの格好でいる

んだから、この名で通さないと。

やし、 (髪は黒、 偽名やな。 せやかて明らかに染めた跡がある。 訳有りなんか?)そか、 よろしゅうな禊はん」 顔が完全に西洋人

千草さんは何も言わずに返してくれた。

注視すると、千草さんからは東方特有の魔力構造が見受けられる。

彼女はきっと陰陽師か何かの血族なのだろう。

もしかしたら、 裏の仕事関係を知っているかもしれない。

はおねー 「おねーさんも、 さんをナンパしてみるよ!」 ここにすわっていっ しょにおちゃしよー。 まりぃ

きっとマリィはナンパの意味も分かっていないだろう。

マリィは隣をぽんぽんと叩き、千草さんに座るよう促す。

それに、ふふ、と小さく笑った千草さんは、

せてもらおか」 「マリィちゃ んはおませさんやな~。 ほな、 お姉ちゃんもご一緒さ

そういって、マリィの隣へと腰掛けた。

左から僕、 マリィ、千草さんと長椅子に座っている。

「注文ええか?」

「はい、どうぞー」

「えびてんおいしーよ!!」

「そうなん? ほな、えびてん二つ」

`かしこまりました。少々お待ちください」

マリィのえびてんコールで千草さんも海老天を頼んだ。

今のうちに話をしてみよう。

「千草さん」

「ん?なんや禊はん」

遠回りするのは面倒だ。率直に聞こう。

貴女は陰陽術師なのかい?」

_
ビタリ、
·.
IJ
<b>~</b>
•
٠.
لے
彼女
′/   //
<u>"</u>
प्र
$\hat{a}$
(J)
の動
車川
<u></u> /-
$\Rightarrow$
I
きが
. i
止まる。
$\pm$
盂
7
ක
~

まるで世界が彼女を置き去りにして時間を動かしているような感覚。

空気が渇れる。

次に僕に振り向いた顔には、 感情というモノが欠落していた。

もらうことになるんやけど」 ... 禊はん。 アンタ何モンや? 返答次第でこの場で消えて

慈悲も何も無い、平坦すぎて抑揚のない声。

た。 千草さんの手の内には致死性の傷を負うことになるだろう札があっ 殺気もそれなりにある。

## 本当に返答次第では戦闘になりそうだ。

今の僕達にはお金が無くてね。 どんな仕事でもいいからお金を稼ぎ たいのさ。じゃないと、 「僕はフリーの西洋魔術師なんだ。 ご飯も食べられないし。 貴女に10円恵んで貰った通り 服も直せない」

ひもじいのは嫌です。

すると、 して、 千草さんは先程の殺気立った空気を掻き消し、 キョトンと

と思とったえ」 なんや、その右腕部分ないんはオシャレのつもりでやっとるんだ

それはないよ......

けど?」 術師つうんは、 「にしても、 フリーの西洋魔術師か......。 正義正義とやたらうるさい奴らやと思っとったんや ウチが知っとる西洋魔

「彼らが掲げる正義は歪だ。 そして、口だけの正義に価値はない。 初めて正義と言えるんだ」 あんなモノは正義という言葉の冒涜だ 行動し、 その結果が伴っ

まず、 の正義を知ってからだ。 立派な魔法使いになりたいならFateをやれ。 そこで本当

. ダメだ。 デュナミスのヤツまだ販売してなかったよ。

.....言うな~

める。 ひゅ と口笛を吹いた千草さんは面白いと言わんばかりに唇を歪

ますえ 関東魔法協会と関西呪術協会に喧嘩売るっちゅ : やる?」 仕事があり

成された西洋魔術師の集まりだったはずだ。 関東魔法協会』 確か、 麻帆良にある学園都市を中心に形

な魔力を内包していた気がした。 あそこには神木・蟠桃がある。 魔法世界と旧世界を繋ぐことも可能

る集まりだったはずだ。 9 関西呪術協会』... こちらはよく知らないが、 陰陽術師によ

頂点には『紅き翼』 今は近衛詠春だったかな。 の《サムライ それが纏めているらしい。 ・マスター》 の青山詠春

) こうがこれを思りよう。
---------------

ことをすること。 この二つに喧嘩を売るということは、この危うい均衡を崩すような

「その二つを敵に回したとして、勝てる算段はあるのかい?」

「ある。 :. が、 いうんはあんさんが仲間になってからどすえ」

「分かった」

即答する。

それに千草さんは眉をひそめた。

あっさり決めたようやけど、本気なん?」

「今の僕達に仕事を選んでいる余裕はないんだ」

色が浮かぶ。 千草さんは僕に10円を恵んだのを思い出したのか、 視線に同情の

同情するなら金をくれい。

あー、

ほな、

短い間やけどよろしゅうな」

「こちらこそ」

千草さんと固い握手を交わす。

『天ヶ崎千草が仲間になった!!』

ドラクエ? というか実際に仲間になったのは僕の方だけどね。

「えびてんうまー」

いつまで食ってるんだいマリィ.......。

むげんに食べられるよ!」 「まりぃの胃袋はうちゅー なんだよ! これぐらいのえびてんなら

君はどこのチャンプなんだい......

どもども。 D O G DAYS』にハマリ、 『日常』で爆笑して、

『まどか』がトラウマになった東方人です。

キュゥベえマジキュゥベえェ........。

マスコットキャラが一番怖かったアニメなんて初めてですよ......

: (;

見なければよかった......。

そして、ネギまの世界に存在するキュゥべえ... 夕映とか危

ねえ!!

まぁ、 多分(笑) ネタとして出しただけだから、 もう出てこないだろうけど。

285

あの「 くるからヤバい。 わけがわからないよ」 という台詞は今もリピートで聞こえて

まぁ、 すが、 まどかはもう二度と見ないとして、 <sup>□</sup> DOG  $DAYS_1$ で

リコッタ可愛いよリコッタ。

エクレールもいい!!

そしてけものだま (?)の可愛さは異常。

新しく した。 初めてのオリ主で。 D O G DAYS<sub>1</sub> の二次創作が書きたくなってしまいま

平行して書くかもしれません。 しいです! その時はちょん読みしてくれると嬉

×ネギま!の方も。

ダメだった所や、 人称は苦手なので...........。 書き方について教えてもらえると嬉しいです。三

ネタは随時募集中!-

今度の記念 (進行状況による)には、 してみようと思っています。 フェイト以外のキャラを動か

意見がなければ、 麻帆良に行ってしまった焔のことでも。

次回の更新は未定です。 と思います。 P a r 0が書き終わればアップしたい

では。また。

次回。犬×狂人×参戦。

## Part8 ボケる人形、 ツッコミ犬 (前書き)

ストックが、 ストックが切れる... : ッ !

それでも、投稿する俺っちはバカどす。

ばなー。 書く暇が無さすぎるのがいかんのでござる。くっそー、 休みがあれ

つうか、大学。

ゴールデンウィーク無しってなんでやねん。

ホント .. なんでや (泣)

## Part8 ボケる人形、ツッコミ犬

疲れたと駄々を捏ねるマリィを肩車したまま歩いている。 千草さんと共に行動を始めた僕ことフェイト・アー ウェルンクスは、

今は本通りを外れ、細い路地を歩いていた。

このまま行くと小さな無人の小屋の近くへと出るらしい。

そこに他の仲間がいる。二人だそうだ。

口には出していないが、 たった四人で戦争が出来るとは思わない。

反旗を翻したのだろう。 口振りからして西洋魔術師を怨んでいるようだから、 多分突発的に

「げどー」

外道結構。ニートになるためさ。

「すがすがしいほどのげどー。 まりぃはそこにあこがれないし、 し

びれないよー」

呆れるように呟いたマリィは、 僕の頭に顎を乗せると、口をパクパ

クさせて振動を送ってくる。

痛くはない。 だけどネタの詰まった脳細胞がマッハで死滅していく。

あうあうあうあー」

君何処の土着神?」

. もりやー」

そうだね。 常識は投げ捨てるものだね。 だいたい守矢のせいだね」

今から裏の仕事するよーには見えへんなぁ」 (い、意味わからん.. ....) の、暢気やなー、お二人さん。

千草さんは視線だけをこちらへ送り、どこか微笑ましそうに言う。

実際顔が引き攣っているが。

ねーちん、幼女、負完全(偽)。

というか幼女が混じっている段階で誰も予想しないはずだ。

にが、 、
それはカ
ハモフラ
ージュが
が出来て
いるとい
いうこと。

スゴいな幼女、流石だ幼女、幼女サイコーッ!!

「それ宣言したらただの変態どすえ?」

ニヤニヤしている中年男のことを指しているのさ」 「甘いよ千草さん、変態という言葉は常に全裸でエロゲやりながら

゚..........そりゃ視界にも入れたくないわな」

だってさ、デュナミス。 ヤッタね、 知らないところで嫌われたよ。

いなんだよ!!」 「というかよーじょよーじょ言うなー!! まりぃはりっぱなれで

え? レティ?

はふとってないよー!! 「当たり判定デカイだけ..... .. ってちがうもーんっ!! まりぃ

その魔の手はやはり髪の毛に向かう。

肩の上で暴れるマリィ。

脳細胞が死にまくったのに、 今度は頭皮が死ぬ。

は僕の頭に何か恨みでもあるのかい?

·んー? ただたんにつかみやすいからー」

残酷な真実をありがとう。もう一生肩車したくないんだけど、 ۱ ا ۱ ا

「だめー。 まりぃはかたくなにはなれようとはしないもんねー」

だからって僕の顔に手を回さないで欲しいんだけど。

視界が真つ暗だよ。目が一、目が一。

は 千草さんの言葉に、 竹林に囲まれた小さな小屋があった。 マリィの小さな手を退けると、少し行った先に

お世辞にも綺麗とは言えない小屋だったが、 口をつむぐ。 常識を知っている僕は

が、

「これぞぼろー まりぃはきょーとっぽさをようやく知ったよ

. |-

さすが幼女。言葉を選ぶ気がない。

隣を見てよ。 千草さんのコメカミがピクピクしてるから。

「ま、 レてまうし」 まぁ、 ボロなのはしゃあないなぁ。 あんま立派なトコやとバ

確かに」

だと、そういうことだね。 木を隠すなら森の中。ボロい本拠地を隠すならボロい寺が多い京都

あんさん今京都府民全員を敵に回しましたえ」

なっぜーに(赤い玉になる超能力者風味)。

本気で符を構える千草さんに内心ビクビクしていると、 小屋の扉が震えだした。 ガタガタと

ゆーれー?」

怖いのか震えている。 頭上のマリィが扉を見て首を傾げているのが分かる。だが、 やはり

すると、

「なんや、 やっぱ建て付け悪いでこの扉.......

ガタガタと音をたてる扉の奥から少年の小さな声が耳に届いた。

すぐにガタガタという音がドンドンという音に変わる。

あ、 ちょ」

めんどいわ! オラア!!」

飛んだ。 たのか、 千草さんの静止を振り切ったのか、 小屋の中の少年の気合いと共に、 それともただ単に聞こえなかっ 扉は縦回転しながら吹き

.. バカたれ」

千草さんは四つん這いになって項垂れた。

さっき僕もやっていたから共感が持てる。

あん? どうしたんや千草ねーちゃん」

小屋から出てきたのは、 今の僕と同じぐらいの歳の少年だった。

髪は黒く、 ていた。 先の尖った印象がある。 目は勝ち気な感じで吊り上がっ

襟の方は短ランでボタンは全開。 黒い詰襟に黒のスラックスという学生といった感じの服装だが、 無地の赤いTシャツが見えていた。

そして、一番目を引くのは、

イヌミミだー!!」

「うお!? なんやオマエら!」

少年の驚愕に連動して、 頭上にくっついたイヌミミがぴくぴくと動

マリィ ねる。 は僕の頭上から飛び降りると、 目を輝かせて少年の周りを跳

イヌミミー イヌミミだー!! まりぃはとっても気になるよ

なんやこのチビッ子..... ... てかイヌミミイヌミミ言うな」

気が短い方なのか、 にしゃがんだ。 少年はマリィを睨み付けながら目線が合うよう

- いぬやしゃー!!」

にべたべた触んなアアああああ!!」 「誰が犬夜叉やねん!! てか犬夜叉って誰や!? : 耳

くる。 すぐさまマリィは少年のイヌミミに飛び付き、かごめの如く触りま

少年が振り払うように頭を振るが、 まま離れない。 マリィはイヌミミにくっついた

もふもふー イヌミミがもふもふしてる—!!」

僕もちょっと触りたい、 けど他にやりたいことがある。

かしろ!!」 「おい、そこのオマエ! このチビッ子の保護者やろ!? どうに

「ふんつ!」

「あだッ!?」

とりあえずハリセンで少年の頭をぶっ叩いてみたが、

.....おかしいな。獣玉にならない」

や!?」 いきなり何すんねん!! つうかそのハリセンどっから出したん

イヌミミついてるなら叩かれたら獣玉にならないと」

「なんでやねん!!」

スパァァン! と奪われたハリセンで頭を叩かれた。

障壁すら貫通するなんて凄まじいツッコミ力!!...う、うまい!! なんという精確無慈悲なツッコミだ.....ッ

語呂悪ッ!!」

N i c e しないと。 フロニャカの方が語呂いいし。TUUKOMI! 僕も語呂西 僕も語呂悪いと思うよ。 せめて力に

にしても、さすが関西。反応が速いね。

. あ、 \_

「ぎゃあー 耳に指が刺さっとるうううううう

目になって叫ぶ少年。 マリィの人差し指がズブリと少年のイヌミミの中に入ったらしく涙

尾骨の辺りに生えてる黒い尻尾がピンと張って、ザワザワと毛が逆 立っていた。

さすがにやり過ぎたと思ったのか、 マリィはすごすごと僕の方に戻

ごめんねー。 いぬやしゃー」

せやから犬夜叉って誰やァァああああああああああああり!!

しがみついた。

マリィは、

少年の怒声にビクッ!!

と体を震わせると、

僕の足に

「俺の名前は『犬上小太郎』 よす覚えとけッ!!」

イヌミミ少年... 小太郎は自分を右の親指でビシッと指す。

こーたろー?」

マリィの発音だと『幸太郎』 とかになってるね。

小太郎は叫び疲れたのか、	
、ガクッと肩を落とすと、	

「幸太郎やなくて小太郎や。 ... コタロー。 コタローや」

こたろー?」

「そや。 ..... ちゃんと言えるやんけ」

リィの頭を撫でる。 マリィの視線に合うようにしゃがんだ小太郎は、 優しげな笑顔でマ

マリィも嬉しそうだ。

んで? 俺は名乗ったで」

オマエらは?
と立ち上がりながら視線で促す小太郎。

そういえば、まだ名乗ってなかったね。

でも、ただ名乗るだけじゃツマラナイ。

「名乗るほどの者でもなきにしもあらず」

「意味分からんわ!」

まりぃはまりぃだよ! よろしくねこたろー!!」

おう、 よろしゅうなマリィ。 .はよ名乗らんかい」

せ
つ
か
ち
ば
嫌
お
ħ
ろ
7
小
<b>人</b>
· (``
郎

「......オマエにだけは言われたないわ」

「僕の名前は......岡崎銀河ッ!」

岡崎サイコー 早苗さんのパンを食べようとは思わないけど。

け 「銀河やと.. ツ!? メチャメチャかっこええやん

アレ?
本気に取られたよ。冗談なんだけど。

ホントは球磨川禊っていう名前なんだ」

こく少数しかおらんやろ」	そんなもんやと思ったわ。
	銀河なんて壮大な名前つける親なんか

: ッ !? ま、まさかのノリだけ台詞だったなんて。

やるね小太郎」

.....オマエ真面目な顔しとっけど、 ムッチャアホやろ」

何を?

失礼な......。

自覚はある」

「最悪や! オマエ最悪やで!!」

だ。 いいなー。 このツッコミのテンポの良さ。 打てば響くとはこのこと

ばもっと楽しくなりそうだ。 小太郎はあとで完全なる世界に誘おう。 ツッコミが焔と二人になれ

「そんなりゆーでさそうのー?」

理由なんていつでも単純明快な方が好まれるのさ。

よく言うじゃないか、 山を登るのは『そこに山があるからだ』って。

とは分かった」 「なんの話か分からんけど、名言が一瞬にして迷言扱いされとるこ

「どーきがふじゅんだー!」

不純じゃない動機なんてないっ!!

「無駄に言い切ったでコイツ.....」

小太郎の僕を見る目が荒んでいく。

何処で選択肢ミスったのかな?

この世に生まれてきたことー」

「さ、さすがに言い過ぎやと思うで? ... どうすんねんマリ

ィ、襖の奴膝抱えて動かななったで」

「よし、 ほっとこー!!」

何気にキツい奴やっちゃな......」

....どうせ、僕なんて。

デュナミス (へんたい) に作られた人形だよ。

戦うことぐらいしか出来ないニートにもなれないゴミのような存在

うになっとったけど、ニートにもなれないゴミてなんやねん! やろ。普通逆やろ!!」 .... いやいやいやいや!? サラッと言ったから聞き流しそ 逆

何を言ってるんだい小太郎。

ニートはこの世で至高の職業じゃないか。

「オマエが何言っとんねん! オマエほんまのニート知らんやろ!

‥何もしなくても生きていける。 最高じゃないか!

「ふぇーとには言ってもむだだよこたろー」

......そやな」

何故か納得された......解せぬ。

**一解せぬのはオマエの頭や」** 

ットに手を突っ込むと、僕達に背を向けた。 会話に一区切りついたと思ったらしく、 小太郎はスラックスのポケ

とりあえず中入れ。立ち話もなんやし」

そういって未だ四つん這いで項垂れてる千草さんの所へ。

夜になってまうで?」 「千草ねーちゃんもいつまで項垂れとんねん。 はよ仕事の話せんと

誰のせい思ってんどすえ!!」

センで小太郎の頭をひっぱたいた。 口調が変になるぐらいキレていた千草さんは、 放置されていたハリ

あだっ!」

頭を押さえて呻く小太郎を無視して、千草さんは小屋の中へ向かう。

「ほれ、 禊はんもマリィちゃんも中入りなはれ」

うー、いえーい!!」

犬は扉持ってきなはれ、 気揚々と続いて入る。 と付け加えた千草さんの後を、 マリィが意

ん ! . 「扉!? おもくそ蹴っ飛ばしたからどこにあるか分から

後を追った。 キョロキョロと焦って辺りを見渡す小太郎を置いて、 僕もマリィの

「とっとと中入っとれ!!」

最近の若者はキレやすいね。

オマエのせいやァァああああああああ!!」

「あ~、あんさんのこと斬りたいわ~」

中には変態がいた。

318

どうする?

そげぶ

どうぐ (海老の尻尾)

こっから先は以下略

にげる

「み、見つかったで扉.....」

しかし いぬ に まわりこまれた !!

「誰が犬や!!」

「え? 他に誰かいるのかい?」

「素で聞き返すんやない.....ッ!」

小太郎が今にも爆発しそうだから少し自重しようか。

小屋の中は外観通り広くない。

て というより狭いぐらいだ。 変態眼鏡を入れ、五人で庵を囲っている。 現在は千草さんがマリィを膝の上に乗せ

見て早々に僕を斬りたいと言った変態眼鏡は、 で舐め回すように視姦する。 僕を瞳孔の開いた瞳

奇抜なファッションだ。

りばめられている。 これぞゴシックロリータといわんばかりにフリルやらがたくさん散

だが、 小さい太刀と短刀。 それとは不釣り合いに、 正座した膝下には鍔有らずの反りの

それが彼女を剣士足らしめるモノだった。

はたまた本来野太刀を使用するはずの京都神鳴流のはぐれ剣士か。

多分......後者。

だとしたら障壁を素通りする剣技があったはずだから、 いかもしれない。 少し分が悪

「あんさんメッチャ強いやろ~? いいないいな~、 斬り合いたい

ソレヨリモ、キミ、ダレェ?」

゙なんで片言なんやねん.....」

小太郎が小さく突っ込んでくるが、 それを無視して、

そやった。 ウチ『月詠』 言いますー。 よろしゅう頼みますわ~」

改め月詠。 瞳孔の開いた瞳を元に戻し、三つ指つくように頭を下げる変態眼鏡

抜けた口調に、ほんわりと漂わせる雰囲気。

一見隙だらけ。

だけど、間合いに入ったら即白刃が首を刈り取りにくる。

この相反する立ち振舞い。

コイツ......出来るッー!

らなかったと思うなー」 いっしゅんでだいなしになったねー。 まりぃはさいごのネタはい

いや、	
最後のが	
が言いたかっ	
ただ	
けなんだ」	

「やっぱコイツアホやろ.....」

「あはは~。 おもろいな— あんさん」

その後月詠に僕も名乗り、 名前の交換を済ませる。

抱えていたが、とりあえずスルーした。 その間、千草さんが「..........こんなんで大丈夫なんか?」と頭を

仕事の説明しますえ。 よぉ聞いててな?」

千草さんだけ立ち上がり、 説明を始めるために、 周りを見渡す。

千草さんの正面に僕とマリィ。

マリィは疲れたのか、 僕の膝の上でぐっすりと眠っていた。

僕の膝を枕にして、 無垢な寝顔を無防備に晒している。

すうすうと、 少量の唾液が零れている。 小さな寝息が聞こえてきて、 小さく開いた口の端から

健全なエロス。矛盾だよね、コレ。

少し揺らしたぐらいじゃマリィは起きない。

無防備過ぎて逆に襲ってくれと言わんばかりに悩ましげな寝息をた 無邪気さを演出する垂れる唾液がなんともまぁ。

保存すると思ったかい?

しないよ、どっかの電波女のイトコの青春男じゃないんだから。

リイ とりあえず、僕のズボンに唾液が垂れるのは困るからハンカチでマ の口元を拭う。

んう......うー、すう」

何故か笑みを浮かべて寝返りをうつマリィ。 ているのやら.....。 いったいどんな夢を見

## 僕はハンカチをポケットに仕舞い、

「それは保存しとることになるんやないか?」

¬ .....

確かに....。 そう思った僕はハンカチを小太郎に差し出し、

「いるかっ!!」

いるかい?」

即効拒否された.....。

「......話進めてええか?」

コメカミがギシギシいってる千草さんの威圧は凄まじい。

小太郎。 僕の左に胡座をかいて威圧のせいでイヌミミをぺたんと下げている

右に笑みを浮かべたまま正座している月詠がいる。

段階ではその娘を拐って呪術協会を乗っ取ろうと思うてはります」 旅行どすな。その中に関西呪術協会の長、近衛詠春の娘がおる。 「今回関東魔法協会がある麻帆良学園の生徒が京都に来とる。 修学 現

朗々と紡がれる千草さんの言葉を聞きながら思考する。

......近衛詠春の娘、か。

確か東国ー の意向か、 の魔力量を持つという少女らしいが、 未だ魔法関連には関わっていないらしい。 サムライマスター

組織としては最低の決断だが、親としては最高の決断だろう。

ただ、 ね。 それを逆手に取られることを予測しなかったのは愚かだけど

本人が魔法関連をある程度知っていたら対策の立てようもあるけど。

らは後手に回るしかない。 しかも修学旅行という表立って護衛も出来ない状態にある今。 あち

しかも、娘は関東魔法協会の長の孫でもある。

こちらの手に渡ってしまえば、 迂闊に援軍さえ寄越せないだろう。

ぶっちゃけてしまうと、 いうわけだ。 相手側は今「こいつバカだっ!!」 状態と

「 いくらなんでもぶっちゃけ過ぎやろ.......」

小太郎が呆れたように言うが、

も一人でザル状態でしたえ~」 でもまぁ似たようなモンや~。 少し見てきはりましたけど、 護衛

いつでも斬れましたえ~、 と月詠は悦楽の表情で短刀を撫でる。

ンえ!?」 斬ったら意味ないで月詠はん!! 拐うやから! 斬ったらアカ

えー。 つまらんなぁ~」

お姫様は重要な鍵なんどすえ? その身柄を使こうて揺するんや

千草さんは眉をひそめ、 月詠に釘を差すが、 月詠もウズウズしてい

ぉなんで」 じゃあ護衛の方は斬ってもええですか? どうも同流の先輩のよ

好きにしぃ、と千草さんはそこで話を閉じる。

事のうちに入れて考えて行動してもらいますえ」 「ただ、東西の親書を持っとるガキがおるんや。 それを取るのも仕

「.....親書?」

小太郎が呟くように問い掛ける。

	ええ。
今夜は、	まぁ、
)、お姫様を拐いにいきますえ」	周りの見えないガキや。それは明日に持ち越す。.

ニヤリ、と千草さんは唇を歪める。

いい感じに瞳が濁っている。

全て失敗した場合の後のことをまったく考えていない証拠だ。

「先に聞いていいかな?」

「なんや禊はん?」

「もしも、 お姫様を拐えず、親書が西の長に渡った場合はどうする

気だい?」

### 回答は俯き気味の沈黙。

まぁ、 ハナから成功するとは思っていないさ。

仮にも旧世界の二柱。 ことはない。 どう足掻いたところでその柱が崩れるような

確かに、 らお金がないからといって、負け戦に出てまで金を貰う気はない。 負けると分かっていてこんな仕事やるつもりはない。

だが、 ナギ・ スプリングフィー 千草さんの言った親書を持ったガキ.....これは、 ルド の息子のことだろう。

も及ぶ。 その息子はまだ見習い。 人物はいない。 東と西の友好のための使者として、これほど打って付けの だが、 親の名声によってその存在は天上に

はっきりいって、 忘れるところだった『英雄の息子』 の実力。

それを確かめるのに、 この仕事は持ってこいだからね.....。

「それで? 今夜はどうするんだい。 全員で行くのかい?」

留めをしてもらいますえ」 .... ウチと月詠はんが、 実行する。 小太郎と禊はんには足

出した。 そう言った千草さんは眉間にシワを寄せ、 懐から一枚の写真を取り

死なん程度でええ」 ...この男をどうにかして止めておいて欲しい。 無理は言わ

千草さんは苦々しそうに声を圧し殺す。

ァ
それに小太郎が反応する。
に
小
太
郎
が
区
心
9
වේ
怪訝そうに眉をひ
そ
う
に
眉
を
7)
$\overline{}$
そ
眉をひそめ、

		・とうしつことれつ
		ンイツに

でも、 それなら魔法世界に轟くような名声を持っているはずだ。

だが、そんな話は聞いたことがない........。

•
妙に引つ
掛かる
な。

囲気出しとりました。 強い。 ....... 間違いなくウチらの動向にも気付いてそうな雰 

だから、 死なんように... と千草さんは僕に写真を手渡した。

僕は写真に映った男を見る。

反射する銀髪。 美形と言っていい、まるで神が造形したかのような顔立ちに、 左右の違う色の瞳は赤と青、 いわゆるオッドアイ。 光を

そして、こちらを見て浅く笑う男がいた。

ああ、そうか。そういうことか.....

「.....どうしたんや禊?」

「いや、何でもないよ小太郎」

小太郎の疑問の声を聞き流し、男の顔を注視する。

とりあえず、決まったことがある。

本気デ殺シニイコウ。

#### Ρ t 8 ボケる人形、 ツッコミ犬 (後書き)

4
カ
1-
ار
$\doteq$
_
_
先に言っておきます。
+
മ
+
2
+
ᆽ
4
9
Ċ
1*
腪
i⊸
١J
#-
ΨZ
Ή
土
<del>-</del>
石
$\Xi$
入
47
灯
~
7
俺は転生者大好きです!!
C
$\rightarrow$
9
í
!
i
!
-

なにせ転生者関連で中坊のとき今思うと凄まじく痛い小説書いてた ... 本気で。

物語の都合というか、 で流してくれればと。 伏線の紛い物っていうか..... そんな感じ

出さないと無理なんですよね......。 にも劣るレベルだし。 というかこの時点でフェイトのレベルを上げるには、 ネギくんはまだぬこ500匹 転生者ぐらい

まぁ、 そこでもう一度話をさせて貰いますので。 そんなわけでPart9を上げる前にお知らせを上げます。

定。 んで、 ここまで読んでくれとる方にアンケートという名のキャラ設

自分はキャラをぶち壊すのが大好きです。 つまり魔改造というわけ

神楽坂 明日菜

彼女の設定で迷っています。

つは、 原作通り通常。 つまりおバカなおにゃのこ。

二つ目は、 魔改造。 タカミチによる記憶消去無し。 そして、 戦争を

経験したことによる新たな能力の覚醒。

笑) つまり、 ルなアスナの出来上がり。 能力で線や点で殺します(

三つ目、 験したことによる新たな能力の覚醒。 魔改造。 タカミチによる記憶消去無し。 そして、 戦争を経

推薦する能力である。 ただし、 能力はこの感想を送ってきてくれた人が考えた、 もしくは

りうるという (笑) ルなアスナでファー ストブリットとかぶっぱなす可能性まであ

こんなところです。 します!! 1 か、 2か、三つ目は分かりやすく?でお願い

ちなみに、 のであしからず.....。 最初の方で魔改造するといった千雨。これはもう確定な

もしも、 考えます。 このキャラを魔改造しようぜ! 出すこと前提で考えます。 とか送ってもらえたら、

あとはフェイトにフラグとかでも.........。

感想一言でもあると嬉しいです。

次回更新二週間後の可能性大 ( 泣 )

予定は未定の次回予告!

次回。贋作の力、そのコピー。

壊すなよ、僕の世界を。

俺っちです。 どうも、東方人と言いながら風神録のノー マルクリアがやっとな

もらいました。 二度目のお知らせということで、 Part2としてアップさせて

フェイトの思考とオリキャラの反応についてです。 今回のお知らせは、 Ρ art9 Part11の展開、 その時の

前回の後書きにてお知らせの告知をしましたが、それになります。

トモノは大好物です! 言い訳ではないですが、 ほんとに自分は転生者大好きです! チ

なのに、フェイトの思考は真逆に.....。

きゃ ェイトが『聖遺物』 創造』までかち上げるには、転生者レベルが相手でないと、まずフ いう『聖遺物』を『創造』までもっていくと、 本来は転生者なしで流すつもりだったんですが、 けなくなってしまうんです.....。 を使わない可能性が出てきてしまい、マリィと 確実に相手を殺さな 『聖遺物』 を。

作り、 殺したくないので、 自分の技量のせいだといわれるとそれまでですが、 『創造』を発現させる、 オリキャラ、 ڮ 転生者として殺してもいい相手を 原作キャラは

そういうことになったんです。

なくなり、 しまいまして..... となると、 Р フェイトが相手を殺すほどの考えを持たせないといけ а r t8の最後のように転生者アンチのようになって

終的に殺すことになるオリキャラなので、 嫌悪感を抱く可能性..... があるかどうかは読者様次第ですが、 ご理解頂ければと。 最

ほんとにごめんなさい。 ごめんなさい。 そしてそのオリキャラの考えも独自解釈なので..

を同時進行で書いています。 現在は活動報告にも書いたとおり、 P a r 0と P a t

です。 動報告に毎日のつもりで乗せていこうと思っていますので、 新遅くね? 頂けると、 これ からは、現状報告や進行具合、 あとは暇でしたらチラ見でもしていただけると、 やる気倍増なんて.....。 とか思いましたら、活動報告を見ていただけると幸い たまにアンケートや雑談を活 コメントも 次の更

ないかと。 Part9は今日正午近くに更新予定です。シリアスは.....多分

ますが! 自身が叩きだせるドシリアス戦闘を書きます。 代わりにPart10とPart11は己の文才フル活用で自分 期待されると失踪し

では、最後に。

転生者.....俺っちもなりてェェえええええええ!!!

#### P a t 9 ネタであるから許される..... (前書き)

フェイトは二次創作といったモノが、 嫌いなのだ。

本当の理由は我にも解らん。 だが、 毛嫌いしているのは解る。

すことになる二次創作.....特にオリ主が活躍するモノを酷く嫌う。 フェイトは原作至上主義のようなのだ。 だから大抵原作の流れを壊

憎悪していると言ってもいいかもれん。

ネタは乱用しているというのに、 その分別はよく解らん。

からな。 聞いても我の顔を見るだけで、 頑なに理由を口にしようとはしない

焔はその理由が思い当たるらしく、 いっこうに理由は思いつかず、 いい加減諦めた。 我の方をじと目で見てくるが、

まぁ、 な。 フェイトが二次創作を嫌おうが我の仕事に支障は出ないから

だから、フェイトの前ではネタだけを使用することだ。

間違っても演じる (・・ 技など絶対に使用しないことだ。 ・・) なよ。ましてや、まる写しのコピー

本気で殺しにかかってくるぞ.....?

パソコンのキーボードを連打しながらDunamis

# Part9 ネタであるから許される.....

వ్య 陰と陽の双剣と、 音速で繰り出す拳が火花を散らしながら交差す

き出した右膝蹴りで完全に砕く。 フェ イトは固く握り締めた拳を黒剣の腹に叩き付け罅を入れ、 突

· チッ..... !!.

投げつける。 男は舌打ちと共に後方へ飛び、 残りの白剣をフェイトに向かって

た。 剣が中る訳がない。 ぎゅ  $\omega$ と高速回転しながら迫る白剣。 すぐさま震脚と共に繰り出した右拳で撃ち砕い だが、 ただ投げられた

「投影開始.....ッ」

男の詠唱と共に、 またしても両手に双剣が顕現する。

る 鉄が流し込まれるように、 虫酸が走る..... その言霊を聞くたびにフェイトの脳髄に溶けた 脳内が沸騰して血管がぶち切れそうにな

掛けて乱打していく。 瞬動で間合いを詰め、 撃でも入れば致命傷。 魔力で硬化させた拳を相手の急所全てに目 ほぼ殺す気で放った

拳は、 常人には残像しか見えない速度で射出されてい

「グ……。ど、どうなってやがる……ッ!!」

すぎていて、 われ、流され、 顔を苦痛で歪める男。 回避される。 それでも拳は未だ届かない。 その戦い方が鉄の英雄にあまりにも似 全て双剣で払

「余計に腹立たしい.....ッ!!!」

う l1 狂気満ちた怒号。 つもの飄々とした態度のフェイトからは想像も出来ないであろ

如く、 視界が赤く染まる。 視界が異様に狭まり、 極限まで開かれた瞳孔が拒否反応でも示すが 男しか視界には入っていない。

ええええええええええええええええええええええ 存在だぞォ!? ありえない有り得ないアリエネェッッ!! 漫画の中のクソ人形に圧されるなんて有り得ねぇ 俺は神様に選ばれた

フェイトの拳を押し上げるように前進を始めた。 男は奇声染みた咆哮を上げる。 振り抜かれる双剣が速度を上げ、

轟速が神速に。 神速が音速の領域へかち上げられる。

は手刀でソレを受け流す。 攻めと守りが反転する。 暴風のような剣の嵐に対して、 フェ

抗し、 ツ 鍔迫り合いのように間合いがゼロになった。 とクロスして振り下ろされた双剣と、 手刀が一 瞬 拮

#### 瞬間、

八ツ 消し飛びやがれ!! 《壊れた幻想》ッツ・

ズガアァ というすべての音を呑み込まんばかりの轟音。

ャに歪めていたがそれも数秒。すぐさま細胞が活性化し、 後方に下がった男の両手は吹き飛んでいた。 口から吹き飛んだはずの手が生えてきて瞬く間に再生した。 超近距離による爆撃。 辺り一帯を更地にせんとばかりの爆風 激痛で顔をクシャクシ の傷 の中、

んだ。 死因・爆死ってか! かか。 かか! ! あれだけの爆発を至近距離で喰らった

それはないよ」

た。 まっ ラリと陽炎のように、 た血を地面に吐き捨て、 爆炎の中で佇むフェイトは、 骨が軋むほど拳を固く握り締め、 の中に溜 構え

敗北は、 自分自身が許さないと、 脳裏の自分が咆哮する。

させると、 るがそれも再生して、 ブチリと男のコメカミから音が鳴り、 喉から血を溢れそうな豪声を吐き出した。 禍々しい漆黒の光を放つ聖剣をその手に顕現 あまりの怒りに血管が切れ

あああ あああああか 加減に死ねや紙っぺらがアァ あああああああああああああ

りの下草が放射状に薙ぎ倒され、 瞬時に地を蹴った二人が、 轟音を撒き散らし激突し、 重力に押し潰される。 衝撃波で辺

月明かりに照らされる死闘は、 未だ終りを見せない.....。

すでに日は落ち、夜である。

近衛詠春の娘が修学旅行で泊まっているホテルのとある一室でくつ ろいでいた。 千草さんが先に手配していたようで、 親書を持っている少年と、

とが出来る。卓袱台の上にはミミズがのたくったような文字が書か れた一枚の符が置かれていた。 脇に置いた卓袱台の横には布団が敷かれていて、 いつでも寝るこ

そして、 僕ことフェイト・ アーウェルンクスは、

..... 暇や」

「ひまひまー」

女 言いながらも楽しそうに布団の海をばた足で泳いでいるギロチン幼 暇と連呼するイヌミミ少年 マリィ と共にいた。 犬上 小太郎 Ļ 同じように

暇や禊。なんかやれ」

なんかやれー。むしろ殺れー!」

無茶ぶりアリガトウ。そしてマリィは何を殺って欲しいんだい...

ちんち

下ネタ禁止やァァ あああああああ!! **禊ッ**! オマエマリィに

小太郎は笑顔で言おうとしたマリィの口を塞ぎ、僕を罵倒する。

それでも僕はやってないっ! そしてマリィ自重。

「じちょーすると負けかな、とおもってるー」

貴様ドコの蓬莱ニートだ。

「えいえんてゐ!」

「てゐっ!」

「てゐ!」

てゐてゐうっさいわ!!」

僕の側頭部に右による回し蹴りをぶち込んだ。 僕とマリィ のてゐコールにキレた小太郎は、 素早く立ち上がると

しかもご丁寧に気まで籠っている。 年齢のわりには鋭い気だ。

だが、

どんな高速体術も対物ライフルの弾丸よりは遅い」

撃波でマリィの体も宙に浮く。 ガキンッ! と僕の魔法障壁が小太郎の蹴りを阻んだ。 その衝

うあー おそらをとんでるみたーい」

マリィはキャッキャと手足をバタバタさせて遊ぶ。

ワを寄せた。	一方
せた。	蹴りを放っ
	<b>放った状態のまま静止している小太郎は、</b>
	眉間にシ

..やっぱ入らん。オマエー体何もんなんや?」

「ポケモン」

無言で拳を突き出す小太郎。それを自動的に魔法障壁で防ぐ。

せっかく答えたのに......。 デジモンの方がよかったのかな。

というより小太郎。 そんなに暇なら本でも読んだらどうだい?」

そういって僕は一冊の本を小太郎に手渡す。

オレはあんま本読むのは好かんねん。 活字嫌いやし」

は 半眼で本を受け取りつつ、 本の表紙を見ると目を丸くする。 ドカッと胡座をかいて座り込む小太郎

「なんやコレ? 漫画か?」

いや、一応小説だよ。活字だけ」

た二人の男女がいる。 小太郎の言う通り、 僕が渡した本の表紙には、 色鮮やかに描かれ

語るんが好きなんやけど」 「タイトルは. か。 オレはどっちかっつーと拳で

る。だったら刀語にも八マる可能性があるからだ。どしか経っていないが、小太郎が格闘に重点をおり そう、僕が小太郎に渡したのは『刀語』だ。 小太郎が格闘に重点をおいているのは分か まだ会って数時間ほ

らね。 他にも『修羅の門』 とかがあるけど、 今持っているのはコレだか

.....

物語にのめり込み始めたのか、ドンドン真剣な表情になり無言のま まページを捲っていた。 予想通りと言っていい。 小太郎は最初流して読もうとしていたが、

読み終わるのも時間の問題だろう。

うけどね。 ıŞı その頃には小太郎は八つ裂き(ネタまみれ)になってるだろ

……いーぜ」

ても喋っているのは幼女だからそこまで低くはないが。 まるで爆発する感情を無理矢理抑え込んだような低い声。 といっ

臤
取り敢る
ソ
取
え
ᠽ
9
発
信
絽
冰
えず発信源です
あ
7
<u>න</u>
幼
t
女
女 マ
女マリ
である幼女マリィ
1
女マリィの
1
1
への方へ
1

俯いている幼女がいた。 そこには......何故か 荒ぶる鷹のポーズ っぽい構えのまま

こ、これはまさか.....ッ!!

オマエの思いどーりに、こたろーがネタまみれになるってんなら

.

視線を鋭くした。 マリィは両腕を斜めに構えたまま左右に素早く動きつつキリッと

そして、最後の決めセリフを言い放つ。

まずはそのげんそーをぶちころしゅ!!! .

•

\_

この場の空気が一瞬で凍った。さながらヒャダルコ喰らった感じ

で

....ッ

まどんどん顔を真っ赤にしていく。 自分でもよく分かっているんだろう。 マリィはラストの構えのま

だが、そこで突っつかない僕達じゃない。

噛んだね」 噛んだで」

小太郎は本から視線を離さずにポツリと呟き、僕もそれに続く。

ツ !

真っ赤になったマリィは、 声にならない叫びを上げ、ぼふんっ!! 頭から布団の中に潜り込むと、そのまま と蒸気を噴き出すほど

出てこなくなった。

結論。 幼女では上条さんにはなれない、 کے

そこで、 卓袱台の上に置かれていた通信符が勝手に燃えて灰にな

千草さんと月詠が行動を開始した合図だ。

さて、と。時間だ。

マリィ.....いくよ」

うー? ......うん、わかったー」

リィに声をかける。 僕は傍に置いていた球磨川禊の詰襟をTシャツの上に着込み、 マ

じ新品同様だ。 によって千切れた右腕の部分を直して貰った。 月詠は外見に似合わず裁縫が得意だったため、 今では買った時と同 マリィの『形成』

そして、 マリィが隣に立つと涼しげな鈴の音が鳴る。 それはマリ

金の鈴からだ。 ィの首にはめられた黒いチョー カーのアクセントとして付けられた

らマリィも気に入っているようだ。 に送ったアクセサリー。 ちょうどチョーカー によって痕が隠れるか マリィの首に刻まれた断頭痕を隠すようにと、千草さんがマリィ

ワンピースの上から真っ白なYシャツを着ている。 そして服も煤切れたドレスではなく、 水玉模様の スリー ・ブの

ち止め(ラストオーダー)そっくりになるだろう。 これは僕が選んだモノだ。これで茶髪にしてアホ毛付ければ、 打

球磨川禊に飽きたら一方通行の格好をするのもい ちなみに、 二期の服装の方が好きだ。 いかもしれない。

でもいいよー、 のまねをして、 ってまりぃはまりぃは打ち止め (ラストオー ちょっとした萌えをさそってみたりー

みを浮かべる。 僕の右手に掴まって足をブラブラさせるマリィが、 猫のような笑

というか歩く萌え要素が何を言ってる......

むひょー じょーで言われてもー。 どきどきなんてまりぃしないも

マリィはそう言いながらも照れたように頬を朱に染め俯く。

萌え殺す気か.....ッ! とか言いたくなるよね。

うこと受け合いだ。 ミスのことだ。 マリィはデュナミスに会わせない方がいいかもしれない。 ふ お | と騒ぎながら全裸になってマリィを襲 デュナ

ふざけるのもここまでだ。

僕の醸し出す雰囲気に圧されたのか、マリィも表情を硬くし、 僕

の右手を握り締めた。

僕とマリィは扉に手をかけ、

.. ホンマにオマエだけで大丈夫なんか?」

ゆっくりと、だが、真剣に。

振り向いた先には本を片手にこちらを見据える小太郎がいた。

分かるし、 確かに、 悔しいけどオレより強い。 まだオレらは会って間もないわ。 足手纏いになるっつーのも.. でも、 オマエの実力は

......分かる」

入れた力は、 胡座をかいた膝の上で左拳を硬く硬く握り締めている。 きっと自分の実力に対する不甲斐なさの顕れ。 その拳に

喰いつけていけるだろう。 小太郎は年齢の割には強い。 その気になれば達人クラスにだって

在である可能性がある。 しかしたら英雄を倒すために造られたこの人形の身をも凌駕する存 だが、 この身にはまだ及ばない。 今から戦うであろう相手は、 も

を連れていくわけにはいかない。 そんな自分の身を護るだけで精一杯かもしれない戦場に、

んか?」 レの万倍強いやろうな。 今からオマエが相手するっつー男が強いんは分かるわ。 そんなんに、 オマエー人で勝てる きっとオ

だから、

「ある男が言った言葉があるんだ」

?

僕は踵を返し、扉を開ける。

「出来る出来ないじゃない。 .... やるんだよ」

「.....ッ」

「意地があるのさ。男の子だからね」

マリィ、 僕の中へ」

うん! まりぃがんばるよ!」

ふんすっ、 と気合いを入れたマリィは掻き消えるように僕の中へ

入っていく。

覚が研ぎ澄まされると、 すぐさま曼荼羅の魔法障壁の中に術式が刻み込まれ、 身体能力が何段階も向上された。 あらゆる感

《活動 (Assian)》

9

直接脳髄に叩き込むように、 マリィの言霊が反響する。

そしてマリィ命名"えびてんかいてー が発動された。

なる。 ィは切り札だ。易々使うわけにはいかない。 相手がどういう戦闘時の手札を持っているか分からないし、 危うい場合の保険にも マリ

· · · · · · ·

味である夜だが、千草さんの罠で生徒は今頃夢の中。 ないということだ。 無言のまま、静かな廊下を歩いていく。 本来なら修学旅行の醍醐 騒ぐにも騒げ

向かう先はエントランスホール。そこにいれば、 必ず邂逅する。

「あ、そうだ。これ続きモノだから。最終巻まであるよ」

「オマエにシリアスを期待した俺がアホやった.....ッ!!」

「読まないのかい?」

「読む。.....暇やし」

『はやくいこーよー。うーうー』

リ死んだら、 テンプレー 真っ白な空間で神様に謝られたりしてな。 トで言えば、 現実でトラックに轢かれたりしてポック

きな世界に転生させましょう。 『貴方のことを間違って殺してしまいました。 好きな能力も付属させて頂きます』 謝罪として貴方の好

つ た。 の場合も例に漏れずってな。 オレの場合は超美幼女の神様だ

生するか?』 7 悪い 悪い。 お前のコト殺しちまってさぁ。 だから、 とりあえず転

に高圧的な態度は取れなかっ 幼女のわりに口は悪いが、 た。 やっぱり神様。 二次創作みてえに神様

存在が吹き飛ぶぐらいの存在感。 ありえねぇぐらいの圧力っつー か、 一吹きしただけでオレ自身の

幼女なのに。 オレは対面してからずっと敬語使って正座してたよ。

転生する権利と、 そんなオレの態度に気を良くしてくれたみてぇで、 好きな能力を一つだけ貰えることになった。 好きな世界に

えないか訊いてみた。 E E ! ! ただやっぱりいろんな二次小説を知ってるオレは、 なチート物語をやってみたかったから、 他にも能力を貰 オレTUEE

きた奴は山ほどいたらしい。 そしたら案の定他の転生者の中にはあらゆる能力をくれと言って

だが、問題は脳の容量。

が、 足りないらしい。 大抵の奴が欲しがるのはあらゆるライトノベルや漫画の能力。 それを完全に使いこなすには、 人間の脳の容量じゃあまりにも だ

間に脳が処理しきれずに吹き飛ぶ。 そんな状態で好きな世界へと行けば、 良くて廃人らしい。 着いて能力が付加された瞬

クヒーロー《一方通行》のチークまで一番酷かったのは、 高校生のはずなのに絶対に倒れない超人《上条当麻》 (イマジンブレイカー)』。 のチート『ベクトル操作』。 とある魔術の禁書目録に登場するダー そして普通の の『幻想殺し

た。 ル操作』を消しちまうが、 この時点で普通に考えれば常時発動型の『幻想殺し』 ソイツは『幻想殺し』 をスイッチ式にし が。 ベクト

壁だろ? この時点ですでに『俺の考えたチー ト主人公』 だ。 この時点で完

神様が言うには、 まったく脳の容量が足りていないらしい。

利用出来る状態で、 この状態で、 すでにフルで活動. ようするに脳を1 0 0 %

人の脳ミソ三個分だそうだ。

操る程度の能力』 の『大嘘憑き (オールフィクション)』 から出ないヴァージョンのメイド長《十六夜咲夜》 しかもソイツはそれも知らずに東方Projectの忠誠心が鼻 まで付けたときたもんだ。 ゃ めだかボックスの負完全である に『却本作り の『時と空間を (ブックメー 《球磨川禊》

神様が爆笑しながら語ったからな。 ソイツ. .世界に着いた瞬間に木っ端微塵になったらしい。

いだからな。 ソが65億個分の容量が必要らしい。 ちなみに、 全人類の脳ミソ掛け合わさなきゃ人間には扱えねぇさ。 [分の容量が必要らしい。まぁ、現実を虚構にするぐら余談だが『大嘘憑き (オールフィクション)』 は脳ミ

は気を付けた方がいいぜ。 裏技使えば大丈夫らしいが、 教えちゃくれなかった。 転生する奴

うに脳を弄くっても最低一個ぐらいが限界だそうだ。 そんな感じで、 神様が手を加える.. ようは能力を使えるよ

限定条件による不老不死が、 ため、能力一個の他に、身体能力の極限化。 んで、 オレの場合は事故だったから輪廻転生によるモノじゃない 特典としてついてくる。 各能力値の自己設定。

いでに顔の造形の自己設定はデフォルトでついてくるだそうだ。

ン つの能力。 オレが貰った能力は、 オタを名乗るなら絶対に知ってる男のロマ

造り出し、 造り出し、現世に顕現する『投影』
「カラテーション・エアリーの大学のでは、現世に顕現する『投影』)・エアリーのでは、現世に関いて、現世にない、現代のでは、現代のでは、現代のでは、現代のでは、現代のでは、 《衛宮士郎》という正義の味方を目指した男の固有能力。 あらゆる

現実に引っ張り出す『固有結界』だ。 そして、 それに付随する心の元風景を下地とした内包する世界を

しかも、 反動なし。

そして能力値の自己設定。 これでオレの魔力回路を衛宮士郎の2

本の千倍。 2700本にした。

0本以上一斉射出出来るんだってよ。 凄くね? これやるとエヌマ・エリシュを完全投影出来て、 1

やると関東全域が更地になるらしいから、 固有結界内でしかでき

性をその身に刻んだ。 うんで、 限定条件下の不老不死。 だからオレは真祖の吸血鬼の特

べ、 別にエヴァにフラグ立てやすくするためじゃないぜ?

点で考えることなんてハー 魔だからほっといて、 けど、 『俺は八ー .. なんつって紳士的なこと言ってみたり。 レム王になるっ!』とか言ってよ! オレのハーレムを作るってな! レムしかねえじゃん!! ネギま選んだ時 ネギなんか邪 杉崎じゃね

一な名前もあっちの世界じゃアリだしな。 名前もかっこ良くして、 神上天覇。 現実じゃありえねぇけど、 厨

さらにさらに超絶美形。 サラサラの銀髪に赤と青のオッドアイ。

いねえ!! くははっ! 現実じゃ妄想乙だが、 今のオレを止められるヤツは

神様もいくらでも原作ブレイクしてもいいっつったからな!

と思ったんだが。 本当は大戦期に行って紅き翼に入って英雄になってやろうかなぁ あとはアリカとテオドラを落としたり。

残念だがダメらしい。 原作に入る少し前だそうだ。

立ち位置はすでに麻帆良学園の教諭。 魔法先生らしい。

まぁ、 この立ち位置なら原作にも関わりやすいからいいけどな。

そんな感じで、 オレは神様に転生させてもらった。

全ての登場人物の記憶には残らないから。 お前に戻ってくるからな。 と転生出来ない。 『頑張れよぉ。 .. オレっちの晩飯のおかずのために』 お前の生き方だ。 そして存在ごと死ぬから、死んだらお前のことは .....そうそう、 お前が好きに選べ。 頑張れよー、 お前が死んだら二度 結果は自ずと 本気で。

ねえのに。 って最後に神様が言ってったな。 オレは不老不死だから死な

転生して、 魔法先生やってるけど、 今はウハウハだ。

ァの封印を解いてやろうと思ったが、 断られた。 3 Aの生徒は照れてるみたいで、 ツンデレが発動したみたいで あまり接点が作れない。 エヴ

でもまぁ、 他のクラスから多く支持を得ている。 モテモテってな。

پخ とする素振りを見せるとタカミチがうるせー からまだヤってねぇ け モブでも可愛い女の子ばかりだからよだれ物だ。 ただ手を出そう

うだ。 ろうとしたが、ぬらりひょんに頭を下げられたからな! チと同じように信用出来る部下は自由に動ける地位にいてほしいそ 立場はタカミチと同じ広域指導員。 ホントは3 Aの副担任にな タカミ

ばれてる。 今じゃ麻帆良のデスメガネと同列である《漆黒の双剣》 なんて呼

を使っているからな。 オレは常にストイッ クな黒スーツを着ていて、 大体『干将・

ントは、 んで、 原作である修学旅行が始まった。 1 ンフルエンザ喰らって寝こんじまったけど。 残念ながらその前のイベ

で京都に来た。 タカミチが海外に行ってるからオレが3 Aや他のクラスの担当

千草が近衛木乃香を拐うイベントが始まるってことだ!! 今は夜。 3 Aは原作通りに酔っぱらって寝てる。 つまり天ヶ埼

こっからオレの原作ブレイクが始まるのさ.....ッ

助ける。 乗って刹那と木乃香をハーレム入りさせるためにオレがかっこ良く ここでネギ達にオレが魔法使いであることを教えて、原作の波に

ヤ ラは後々攻略していきゃ ネギみたいなガキに木乃香と刹那の唇はやんねー ι, ι, よ! あとのキ

ま英霊エミヤの過去に変えてもらった。 心に刻みつければ落とすのなんて簡単だぜ。 ちょうどネギが記憶を見せる時のために、 これでオレの印象をさらに オレの記憶はそのまん

抜けた。 さて、 つまり木乃香を拐ったわけだ。 オレがホテルの周りに張っておいた感知結界を千草が二度

向かった。 オレも助けに行くために、見回りを止め、エントランスホールに

オレは原作をどうぶち壊すか楽しそうに考え、

そして、

なんだ』 「『こんな夜中にドコへ行くのかな?』 『ちょっと暇潰しに憑き遭ってよ』『君暇だろ?』... 『ちょうどいいね』 。 今 暇

.. 転生者さん」

に入れ、 自動ドアに背を向け、独特の重心の掛け方で佇み、左をポケット 右をダラリと下ろしている。

能面のような無表情。

そして、セリフーつ一つに括弧をつける独自のイントネーション。

物 オレの存在を知っている。本来ネギまという世界に存在しない人

『球磨川禊』が、そこに在た。

## P a t 9 ネタであるから許される..... (後書き)

ぐはっ! 石が頭に突き刺さる!!

すいませんでした。アホで。

こんな感じで、 次回からシリアス戦闘に入ると思います。

うん、多分。

新はいつになるか解りません。 連休がなくなったせいで、 書く暇がほとんどなくなってくるので更

とりあえず活動報告を夜に更新するつもりなので、そこで判断して いただければと思います。

あとは、 彼女の初登場はPart12なので、 この前アンケートしたアスナに関してですが、 まだアンケー トは続けます。 今のところ

ですが、 ったため、 今貰っている感想で殆どの人が? (バカじゃないお?) だ 記憶ありのクールアスナは決定で。

すので、 能力の方だけ募集し続けます。 そちらで確認して頂ければ。 一応まとめを活動報告の方に載せま

能力の方を上げてもらえても、 自分が知らない能力だと書けないた

め、そこはご了承していただけると幸いです。

ださい。他文章の書き方に関する指摘なども、あれば感想として出 感想を頂けると、筆が進みそうです。 してもらえると勉強になります! 文句でも疑問でもなんでもく

では、これにて。

次回。偽剣製VS生人形

それはまるで、一対一の戦争.....。

## Part10 人形が空虚であると誰が決めた (前書き)

ども、ご無沙汰してます。

これを読む前に、活動報告を読んでもらえると助かります。

乱文で酷いですので.....。

## P a t 1 0 人形が空虚であると誰が決めた

ど起こらず、その後、 意気揚々と、 これから原作介入する気でいた。 気ままなオリ主ライフを送るはずだった。 想定外の出来事な

させた。 だから、 神上天覇はある人物を前に、かみじょうあまは その思考を一瞬でフリーズ

張りのソファーに丸い一本足のテーブルが幾つも設置されている。 映るのではないかと思うほど白く光を反射するタイル、 ルはその広大な館内に相応しい大きさだ。 真夜中のエントランスホール。 《ホテル嵐山》のエントランスホ 床面は覗き込めば顔が 中心には革

る 絢爛と輝くシャンデリアの光をその身に受け、「深夜零時は完全に過ぎている。それでも電气 それでも電気は落とされておらず、 タイルには人影が映

その数、二つ。

天覇以外にいるはずのないその場所に、 他に、

クス。 い詰襟をきっちりと着込み、 麻帆良の男子校の制服と似ているが、 靴すら黒。 シワーつない黒く光を呑み込むスラッ どこか装飾の違う制服。

る佇まい。 ら捻子曲がっているのではないか、 ただそこに立っているだけのはずのなのに、 そう思わせる重心の掛け方によ グニャリ、 と空気す

は浅い笑み。 何も映していない瞳。 風も吹いていないのに、 そして、 こちらを嘲笑しているようで.....その奥には サラサラと揺れる短めの黒髪に、 口許に

球磨川禊

その底辺に君臨し、 、セッルラード。゚゚めだかボックス』という作品の中で、過負荷の゚めだかボックス』という作品の中で、過負荷の゚ 主人公と対立した人物である。 人間たちを束ね、

そう、 この物語には存在するはずのない登場人物だ。

ていた。 ソレが、 玄関の自動ドアをバックに、 天覇の目の前に立ち塞がっ

.....は?)

た。 天覇の脳裏に、 疑問の一語。 そして、 途端に思考の奔流が始まっ

かボックス』なんかじゃねぇぞ! (は? の世界は間違いなく『魔法先生ネギま!』だ! だってか!? は ? はあ!? フザケンナ聞いてねぇぞそんなこと!!) な なんで、 じゃあなんだ? なんでコイツがいる? 間違っても『めだ クロスオー バ

オッ ドアイの瞳を零れ 右足が勝手にじりっと下がった。 んばかりに見開き、 正面に立つ負完全の圧

持ってやがる球磨川禊かよォ!? を持ってやがるッ (よりにもよって『大嘘憑き』 ! ? き 9 ガ本作り』 ど、 どっちだ.....ッ なんてバケモノ能力 どっち

なってくる。 瞬の停止の反動で、 爆発的に増加する思考で脳内が飽和状態に

あまりの驚愕に全身の毛穴から一気に冷たい汗が吹き出てきて、

乾いた空気によってさらに冷たくなり、 手が震え出す。

だいい。 この目の前に存在する球磨川禊の過負荷が、マイナス 『却本作り』 ブックメーカー ならま

使えなくなり、身体能力が一般人レベルになろうと、 い球磨川禊自身を殺してしまえば、 なモノだ。これだったらまだ対策はあると言っていい。 それなら《相手を自分と同じレベルまで落とす》 もとに戻る。 なんていうよう 再生能力のな 例え投影が

だが、 った嘘**憑き**』 なんて持っていたらどうする?

した時と同じようなことだ。 一番の恐怖は、 主人公勢の一人との戦闘で、 視力』 を『嘘』に

そう、 間違いなく可能である.. 神上天覇の存在の抹消。

《現実を虚構にする》

全て。すべてなのだ。

人生はそこで終了する。 オリ主としての 不老

それだけならまだ、まだいい.....。

だが、もし存在自体を虚構にされたら?

無、だ。何も、何も残らない。

5 生きてきた軌跡も、 すべてを否定される。 誰も記憶にも残らない。 生きたという意味す

なく震えた。 がちがちと、 天覇の歯が噛み合わずに、 下顎が自分の意思に関係

は怒気悲哀苦悩驚愕などが入り混じり、 見開かれた異なる色の輝きを放つオッドアイは血走り、 酷く歪んでいた。 その表情

メだよそんな厨二が考えた僕のカッコいい主人公みたいな容姿じゃ』 『自分が転生者だってバラしてるみたいじゃないか』 おや?』 7 図星をつかれたのがそんなに驚いたのかな?』 : 意外 ヮダ

な無表情になる。 球磨川はふう、 と息を吐くと、 口許の笑みを消して、 能面のよう

そこで、ようやく天覇は違和感に気付いた。

違う。相対する少年は、球磨川禊じゃない。

冷静になってよくその容姿を視界に映すと、 違いが目立っていた。

かる。 だって見つかるはずだ。 制服なんて何処にだってある。 探そうと思えば、同じようなモノ 根元は元の色であろう白く、 黒髪もよく見ると染髪されていることが分 黒の光沢にもムラがある。

かで見たことがあるだろうと、 顔つきも日本人ではなく、 西洋人だ。そして、 脳が記憶を漁り続ける。 今の無表情もドコ

剥き出しにして叫んだ。 牽制のつもりで、 未だ思考を整理しきれない状態で、 天覇は牙を

メェも転生者か!?」 「球磨川禊の括弧つけた喋り方。 転生者の概念も知っている.. テ

場人物を知っているということこそが、 しているようなモノ。 めだかボックス』 という漫画が存在しない世界で、 自分も転生者であると宣言 その中の登

つまり、目の前の少年も自分と同じく転生者。

人形然と傾け、 そう見切りをつけた天覇の予想を断ち切り、 侮蔑するように言った。 少年は首をかくんと

はただのコスプレだよ」 「......君のような紛い物と一緒にしないで欲しいね。 僕のこの格好

紛い物、だと?」

にして暴れ回るだけのバグじゃないか。 「その通り。 なんだよ」 転生者なんて能力のコピー をもらって原作を無茶苦茶 僕はそういう二次創作が嫌

を吐いて、 そういうのは妄想の中でだけやってなよ、 少年はダラリと下げていた右手で頭をかく。 と無表情のままため息

ていないのだろう? 僕の大嫌いな転生者。どうせ人間として腐り切っ 君は、 この世界の害悪だ」 た目的しか持つ

何かを思い出す。 まるで憎悪を噛み潰したように硬化した言葉の中、 天覇はハッと

僕のプランが根こそぎ君に破壊されたら目も当てられない」

イ 無表情に、空虚な瞳。 ルドと同じぐらいの体格の少年が目の前にいるのだ。 この世界の主人公 ネギ・スプリングフ

だから

思い出した。いる。いるじゃないか。

のキャラクターが浮かび上がる。それは神上天覇が持つ『原作知識』天覇の脳裏に広がる前世の知識。その中に重なる容姿を持つ一人 の中に.....。

ネギ・スプリングフィ ルドと対をなす、 最大の敵

「フェイト・アーウェルンクス」「ここで、死んでもらうよ」

スのセリフに被せるようにして名を告げた。 天覇は球磨川禊 の格好をしているフェ イト ウェルンク

## ピクリ、 とフェイトの眉がわずかに眉間に寄る。

お前だ、 んなんですかア!? 「フェイト・アーウェルンクス.....ッ! お前だよ ギャハハハハハハハー! お前そりゃダメだろうよ!!」 そうだ、 なんだなんだよな いるじゃないか。

何かが瓦解したのか、 狂ったように笑い続ける天覇に、

`.....ああ、『原作知識』か」

自身の名を知っている。フェイトの答え通り、 という辞書の中にフェイトの名がある。 納得したように頷くフェイト。 まだ名乗っていないはずなのに、 その過去と共に.....。 天覇の『原作知識』

を歪めた天覇は、 とても主人公を目指している人間とは思えない、 にやにやと口許

なんだ、お前フェイトに憑依したヤツか!」

そう決定づけた。

無言を貫くフェイトを置いて、 天覇はさらに続ける。

中じゃ最強クラスだしな。 確かにい、 お前のキャラは強えよ? でもよぉ なんたって『ネギま!』 h

所詮漫画のキャラに憑依したヤツが、 と天覇は顔を右手で押さえて笑った。 転生者に勝てると思うか?

人には超えることが出来ないレベルの力の増幅。 神様にもらったこの世界に存在しない能力。 そしてこの世界の住

そして、真祖の吸血鬼の特性である不死。

存在しないこの世界で、自身が死ぬことなどほぼあり得ない。 の中でも不死殺しの魔道具などを仄めかすシーンなどなかったし、 不死殺しなど、それこそ天覇が自分で宝具を投影するぐらいしか

ンジェリン・A・K・マグダウェルに敗走している。 第一、京都編でのフェイトはラストで真祖の吸血鬼であるエヴァ

トが打倒するすべはない。 そして、 現状エヴァンジェリンを超える力を持つ天覇を、 フェイ

し指をフェイ 判断を誤ったな憑依者、 トに向けた。 と天覇は真実を突き付けようと右の人差

なにか誤解しているようだけど、」所詮憑依者じゃあ俺には勝てな

ぽつり、と。フェイトは天覇の言葉を遮った。

めだかボックス』という漫画は、 この世界にあるよ?」

を切らずに、 まぁ、 旧世界には売ってないけど.....。 天覇をその灰色の瞳で貫く。 とフェイトは呟き、 言葉

だから言ったじゃないか。 ただの、 コスプレだって.....」

-

天覇は思わず目を丸くして、口をつぐむ。

つまり、 ウェルンクスだと.....。 なんだ? 今目の前にいるのは、 そういうこと、 正真正銘のフェイ

だから、 はゼロではなかった。 かにここ京都にて、 原作知識。 実際問題イレギュラーである天覇の前に立ち塞がる可能性 の中で、 あの近衛詠春に別格とまで言わせた少年だった。 フェイト・ アー ウェルンクスの初登場は確

使って逃げるという結末を考えていた。 態勢を整える.....エヴァがフェイトを引き裂いた時のように分身を 天覇の想像では自分のことを脅威とみて、 こ の場では身を引い 7

だが、結果は違った。

天覇は左右に引き裂かれたような不気味な笑みを浮かべた。

歩踏み出 態。ゲーム開始時にラスボスを倒せるレベルだ。 で目の前に現れたのだから。 笑いがこみあげてくる。 した瞬間に草むらでラスボスとのラストバトルのようなモ 何せほぼラスボスがこうして物語の序盤 しかも、 自分は強くてニューゲーム状 つまり、 冒険に一

変わる。 えば完全に滅ぼせてしまう。 る世界などフェイトがいなければガラ空き状態だ。 フェ イト・アーウェルンクスさえ倒してしまえば、 無理を犯してネギが闇の魔法など使用せずに弱体化。 少なくとも魔法世界直前でネギま部が分断されることはな 無限の剣製を使 物語は完全に 完全な

つまり、 この後の物語を神上天覇の好きにできる。

## 本当に、好き勝手に弄くり回せるのだ。

は止まらない。 欲望が頭の中でごちゃごちゃと湧き出してくる。 アドレナリンが増加して意識が覚醒していく。 もう、 この思考

いるのか。 何故、 フェイト・ アーウェルンクスが『転生者』について知って

この際、そんなことはもうどうでもいい。

り締めた。 天覇は興奮に震える身体を抑えようともせず、右手をギシリと握

アーウェルンクス。 ……いや、 三番目ェ」

天覇の言葉にピクリとフェイトは反応するが無言を貫いた。

お前の目的は大体解っている。どうする? 殺るか?」

うな人間だった。 は犯罪など犯したことはなかった。 もとは家から一歩も外に出ないで一日中パソコンを弄っているよ だが、 普通の倫理観は持ち合わせていたし、

いすらない。 だが、 今は楽に人を殺せる。 感覚が鈍ったわけではないが、 躊躇

ば 気を撒き散らす天覇は、 tトラックと衝突したような衝撃がかかる。 飄々と、 魔法障壁が砕けると同時にフェイトの身体は時速120kmの 左手で柄を転がす。 常人なら首を握り締めて自ら失神しようとするような殺 細身の刺突剣『黒鍵』 これを『鉄甲作用』 を言霊無しに一本投 を発動させ投擲すれ

普通に即死だ。

んだ。 天覇の脳裏には、 脳漿をぶち撒けるフェイトの死体が鮮明に浮かのうしょう

ここで戦う気はないよ。.....場所を移そう」

にくるりと背を向けた。 天覇の充満する殺気をそよ風のように受け流すフェイトは、 天 覇

もう一度言うが、 神上天覇に躊躇いなど存在しない。

必要ねーよ。死ね」

鍵』を放った。 天覇は数瞬の迷いすらなく、 背を向けたフェイトの後頭部に『黒

突き刺さる ゴッ と風を断ち切り『黒鍵』 は刹那にフェイトの後頭部に

単に予測出来たさ」 きの会話から君の考え方も解る。 『黒鍵』を出現させた段階で能力の判定はできる。 背を向けた瞬間に投擲するのは簡 そして、 さっ

はずだった。

はずだった。だが、結果は傷一つ付かず、 陣が天覇の目にも見えるようになったぐらいだった。 濡れた障子をぶち抜くように、 フェイトの魔法障壁は粉々になる 曼荼羅型に描かれた魔法

いや、それだけではない。

らば剣は重力の負荷によって地面に転がるはず。 の魔法障壁に絡め取られたような状態で静止していた。 黒鍵 は白いタイルの上に落ちていない。 衝撃を殺されたのな だが剣はフェイト

さながら、ガムのように。

する。 フェ トは踏み出した右足を後ろに引いて振り向き、 天覇を一瞥

共に魔法障壁がゴムのように『黒鍵』を跳ね返した。 その瞳に籠められていたのは明らかな侮蔑だった。 平坦な言葉と

返すよ。のしつけて」

刹那、天覇の身体に戦慄が駆け抜ける。

止めた。 したように跳ね返ってきた刺突剣を胸の前でクロスした双剣で受け 思わず反射的に黒と白の対極する双剣を投影して、 時間を巻き戻

ぐが....ッ!

黒鍵。 想像を絶する衝撃が天覇の全身を駆け巡る。 が火花を散らし、 壁を打ち破らんと衝撃が倍加する。 ギチギチと双剣と『

浮きそうになる両足を必死に地に縫い付け、 刺突剣を見据え言霊を発した。 爆発せんとばかりの威力に腕が砕けて防御が吹き飛びそうになる。 血を吐くが如く天覇は

「と、投影解除……ッ」

空気を全て吐き出すと、ミシミシと両腕が痙攣し出した。 目を終えたように砂のように崩れていく。 を消して、その剣の存在を抹消する。 堅く編み込んだ魔力の糸をほどくようにして、 食い縛っていた口を開き肺の 剣尖を潰し、 双剣も役 刀身

空気の通る音を鳴らしていた。 求め浅い呼吸が続き、 天覇は右手を膝に置いて、 過呼吸ではないかと思うほど喉がひゅ 俯き気味に荒く息を吐く。 肺が酸素を لح

チ.....ッ! チッ! チッ!!」

逸したように吊り上がり、 何度も天覇は舌打ちする。 呼吸が治まってくると、 眉間には深いシワを刻み込んだ。 俯いたことで銀髪に隠れた両眼は常軌を 憤懣やるかたないといった様子で何度も感えまえ

くそが。舐めやがって……ッ!」

上げ、 舌打ちの最後を罵声で締め括った天覇は、 前方のフェイトを睨み付けようとして、 激情と共に俯いた顔を

あー アし。 ぁ ぁ やっ パリ納得はデきなイなア ア

と冷たい汗が吹き出てきた。 いたフェイトの表情を見た天覇は絶句と共に身体中の毛穴からドッ 距 離 1 0 m må 鼻と鼻がぶつかっ てしまいそうなほどに接近して

その色違いの瞳を放すことすら出来ず、 何重にもブ けを起したように痙攣して指一本動かない。 天覇の激情など世界の果てまで吹き飛んだ。 まばたきすら出来ずに瞳が それでもフェイトから 戦慄で身体が引きつ

形容など出来ない。 それほどに狂い切ったような表情だった。

供の手でかき混ぜたせいだと言われれば納得してしまいそうなほど、 枯れるほど叫びたくなるような負の表情を、 っちゃぐちゃにしたような、 さきほどまでの無表情を一体何処に放り捨ててきたんだ、 感情を司る脳の内部を何も知らない子 無造作にミキサーでぐ と喉が

だよ! よオなア 嫌にナるなァ ほンとにッ んなゴミみたイなヤつに作品を穢さレるトか耐えられナ あー もす殺したい殺刺タイコロシタいッ 今ノ言霊キイテやっぱり爆発しソう

満ちた表情で、天覇をどろどろに濁りきった瞳に映していた。 ズタにしたような、発狂しているのではないかと思うほどの狂気に 熱した鋼鉄を幾重にも叩き込み、 創り上げた鋭利な日本刀でズタ

いうのか?) (..... ナンダ、 コレ。 これが、 フェイト・ ウェルンクスだって

抑える。 前にいるフェイトが異形のようにしか見えない。 きもちわるい。 全身に纏わりつくヘドロのような殺気で身体が竦み、 天覇は顔面蒼白にして競り上がる吐き気を必死に 目の

膝から力が抜けていき、 崩れ落ちそうになった天覇は、

はっズかしィ かしてもしかしなくても本気にシチャッタ?』 なーんつって!』 6 7 いやんつ! 『顔面蒼白にしちゃって超ウケるー 『自意識過剰だなー

らなかった。 ると天覇の周りを回るフェイトに、 一転して淀みきった殺気を消し、 固くなった表情はそう簡単に戻 壊れた笑みを張り付けてくるく

ろどころ言語が乱雑に散らばっていて、 しにしか思えない。 漫画で見た球磨川禊を思わせるような豹変ぶりだが、 今の行動もその激情の裏返 未だにとこ

崩れたフェイトを見やる。 になった天覇は、 殺気がなくなったことで冷静に思考を巡らせることができるよう 口を真一文字に引き締め、 あはは一、 とキャラの

それに同意し、 気を抜くと一 瞬で殺される。 顎を伝う汗を乱暴に拭った。 そう、 全神経が叫んでいる。 天覇は

.....場所、変えんだろ。なら、行こうぜ」

声を震わせなかった自分を褒めてやりたいぐらいだった。

へえ。 竦んで声も出せないと思ったけど」

向ける。 む足を無理矢理動かした。 暗にツイテコイと言っている背を睨む天覇は、 と動きを止めたフェイトは無表情に戻ると、 ギシリと軋 天覇に背を

自動ドアの前のマットをフェイトが踏むと、 ドアがまるで怯える

ようにガタガタ鳴りながら左右に開かれる。 に一歩踏み込むと、 ふと思い出したように立ち止まる。 そして、 フェイトが外

り向き、天覇の後ろを一瞥し、 それを怪訝そうな様子で足を止める天覇を置いて、 呟いた。 フェイトは振

あー、 そうそう。 解ってると思うけど、 .....ついてこないでね」

「はぁ?」

君じゃないよ.....。行こうか」

は表情を引き締め殺気立ち、 フェイトはそのまま歩を進める。 フェイトの背を追った。 それに首を傾げながらも、 天 覇

でござるよ.....ッッ はは。 ध् むり。 むりだ。 Ś ついていけるわけが、 ない

ていた。 いつも飄々と細められていた両眼が引き裂かんばかりに見開かれ

歯を鳴らしながら震える。 に全裸で放り出されたように、両腕で身体を掻き抱き、ガチガチと 中学生とは思えない長身を浴衣で包んだ少女は、氷点下零度の地 吹き出る汗は全身を冷たく締め付けた。

腰が抜けたようにへたり込む少女。

ようで、その場で意識を失った。 二人の気配が消えると同時に、 緊張の糸がギロチンに切断された

## P t 1 0 人形が空虚であると誰が決めた (後書き)

言い訳はしまそん。すんまそん。

戦闘に入れず申し訳ない。 そして説明がうざくてすいません (泣)

やっぱり三人称は苦手どす。 無駄に文がかさみます.....

フェイトが壊れましたね.....。 なして?

考1eve1がおんなじ人だったら解るかもしれませんが.....。 まあ伏線(と言えるレベルではないが)張ってあるので、 作者と思

てます。 次回は戦闘に入ります。 5000文字あればいいかなぁ~ ・とか思っ

まぁ三人称なんで、どうなるか皆目見当つきませんが (笑)

文才よ.....舞い降りてちょんまげ!-

次の更新は、.....夏かな (爆)

次 鸣 がいれば? 世界に存在しない能力。 だが、 その対処方を知っているモノ

## art11 傍観者 三十步圏内 (前書き)

違うルートも描写することにしまして.....。 フェイトvs天覇を期待された方.....すいません。

そして、 少女の能力の一部です。 これが魔改造結果の一端です。今回と次回の主人公である

してごうで、ごれて、証がないで、うからなくて.....普通。

乱文ですので、ご了承くださいな。

#### P a 1 傍観者 三十歩圏内

夜道を走っていると、 たまらなく不快感に襲われることがある。

自分の影にすら恐怖を感じる。 長させるし、 ぽつんぽつんと設置された街灯の光は、 なによりその光によって影が余計に浮かび上がって、 安心感よりも不安感を増

ないこの状況が、 細い路地や曲がり角。 長谷川千雨にとっては不快感を煽るだけだった。 何かが飛び出してきても止まることが出来

も気にせずアスファルトを蹴りつけた。 く中、千雨は不快感を表情にあらわにしながらも、 吐き気がする生ぬるい風を身に受け、 無造作に纏めた髪がはため 息が上がること

ちっ . なんで私がこんなことを。 いせ、 自業自得だけどよ..

ずり落ちる伊達眼鏡を指で押し上げ、 流れる汗を雑に拭う。

状況は千雨からしてみれば最悪。

神頼みの縁結びなど興味の欠片もなかった千雨はソ クラスメイトのほとんどが泥酔してホテルで爆睡している中で、 レを呆れて見て

いたが、 今では一緒に酒飲んで寝ていた方がよかったとすら思った。

そうすれば、 あんな状況にだって出くわさなかったはずだ。

は ジーンズという格好で外に出た。 数刻前。 フード付きの黒い半袖Tシャツと膝に穴のあいているダメージ 部屋すらも酒臭く、 寝ることさえままならなかった千雨

橋があったので、 もりもなかった。 引率の教員にバレるわけにもいかず、かといってあまり離れるつ ちょうどホテル前に《渡月橋》 千雨はその橋の下で時間を潰すことにした。 という川を跨いだ

るで時が止まっているような感覚が味わえる。 したような行動だが、 揺れる水面。 膝を折ってそれを眺めているだけという暇を持て余 小石を投げいれ、 波紋を見つめていると、

としてはいかがなものか.....とも思うが、 ぼーっと、 意識を川の底と同じ深度まで沈めていく。 千雨はこういう時間の使 女子中学生

だが、世界は時を動かすことに躍起になる。

じゃあアスナさんと念話してみるね!」

聞き覚えのある声に、 川底を漂っていた意識が一気に浮上した。

げる。視線の先にいたのは橋のすぐ傍に、紅い髪を後ろに纏め浴衣 べていた。 歳の少年であるネギ・スプリングフィー ルドが無邪気な笑顔を浮か の上から半纏を着た小学生ほどの少年だった。 千雨は訝しそうに眉を顰めると、すぐに立ち上がり声の方を見上 クラスの担任で10

が、千雨はふとネギ少年の行動に首を傾げる。彼は瞳を輝かせなが らタロットカードのようなモノを額に当てて何かを喋っていた。 出ていたことがバレたか.....? と思わず舌打ちしそうになった

月が消えるのに気付いた。 電波かよ、 と担任の行動に呆れるが、 一瞬水面に映った三日

ええ~!?」

視界から外したネギが携帯かたてに驚愕をあらわにして叫んだ。

その声に心臓が跳ねたが、それ以上の驚愕が千雨を襲う。

メー ウン色の瞳に映ったモノは、 ズドンッ!! トルぐらいから落ちた衝撃か、計算するとどれぐらいだろうか そんなどうでもいいことが脳裏の隅に浮かぶ中、 とハンマーを打ち付けたような着地音。 闇夜に佇む異形だった。 千雨のブラ それが何

影のその気持ち悪さに顔を青くして口許を右手で覆ったが、 その本来の姿が月明かりに照らされた。 頭部が異様にデカく、 身体は人間とほぼ同じ程度という化け物。 すぐに

サルだった。

ンズを磨いて掛け直す。 八ツ、 んなバカな.... と鼻で笑った千雨は眼鏡を外して服でレ

やっぱりサルだった。

たしか、 の口には眼鏡をかけた二十代後半の女性..... 呆れ混じりにため息が一つ零れた。 電車内で売店をやっていた女性だったはずだ。 よく見ればキグルミで、 しかも見覚えがある顔。 サル

そこで一つ疑問が浮かぶ。

香を横抱きにして不敵に微笑んでいるのか.....? 何故、 その無関係であるはずのサル女が、 気絶している近衛木乃

こ、このかさん!?」

た木乃香を凝視したまま思考を巡らせた。 ネギの声が遠く聞こえる。 千雨は真剣な表情へ移行すると気絶し

上げ憐れみを含んだ視線を彼に向け言った。 だが、 答えはすぐに提示される。 サル女はネギを見て片頬を吊り

さまを拉致出来ましたえ」 かわいいかわいい魔法使いさん。 あんさんのおかげで簡単にお姫

ツ このかさんをどうするつもりだっ

るとええどす」 さぁて、 あんさんには関係ありまへんので.....ここでもたついて

呆気に取られて眺めていることしか出来なかった。 魔法使い? お姫さま? 空想染みたその言動に千雨はただただ

ネギに撒き散らすと、またしても常人には不可能であるはずの跳躍 で去っていく。 押し問答のような会話を交わす二人。 言葉を切ったサル女は符を

ま、待てっ!」

に纏わりつきその身体を束縛する。 であったモノはいつの間にか小型のサルへと姿を変え、ネギの身体 ネギの静止の声もむなしくサル女の背はどんどんと遠ざかる。

常識を完全にぶち壊すやり取りに、 思考は追いつかない。

ただ、一つだけ理解できたことは、

クラスメイトが攫われたということだけだった。

千雨は息を殺し、現状を省みる。

ない。 話からしてお姫さまというのは近衛木乃香であることに間違いは

由は会話からは見当もつかない。 何故近衛がお姫さまなのかは今は置いておくとして、 攫われた理

工が何度助けに行ったか分からないほどに。 確かにお姫さまというのは悪役に攫われる役がほとんどだ。 配管

を助けにいくというわけか.....) (そして、 我が担任が魔法使い《主人公》として攫われたお姫さま

サルと格闘しているネギをじとりと眺めた。 を期待しているんだあのサル女.....、 笑いを通り越して怒りがこみ上げてる。 と千雨は未だあたふたとチビ たった10歳のガキに何

力にでも頼るか.....、 ネギが頼りになるとは微塵も思っていない。 と千雨はネギから視線を外し、 やはりここは国家権 携帯を取り出

だが、 番号を押す前に、 少女の声が闇夜に響き渡る。

「ネギ先生ッ!」お嬢様は!?」

ま頭上を仰ぐ。 を引き摺っているような摩擦音に、 切羽詰まった少女の声と、 遅れて聞こえてくる足音。 飾り気のない待ち受け画面のま そして何か

ギに纏わりつくチビサルを右拳で殴り飛ばした。 反という規則を知らない 違和感バリバリにその存在を誇示する。 ずざざっ、 とアスファルトの上を滑るようにして黒髪の少女がネ のか、その小柄な身長と同じぐらいの刀が 左手には銃刀法違

感情を表に出さない人間だと千雨は認識していたが、今の彼女は肌 蹴る浴衣も気にせず、 いる。 ルに半分だけ額を露出した髪型の少女だ。いつだろうと冷静で、 出席番号15番、 桜咲刹那。 怒りという牙を剥き出しにして辺りを見回し 同じくクラスメイトであるサイドテ

回しそうなほどに鬼気迫る表情で遠くを睨みつけていた。 闇色の瞳は極限まで開かれ充血し、 今にも辺り構わず真剣を振 ij

同じ京都ではあっ お嬢様? たはずだけど) アイツ、 近衛と接点なんてあったか? 出身地は

乃香の柔らかい性格からいって友達ならばクラス内で会話がないと かしたら自分の知らないところで会っていたのかもしれないが、 いた場面は浮かんでこない。 元々千雨は人付き合いは苦手だ。 いうことはあり得ないはずだ。 今までの日常を振り返っても、 千雨の脳裏に刹那が木乃香と共に もし 木

すみませんっ 逃げられました。 今すぐに追いかけましょう!

ある小さなステッキのようなモノを取り出す。 懐から魔法少女が持っていそうな、先端に土星がモチーフの飾りが 0歳の少年に しては正義感溢れるはっきりとした宣言と共に、

どうか理解できているのだろうか.....。 誘拐犯相手に物怖じしないのは称賛にあたる。 が、 それが蛮行か

香さんを助けないと..... 一応僕の魔力追跡で向かっている場所は分かります!

落ちつけ」

ぽんっ、 はやる気持ちを抑えられない様子で今にも駆け出しそうなネギに、 と頭に手が乗る。

う 感情の色を消した静かな声。 新たな人物の出現に千雨は視線を向けた。 遅れて耳に届い ていた足音の主だろ

風に揺れ小さく音を鳴らす鈴のアクセサリーで髪をツインテールに には60円程度で買えそうなアイスバーの棒が覗いていた。 している。 一番先に目がいくのは、 ネギと同じように浴衣の上から半纏を羽織っており、 何故か透明に感じる左右の色の違う瞳。

神楽坂明日菜。

た。 しかしどこか優しげな雰囲気でネギの頭をクシャクシャと撫でてい 左手には布のようなモノを握り締めている。 感情の見えない表情が

アスナさん.....」

ん。桜咲も落ちつけ……アイス食べる?」

ぁ どうも。 .....って落ちつき過ぎですよアスナさんっ

出されたアイスを口に含んだ刹那は、 に慌ててアスナに詰め寄る。 先ほどまでの激情を消して、 きょとんとしたままアスナから差し 一齧りすると思い出したよう

乃香だって助けられないわ」 慌ててどうにかなるなら慌てるけど? ...... 冷静にならなきゃ木

ないのに小さく頷く。 確かに神楽坂の言うとおりだ、 と千雨は自分に言われたわけでも

゙で、ですが....ッ!」

想させた。 を噛み締め、 のようで、 頭で分かってはいても、 触れれば問答無用で斬れてしまいそうな抜き身の刀を連 左手で白鞘を握り込む。 それを実行するのは難しい。 彼女の放つ空気が鋭利な刃物 刹那は奥歯

へ放り投げ、 それを横目に捉えつつ、 静かに呟いた。 アスナは完食したアイスバーの棒を虚空

ヤツ潰して月見酒と洒落こみたいわ.....」 ま、 ここで問答してても意味ないし。 とっとと木乃香攫った

放った。 そう言うと、 アスナは左手に握っていたモノをネギと刹那の前に

むぎゅう.....っ」

と刹那の目が点になる。 潰れた声。 アスナが無造作に放り投げたモノを視界に収めたネギ

どっからどう見ても人だ。

なく乱れてしまっている。 アスナに襟首を掴まれていたからか、 身に纏った浴衣はあられも

目であった金色の瞳は漫画のようにグルグルと渦を巻いて、 と共に地面に仰向けになったまま身動き一つ取らない。 腰辺りまで流れる金髪は砂埃やらで汚れて酷い有様だ。 呻き声

り行きを見守った。 その様子に流石に呆れることも出来ず、 千雨は頬を引き攣らせ成

ほ、焔さああああんつ!?」

ら彼女の身体を揺らして叫んだ。 アスナにここまで引き摺られてきた焔に、 ネギは涙目になりなが

ている。 転校してきたばかりだというのに何かと彼女に使いっぱしりにされ ことが多々ある。 気の毒過ぎるクラスメイト。 千雨も毎回そんな様子を見ていたが、 アスナに弱みでも握られているのか、 不憫過ぎて同情した

込めて何度か話したこともある。 名前である彼女。 いって珍しいわけでもないが、何かと振り回されているから同情も 禍福焔とフランス人形のような容姿でありながら完全に日本人のかふくほせら クラスの中にあらゆる人間が存在するからこれと

言っていた焔の様子を思い出し苦笑する。 大抵愚痴だったがな.....、 と千雨は涙目で神楽坂明日菜の文句を

あ、あの.....なんで禍福さんが」

ん? .....いつまで寝てる」

線で気絶してい 刹那の戸惑い の一言も無視し、 る焔を見るアスナは、 じとーっと効果音が付きそうな視 パチンッ、 と指を鳴らした。

瞬間、

ぶほぉぉ!?」

ひ、ひでえ.....」

千雨は本能的に後ろに足が下がる。 となんだろう。 水が一体どこから出てきたのかも気になるが、 ドン引きというのがこういうこ 仕打ちが酷過ぎて

形のごとくゆっくりと立ち上がった焔は、 出来あがった水溜まりの中心で、ギギギ、 と油の切れたブリキ人

・ごふっ.....

んだ。 と口から大量の水を吐き出すと、アスナを涙目のまま睨みつけ叫

あ!?」 貴様は私を殺す気かァァ ああああああああああああああああ

うとするが、 あまりにも悲痛な叫び。 それを擁護する気か、 ネギが何かを言お

「.....大丈夫。まるで問題ない」

アスナはバッサリと切り捨て顔を背ける。

一瞬ぽかー hį と口を開けた焔だったが、 途端に怒りが怒髪天を

どっこいか。 拳だけが飛んできて気絶させられて、 ゆうことだァァ ああああああああッ!! を見るんだ....ッ! クチャ怖かったんだぞ!? 周りの目がぎょろぎょろと全部私の方 にいきなり現れたと思ったら変な亜空間に放り込んで!! 「ふざけんじゃないわよォォ! とにかく鬼か貴様はッ! 精神ダメージ半端なくて.....。 しかも貴様の 人がお酒飲んでうとうとしてた時 挙句の果てに水責めってどう 栞よりひど..... メチャ

あ、あの、禍福さん。お、落ちついて」

貴様は黙ってろ半でこ侍! ジャンプでも読んでろっ

スナと焔の間をオロオロと動いているネギを置いて、 バーヒートしていくが、 一人唖然と「は、 半でこ.. アスナは完全に無視して取り合わない。 と呟いて肩を震わせる刹那と、 焔の怒りはオ ア

それに余計に腹をたてた焔が咆哮した。

ア つ ああああああ ンジェルとの戦闘に駆り出されたんだぞ! おわるせか 毎回毎回毎回毎回私を扱き使っていい気になっているんじゃない 私は貴様の盾か!? この前なんて訳も分からずダークエヴ い』喰らわなきゃならないんだァァ ああああああああ しかもなんで私だけ

《ロリババア吸血鬼》 との思い出.....ぷらいすれす」

体焔は何を思ったのか余計に顔を赤くして叫んだ。 自分で言って無表情のままぶふっ、 と笑いを堪えるアスナに、

そんな思い出を命で買うバカいるか!!」

\_ ....\_

私を見るなアアあああああああああああああああ

さく歪んでいるため、 地団太を踏む焔を見つめるアスナ。 弄って遊んでいるだけだった。 無表情にも見えるが口許が小

れ気味に眼鏡を外すと、右手で口許を覆う。 というか、こいつら近衛のこと忘れてねぇか..... と千雨は呆

視した。 ナとサル女が向かった先を交互に見るネギを、 感情のスイッチを切り替えたように表情を変え、 鋭く細めた両眼で凝 アタフタとアス

バチリ、 と磁場が歪む。

《早く木乃香さんを助けにいきましょう!

硬直したネギから放たれた言葉に、 ぴたりと三人が動きを止めた。

......行くわよ」

「はい……ッ」

はいはい」

性まみれで頷く焔。硬直したネギを置いて三人はすぐにサル女が向 かった先へと駆け出した。 アスナの言葉に気合いの入った声で応える刹那と、肩を落とし惰

ぁ あれ? ぁੑ ま、 待ってくださいよぉぉぉ

ふと硬直を解いたネギは、 慌てて三人の後を追いかけ始めた。

..... ふぅ。 さすがに首が痛ぇな.....」

眼鏡を掛け直し、 橋の柵に寄りかかり、パキパキと音の鳴る首を回す。 サル女を追いかけてった四人の背を見つめる。 外していた

すでに警察に連絡する気は起きなかった。

禍福焔がいれば、あれぐらいの誘拐犯なら問題もなさそうに感じる。 ない神楽坂明日菜。 わからない称号を持っている桜咲刹那と、不安感をまるで感じさせ ネギだけではアレだったかもしれないが、 そして、空気からして常人とはかけ離れている 武道四天王だとか訳の

がこの事態に気付いていないはずがない。 ついでに言えば、 引率としてついてきている神上天覇という教員

だから。 付けてしまうタカミチ・T 《広域指導員》 として麻帆良で起こる騒動のほとんどを一人で片 ・高畑と肩を並べるほどの強者らしいの

持ち悪くて耐えられないが.....。 あの舐め回すような視線が千雨には気に入らない、 というより気

わざわざ非常識に足を踏み込むことはない。 して生きていけばそれでいい.....。 そう、 何も問題ない。 自分が行動しなくても、 いつまでも常識に埋没 問題は解決される。

なのに、

「なんで私は走ってんだ.....?」

気がつけば、千雨は地を蹴って四人の背を追っていた。

その背に、 人の少年が重なって見えて、千雨は目を見開き、

「そっか....。 そうだな、お前だったら何も考えずに走り出すよな」

そう呟いて、小さく笑った。

to be continued

ちーさーめー w w w

マイふぇいばりっとネギまキャラでう。

ります。 愛がゆえの魔改造。 少なくとも一人の少年が主人公になったあとwww だが、その能力の説明はきっともっと先にな

そしてもう一人の魔改造アスナ.....なんだこりゃ (泣)

暴走しやがった.....。 もっとクールな感じにするつもりだったの

に

さーて、次回は早めに更新したいなぁ。

無理だね レポート三十枚とか死ぬし

次回。一言だけで.....。

## Part12 傍観者 三十步圏内 (前書き)

月詠の強さに惚れて神鳴流を習い始めました! るまで月詠の強さはこのぐらい (嘘) という人が出てく

月詠の強さはこの時点ではどのくらいなのでしょうか?

毎回の如く駄文、散文、注意です。

やはりシリアルや戦闘は作者には難しい。 頑張らないと。

# - art12 傍観者 三十歩圏内 (2)

......やっぱりオマエのじゃんけんの強さはいじょーだよなー」

今でもたまに、夢を見る。

ね! 「へへへっ。 じゃんけんだったらねーちゃんにだって負けないモン べんきょーじゃ絶対勝てないけど!」

やれば出来るんだよっ」 「自分で断言すんなってば.....。 オマエはアタシの弟なんだから、

幼い頃の、ほんの一時。

「だってオレちょとつもーしんだし!」

「意味わかってないだろ。 ソレ」

「まぁな!」

薄れる記憶の中で、

威張んな! もうちょっと『考えろ』!」

んに任せたっ!!」 んみたいに頭よくねーんだからさっ!! 「出たよ。ねーちゃんの『考えろ』! オレはいーの! 考えんのは全部ねーちゃ ねし ちゃ

「オマエなぁ!」

「あははははははっ!」

「たくっ……しょうがねーヤツだ」

覚えているのは、春のような.....そんな笑顔。

どんどんと離れていく。 一般人が逸般人に追いつける道理はなく.... 追い続ける背中は

法か、 もない跳躍で数メートルを縮めていて、 桜咲刹那は一足飛びの要領でオリンピックの走り幅跳びなど目で まるで地を滑るかのように速度を上げる。 神楽坂明日菜はどういう手

逸脱した行為を繰り返していた。 禍福焔など一歩ごとに掻き消え、 数メー トル先に出現するという

そんな異常共と、ネギ・スプリングフィー ルドも同様。

っていた。 我が担任は身の丈異常の杖の上に跨り、 同程度の速度で夜空を走

(魔法使い....ねぇ)

そんな、 に ファンタジーならばありきたり。 長谷川千雨は忌々しげに眉を顰めることしか出来なかった。 現実が目の前の光景に硝子のように打ち砕かれていくこと だが、これは幻想ではなく現実。

理矢理開く。 千雨は焦って携帯を取り出し、 折り畳み式の携帯を右手のみで無

言っているようなもの。 ことなどないはずだ。 現時刻零時ジャスト。 なのに逃走に電車を使うなど捕まえてくれと だが、 例え深夜であろうと駅から人の影が消える 利点はある。

ど出来ないだろう。 出来てしまう。一般人に紛れ込んでしまえば容易に見つけることな ような女子中学生など、長身でさえなければ簡単にカモフラージュ あのサル女たらしめるキグルミを脱いでしまえばいい。 木乃香の

ら存在しなかった。 だが、 予想を裏切って伽藍洞。 駅の構内には人っ子一人、 駅員す

人の背中をなんとか見つけた。 千雨は視線を巡らせ、 改札を飛び越えて駅の奥へと進み続ける四

その様子に思わず声が漏れる。

゙.....おいおい。無賃乗車かよ」

だが、 々切符など買っていたら追いつけなくなることもまた事

こかで思いながらも、 誰にもバレませんよーにっ! 千雨も地を蹴って改札を飛び越える。 つー かバレたらヤバくね? لے

「お、おっと.....あぶね」

失敗しそうになり体制を崩しそうになる。それをなんとか持ち堪え、 千雨は速度を緩めずに駆ける足を止めなかった。 体力がすり減っている中余計なことを考えていたせいか、 着地に

た。 アへと駆け込まんと足の回転を早める。 雨は切れる息を無理矢理整え、最後尾の車両の閉まりそうになるド 向かった先には、 すでに四人はサル女を前の車両へと追いつめているようで、 今まさに発車しそうな電車がベルを鳴らしてい 千

視して息を詰める。 滝のように流れ落ちる汗が目に入り視界を歪ませるが、 それも無

を変える。 《乗れるか》 無駄足となるか、 か《乗れないか》 結末を見届けるか..... .....二分の一の確率が千雨の行動

「所詮二分の一だ。必ず、《乗れる》……ッ」

と突っ込んだ。 二分の一だけを信じて力強く地を蹴り、 千雨の眼鏡の奥の両眼が鋭くドアを凝視した。 閉まりかけの電車のドアへ 必ず乗れるという

にして車内へと転がりこんだ。 雨だったが、 ガダンッ!! それを気力で抑え込み、 と右肩がドアへ衝突する。 ドアに体をねじ込ませるよう 痛みで表情を歪める千

の床に座り込んだ千雨は、 すぐさまドアは閉まり、 右の肩口を押さえた。 発車する。 ゆるゆると振動を始める電車

はぁ、はぁ.....疲れた。しかもいてぇ.....」

整えようと無理矢理息を深く吸う。 腰が抜けたようにズルズルとドアにもたれた背が汗で滑る。 息を

雨は、 揺れる車内をぐるりと見回しつつ、 ぜーぜーはーはーと荒い息を隠さない。 人目がないことを確認した千

や捕まるとは思えねーし。 無難か」 あいつ等は前の車両か.....。 ...... 買喰らうぐらいならここにいた方が まぁ、 どうせあのサル女は車両内じ

つ伏せのまま寝転がった。 というか.....疲れて動けん、 と千雨は這いずるようにして席にう

分の運動をした気がするほど体が重い。 り出してからもう十分以上も経っている時点で千雨にとって一週間 で持っただけでも上出来だろう、と胡乱な瞳で携帯を見つめる。 インドア派の体力なんてマラソンすればすぐさま尽きる。

電車降りてまだ走るようなら.....帰ろ。

そう結論を出した千雨は携帯を放り出し、 顔を伏せた。

· · · · · · · · · · · · ·

が見えた。 瞼の裏で、 翅の生えた『幸福』 がドコかに飛んで行ってしまう幻

き、千雨は半分沈みかけていた意識を覚醒させた。 電車のブレーキ音と共に、 扉を吹き飛ばしたような轟音が耳に届

イミングを見計らったように電車が駅へと止まる。 体を起こし、固まった関節をほぐすため腕を回し立ち上がるとタ

の咆哮が聴こえた。 続けざまに大量の水が駅の構内を水浸しにし、そして、 桜咲刹那

女子中学生が出せる声じゃねーよな」

で は出発する。 ゆったりと駅に降りると、すぐに自動でドアは閉まり、 水を叩く音が複数駅に反響していた。 すでに誘拐犯と四人は追い駆けっこを始めているよう 無人列車

が丸分かりだ。 やはりこの構内にも人はいないようで、 どこへ向かっているのか

に水が跳ねないようにゆっ とはいえもう千雨に駆けるほどの気力はなく、 くりと歩を進めていく。 ただただジー

゙......さてと、非現実ってもんを見に行くか」

バカにするような声のわりに、 やはり足取りは重かった。

(現実をぶち殺す.....いや、幻想だっけか?)

に適合した台詞になってしまったが.....。 人公の決め台詞が脳裏に浮かんだ。うろ覚えだったせいで今の現状 最近取り寄せた、 麻帆良の本屋では見かけないライトノベルの主

気分だった。 そんな台詞通りに、 長谷川千雨の現実はこの光景にぶち殺された

の外へと向かう大階段。 追走劇はいつの間にか終わりを迎えていた。 構内を潜り抜け、 駅

対峙していた。 上の踊り場で不敵に佇む女と、 下で各々に構えるクラスメイトが

目まぐるしく変わる戦闘風景.....凄まじいの一言だった。

ば なく消し飛ばした。 誘拐犯の女が投げた符によって大文字焼きが突如出現したと思え 担任が聴き取れない呪文を唱え烈風が巻き起こり、 炎を跡形も

ばし、 るい石畳を砕き、 指を鳴らすことでサルの首を切断する。 サルー、 ダブルツインテールがクマの頭部を爆発で吹き飛 と自らの種族を叫ぶ巨大なキグルミが剛腕を振

は再生機能付きや! ガキ共のくせになかなかやるやん。 だが、 その猿鬼と熊鬼

のように頭部が再生していく。 言葉通りにサルとクマの頭部は吹き飛ばされたにも関わらず風船

の矢のような『魔法』 そのおかげでダブルツインテールは足止めされ、 は木乃香を盾に軌道を逸らされる。 担任が放っ

唯一足止めを喰らっていなかった桜咲刹那だったが、 あと数メ

えることになった。 トルのところで横合いから飛び出してきたゴスロリ剣士と刃を交

実染みてはいるが、 明らかに一般人が飛び出していける光景ではない。 もはや戦場と変わりない。 非現

白刃の煌めきが、ネギの放つ摩訶不思議な力よりも、 しくて仕方がなかった。 一番死を真近に感じる刹那とゴスロリ剣士の剣舞。 千雨には恐ろ 闇を切り裂く

喉が渇く。 寒気すらするのに、 汗がとめどなく流れ落ちる。

なのに、目が離せない。

気配を圧し殺してその舞台に視線を注ぎ続けた。 千雨は階段横の稼働していないエスカレーター の段差に身を預け、

## 京都神鳴流・奥義.....『斬岩剣』

上段斬りだ。 複雑な動作で放つ技ではなく、 簡単に言ってしまえばただの片手

度、そして切れ味を極限にまで高め、 を繰り出す。 打ち合いには不向きである日本刀に己の『気』を張り巡らせ、 名の通り岩をも斬り裂く斬撃

技でもあるが、 神鳴流に属する桜咲刹那も、 その使い勝手の良さから多用する剣

ざんがんけ~ん。重ね弐刀斬り!」

いほどに、 振り下ろされた二刀の白刃は、 重く響いた。 その細腕から放たれたとは思えな

刹那は己の放つ斬岩剣よりも重い剣に思わず顔を歪め、 あまりの

威力に痙攣する右手から左手に愛剣を持ち替える。

丈ほどの刀身を持つ。 野太刀《夕凪》 青山詠春から託されたこの刀は、 刹那の身の

た。 細身でそれを自在に操る刹那は、 神鳴流の剣士の中でも、 それなりの実力を備えている。 血の滲むような訓練を積んでき

な差が刹那と月詠にはある。 だが、 相手も同じ神鳴流。 剣技の冴えも同程度。そして、 決定的

それは、『斬るべき対象』

魔が、『人』か。

9

流相手には分が悪い。 とした剣で、 元々野太刀は儀式用.. 対人戦を前提にしている小回りの利く太刀短刀の二刀 魔』 を斬るための剣だ。 対魔戦を前提

舞に、 まるでワルツを踊るような動きで合間なく白刃を振るう月詠の剣 刹那は夕凪を盾にして防ぐので手一杯だった。

やあ、た—。 ほう~ 」

「ぐ……ッ」

に 気の抜ける声を出していながら全て急所のみを狙う月詠の剣の嵐 刹那は奥歯を噛み締め夕凪で弾き続ける。

として届かない。 たい人、護らなければならない人がいるというのに、 じりじりと後退させられてい 月詠を越えた視線の先には護り この手は依然

断ちにいったというのに、 焦りが募り、 無理矢理振り抜いた夕凪は、 月詠の首を躊躇いなく

集中せんと、死にますえ~」

夕凪は空を斬り、 姿を消した月詠の声は背後から響いた。

背筋を蛆虫が這うような怖気を放つ月詠の殺気に、 と刹那の体が震え、反射的にその場でしゃがむ。 ゾクンッ

出現した。 瞬間、 頭部があった空間を貫くようにして一本の刀による突きが

よぉ躱しましたな~

### やけど、 しゃがむんは追撃かけるのにもってこいや。

まま一刀を振り下ろす。 そう嗤った月詠は狂気に歪めた表情のままに突きの態勢からその

足を鋭く払った。 咄嗟に刹那は右に転がって躱しつつ、 投げ出した左足で月詠の両

「おろっ?」

まま後ろに倒れそうになる。 反撃がくると思っていなかったのか、 月詠は頭に疑問を浮かべた

を籠めた右の掌底で月詠の鳩尾を叩き抜いた。 出来た隙を逃す意味はない。 獣のように体を跳ね上げた刹那は気

空閃掌ツ!!」

間違いなく死を招く。 識を失うのが当たり前の技だ。 ダメージを与える『空閃掌』。 手のひらに集中させた気をゼロ距離で掌底と共に爆散させ相手に 威力は申し分なく普通の敵ならば意 ましてや下は石畳。 頭から落ちれば

普通ならば。

モロに喰らったはずの月詠だったが、 石畳に頭を叩きつけられる

つくつと笑いつつ、 痛みで表情を歪めているかと思えば、 二刀を構え直した。 本人はケロッとしており、

ましたえー」 「なかなかのキレやったな~。 思わずガードせずにモロに喰らって

ツ ! わざと喰らったとでもいうのかっ!?」

わざとやないです。 虚を突かれたんは事実やして

でもまぁ、と。

弱っちくて受けた感じもせんかったわ」

 $\neg$ 

 $\neg$ 斬空閃』 瞬間沸騰しそうになった刹那だったが、 に意識を戻し、 右手に戻した愛剣の柄を強く握り締める。 無造作に放たれた月詠 の

首を薙ごうと飛来する真空の斬撃。 中れば間違いなく首がトぶ。

地を舐めるように疾走する月詠が、 かといって刹那に躱すという選択肢はない。 右一刀を刹那の喉に据えている。 真空の斬撃に追随し、

閃光の如き刺突を避けるのは、 一度で充分過ぎる綱渡りだ。

石畳が踏み込みの力で砕けるほどに気を漲らせ、 上段へと高く振り上げ、 ぐっ、 と地に根を張るように膝を傾け、 そのまま上体を前へ倒す。 右で握った夕凪を

· 斬岩

夕凪を振り下ろした。 真空の刃を間近まで引きつけ、 斬撃と共に月詠を叩き潰す勢いで

剣ツ!!」

·む、我流 昇魚りゅー」

げる反動を利用して掬い上げた。 詠だったが、 真空の刃を消し飛ばした刹那の剣。 咄嗟に反応し、 逆手に握った左の短刀を上体を跳ね上 それに一瞬速度を落とした月

踏み込みで石畳が砕け飛ぶ。 の刃が拮抗する。 ぎゃ り ん 辺り一帯に衝撃波が撒き散らされ、 と歪に噛み合った歯車のように、 上段の刃と下段 刹那と月詠の

ぐ……ッ! いい加減に邪魔だ月詠ッ!!」

まーそう言うてもな~。 お仕事やし、 それに愉しいえ~

. 戦闘狂が.....ッ!」

吐き捨てる刹那は、 さらに夕凪に気を込めて月詠の刃を押し返

す。

させた。 Ļ と口で言いながら体をぐりんっ、と一回転させ右の太刀を一閃 それで体勢を崩しよろよろと後ろに下がる月詠だが、 おっとっ

締める右手。 三日月に似た軌道を描く鋭い斬撃の狙う先は、 夕凪の柄を握り

はそれを見切りバックステップで軌道圏内から逃れる。 ご丁寧なことに親指のみを付け根から吹き飛ばす軌道だ。 刹那

それでも刹那は苦虫を噛み潰したように眉間にシワを寄せた。

あったのならば、 もしも、 これが大切な人の命の懸かった死合でなく、 刹那は月詠に惜しみ無き称賛を贈っていた。 ただ試合で

躊躇いのない太刀筋。 縦横無尽に放つ斬撃。予測めない動き。

がした。 これで戦闘狂の気がなければ、完成された剣士と言ってもいい気

敗ける気は、ない。

でも、勝てる気が、しない。

握り直す。 脳内で弾き出された答えを脳の奥底へと追いやり、 刹那は剣を

邪魔をする月詠への殺意。そして、不甲斐ない自分への憤り。

が出来ないこの感情をどうにかしたくて、 戦闘において冷静でなくなった者は死ぬ。 だが、 抑えつけること

## 刹那は構えなど関係無く、 上段から夕凪を振り下ろした。

が捲れ上がり、 ズガンッ 衝撃で飛散する。 とハンマーで撃ち抜いたような轟音と共に、 石 畳

が自らの気で蒸発し、 振り下ろした状態のまま、 白煙のようだ。 荒く呼吸を繰り返す刹那。 流れ出る汗

腹がたつ。私は、こんなに弱かったのか?

ヤニヤと頬を歪め呟いた。 そんな刹那の感情を嘲笑うが如く、 月詠はピタリと止まると、

ん~、焦れば焦るほど剣が鈍る人やなー」

を肩に添え、 トントン、 視線をわずかに後ろへ向ける。 と月詠はつま先で石畳を叩く。 右手に握った太刀の峰

香がいる。 視線の先には未だに気絶したままで陰陽術師に担がれている木乃

のはどす黒い殺意だった。 ただそれだけ。 ただ視線を向けただけだというのに、 湧き上がる

チラッと見ただけやのに、 そないなドロドロした殺気吐き出すん

斬ったらどうなるんやろ~な?

那にのみ向けていた殺気が背後の女にまで伝わったのか、 青くして一歩退いた。 グチャリ、と三日月を描く口許。 月詠の瞳孔が拡がっていき、 女は顔を 刹

だが、どうでもよかった。

「月詠い ١١ しし 61 ۱ ا ۱ ا 61 11

破裂する思考。噴き上がる気の圧力。

視界の中瞬動で月詠の懐へ一直線に飛ぶ。 下段に構えた野太刀の切っ先は石畳に突き刺さり、 刹那は燃える

上げ、 踏み込みの衝撃で石畳は爆散し、 気と重なり合い刀身に炎を灯す。 切っ先は石畳との摩擦で火花を

がら、 散らすほどの熱を放つ刀身は、 神鳴流秘剣『燈』 月詠目掛け、 右斜め上へと振り抜く。 灯火という技でありながら人体を楽に燃え 石畳を抉りつつドロドロに溶かしな

に右足を僅かに引くだけでそれを躱す。 常人では目視すら出来ない剣速。 なのに、 攫えたのは一房の髪のみ。 月詠は表情一つ変えず

度まで引き戻される。それでも月詠に一太刀入れたくて、 ら関係なく刹那は我武者羅に夕凪を振り抜いた。 一閃に込められた炎はすぐさま飛散し、 熱くなった頭も一瞬で零 もう型す

届かない。

縦横無尽に閃く白刃も、 月詠はスルリスルリと掻い潜る。

届かない。

斬岩剣。 7 斬鉄閃』 『百烈桜華斬』 雪光剣』 『百花繚乱』 9

燈

受け流され、 弾かれ、 相殺され、 押し返され、 躱され、 防がれる。

届かない....ッ!

狂気に染まっていた瞳は、 月詠の表情が変わる。三日月のような笑みは消え、 暗く 引き絞られ、

すでに、刹那を見ていなかった。

がれ、 なほどの握力で、思わず刹那の口から呻き声が漏れるが、 ガキンッ!! 一瞬のうちに右手首を掴まれた。 ギチギチと骨が潰されそう と袈裟掛けに振り下ろした夕凪は月詠の短刀に防

いい加減飽きたわ」

ポツリ、 と月詠の口から洩れた言葉は、 終わりの一言だった。

視線を向けると、上段に振り上げられた太刀は雷を纏ってた。 バチバチッッ と爆ぜる轟音を聞き、 刹那はハッとし月詠へ

ゾッとするような無表情のまま、 月詠は呟いた。

もうええ、死ねや」

興味を無くされた。ただそれだけだった。

桜咲刹那は弱い。そう月詠に認識された。

力強く握り締められた右手を外す暇もない。 剣で防ぐ時間もない。

そして、 じゃない。 神鳴流奥義・雷光剣が、 何の備えもなしに受けきれるモ

無力だった。

このちゃん....ット

来な ただ、 目を強く閉じて、愛する人の名を心の中で叫ぶことしか出

こんとこ理解してるか?》 「《お前もコイツも完全に銃刀法違反ぶっちぎってんだけどよ、

そ

唐突に出来た隙だった。

動かし、 同じ口から漏れた声にバッと刹那は目を開けると、そこには口を 虚空を見つめたまま固まっている月詠がいた。

で解けた。 体に纏っ ていた大量の気は消し飛び、 気で編んだイカズチは一瞬

あまりにも無防備。 押さえられていた右手首の圧力も消えていた。

意識する前に体が動く。

「オオ」

く月詠へと、 気を右足に全集中させ、 ハッと意識を取り戻したように目を見開

**ォオおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおかッッ** 

月詠のガラ空きのボディー 全てを吐き出す咆哮と共に、 に叩き込んだ。 右回し蹴り 『神鳴流烈蹴斬』 を

**ご.....ッ**!?」

きれるはずもなく、 としたが、 咄嗟に月詠も太刀と短刀をクロスさせ、 気も何も籠っていない量産された日本刀で烈蹴斬を受け 刀身は瓦解し、 モロに喰らった彼女は後方へと 刹那の回し蹴りを防ごう

に 石畳を何度もバウンドし、 受け身も取れず転がっていく。 子供に放り投げられたオモチャのよう

咳き込んだ。 そのまま壁に叩きつけられ、 石畳の上にうつ伏せに崩れた月詠は

ルブルと震える右手で口許を押さえたが、 の間をすり抜けて石畳を黒く穢す。 ごぼっ、と月詠の喉から変な音が鳴る。 吐き出された血の塊は指 彼女は痙攣したようにブ

があった。 身も傷つけられてしまう。 予測できていた。 当然だ。 肺に突き刺さっているかは分からないが、 気も何も纏っていない生身で、 刹那にも月詠の肋骨を何本か折った感触 神鳴流の技を喰らえば中 血を吐くのは

な、なにが.....、どうなって、る、.....や?」

度も立ち上がろうとするが、 月詠は訳が分からないといった様子で茫然として呟く。 両腕では支えられず、 崩れ落ちる。 何度も何

あ、あんた.....いったい、なに、し」

バダン、 と月詠は石畳の上に倒れ込み、 動かなくなった。

......よぉ分からんが、無理やな」

ていた木乃香で視界が埋め尽くされていた。 呟きが耳に届いた刹那はバッと振り向くと、 すでに放り投げられ

「な.....ッ!?」

驚愕の声が出るが、 すぐに夕凪を放り捨て木乃香を受け止める。

いるといった痕跡はなかった。 抱き止めた木乃香の呼吸は安定していて、 何か呪いをかけられて

め息を吐く。 すぐさま刹那の傍に三人が駆け寄る。 皆も木乃香を見て安堵のた

んからな」 「とりあえず、 今回は退くわ。さすがに四対一やとウチじゃ勝てへ

「.....ふん。賢明な判断だこと」

月詠を抱える女の言葉に、 明日菜は鼻を鳴らす。

.....ほざけ」

最後に四人を見据えた女は一枚の符を取り出し、 そのまま陽炎の

.... 勝った。 護り切った、 んですよね?」

刹那は肩に入った力が抜けるのがよく分かった。

ネギの声に、

? 「にしても貴様、 あんなサル如きに足止めされるほど弱かったのか

クマ焼くことしか出来なかったアンタが言うな」

ぐ.....っ。 それを言うなら一々指を鳴らすなカッコつけ」

泣きながら瞬きしなかったドライアイが」

私のは魔眼なんだからしょー がないだろうがッ!」

夜は空間把握しずらいのよ.....」

無事だったんですから~!」 「ふ、二人とも、 喧嘩は止めましょうよ! せっかく木乃香さんが

に戻ってきている気がした。 てオロオロと止めに入るネギ。 なんだとォ! ..... なによ、 少し物騒だが日常が心地よい風と共 と喧嘩を始める焔と明日菜、

刹那は木乃香の顔へ視線を向ける。

安心しきったような寝顔に、思わず、笑みが零れる。

体にのしかかる戦闘の疲れも、 心地いいモノに感じられた。

ただ、

刹那は夜空を仰ぐ。

あの、 無理矢理他人の口から言葉を吐き出したような、 月詠

の言葉はいったい何だったのだろうか.....。

果音はこれぐらいしか浮かばなかった。 ガタンゴトン、ガタンゴトン。千雨には電車の駆動音につける効

背を預け、 無人の電車にただ一人。 腕を組んだまま瞳を閉じていた。 けれど座る気にはなれず、 千雨はドアに

見ずに逃げるように電車に駆け込んだせいで、 ずとも生活に支障は出ない。 眼鏡は後ろポケットに入れたまま。 チカラを使ったあと、その後の様子も 元々伊達眼鏡であるからかけ かける暇もなかった。

夢であれば、どんなによかったか.....。

いたであろう。 あの一戦。もしもチカラを使っていなかったら桜咲刹那は死んで 咄嗟の判断だったためすでにその時の記憶がおぼろげだ。 させ、 死ぬと確信したからチカラを使っていたのか

.....っつか、アレで相手死んでたら、 私のせいに、 なるのか?」

の耳にも届いていた。 刹那の蹴りのあと、 だから、千雨は恐くなって逃げ出したのだが。 相手のゴスロリ剣士の肋骨が折れた音は千雨

さな 私のせいじゃ ない。 断じて違う、 と首をブンブンと振った

重く刻まれた、 現実を喰い潰す、 ファンタジーという名の非現実。

に参っていた。 知りたくも見たくもなかったモノを見せつけられ、 千雨は精神的

### もう関わらない。

あんな人間から一歩踏み外したような領域に飛び込みたくはない。 いくらこんなチカラを持っていても意味がない。 それが、千雨が決めた非現実への対処の仕方だった。 凡人でいい。

た。 好奇心は猫をも殺す.....その意味が千雨にはよく分かった気がし

......あー。死にてぇ」

ため息と共に漏れた疲れ切った声は、 車輪の音にかき消された。

#### art12 傍観者 三十歩圏内 2 (後書き)

毎週レポート30枚程度だと、 り書く気力が出ない。 書く暇がないんですよね。というよ

しかも期末間近に何をやってるんでしょうか。

まぁ、 前回の更新が五月下旬だったので、凄まじい遅さなんですが。

待ってくれていた方、 申し訳ないです。やはり作者は書くのが遅い

次回は八月になるでしょう。 七月はもう無理かと。 テスト三昧に入 りますし。

文才、と時間が欲しい。レポート滅びろ。

次回。人形と転生者の戦い。序章。

# PDF小説ネット発足にあたって

ビ対応 行し、 公開できるように 小説家になろうの子サイ 部を除きイ 最近では横書きの F小説ネッ の縦書き小説 の縦書き小説 います。 ・ンター そん をイ を思う存分、 たのがこ な中、 ネッ 書籍も誕生しており、 タテ書き小説ネッ ト関連= 誰もが簡単にPDF形式 ネッ て誕生しました。 ト上で配布す 小説ネッ 横書きという考えが定着しよ てください。 トです。 既 存書籍 は 2 タ 0 いう目的の 07年、 の電子出版 小説を作成 小説が流 ンター

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。 http://ncode.syosetu.com/n8965r/

運命がぶち壊れた物語

2011年10月7日09時03分発行